RAKUNO GAKUEN UNIVERSITY

GUIDE BOOK 2021

酪農学園大学
公式サイト

RAKUNO GAKUEN UNIVERSITY

大学って、何をするところだろう？
みんなが行くから、行くところ？
就職のための通過点？

自分の「好き」をかたちにするところ

私たち酪農学園大学は、そう考えています。
それを次の5学類で追求し、日々実践しています。

「永続性のあるバランスの取れた農業」を目指す **循環農学類**
「食のスペシャリストと管理栄養士」を目指す **食と健康学類**
「環境と調和・共生する社会」を目指す **環境共生学類**
「臨床から先端研究までを視野に入れた獣医師」を目指す **獣医学類**
「高度化する獣医療をサポートするスペシャリスト」を目指す **獣医保健看護学類**

人間は好きなことに打ち込む時に、全力を傾けて努力します。
そして目標を達成した時に、深い喜びを感じます。
あなたが自分の「好き」に打ち込んで、
人格の形成という「かたち」に結びつけ
人生を切り開いていくことを
酪農学園大学のすべての教職員は全力で応援します。

contents

3 47都道府県から「夢」が集まる大学
7 酪農学園大学で学ぶことで
あなたの好きをかたちにできる理由
13 高校生の「好き」がかたちになります
27 建学の精神
28 学長メッセージ
29 教育基本方針
31 学群・学類紹介
33 基盤教育
83 国際交流
84 地域・企業連携
85 酪農学園大学大学院
86 酪農学園大学で教員を目指す
87 キャリアサポート
88 [CAMPUS LIFE]
キャンパス
部活動 クラブ・サークル
暮らし
95 オープンキャンパス
97 キャンパスマップ

35
農食環境学群
循環農学類

45
農食環境学群
食と健康学類

55
農食環境学群
環境共生学類

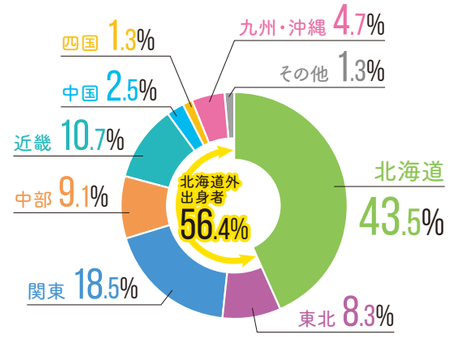
67
獣医学群
獣医学類

75
獣医学群
獣医保健看護学類

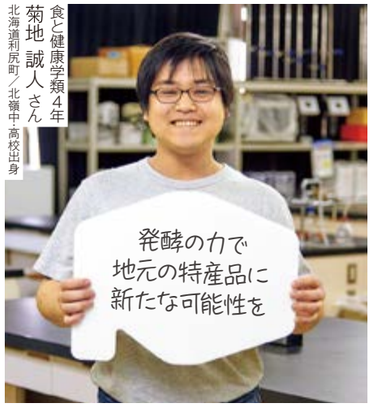
47都道府県から「夢」が集まる大学

日本全国から集まってくる仲間たち!
卒業後は各地に同じ「好き」を持ったつながりができます。

5割以上が北海道外出身者!!



※構成率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。



※学年は2019年度在学時の学年にて掲載。

あなたのなりたい『顔』はどれですか

これからはじまる大学生活を想像してみてください。

あなたは、どんな『顔』になりたいですか

真剣で夢中な『顔』

仲間と笑った『顔』

好きなことを楽しんでいる『顔』

ぜひ酪農学園大学で

なりたい『顔』になってください。

本場・北海道での体験があなたを変える

酪農学園大学で学ぶことで
あなたの好きをかたちにできる理由

実践酪農学実習
学外の酪農場で数カ月の長期実習を行う実践的な学習。酪農現場で受け入れ農家から学ぶ実習と、学内での講義（座学）を交互に行うことにより、〝現場の実際〟をより深く理解し、即戦力の人材を育成することを目的とする。

実践農学実習
学外の農家で10日程度の実習を繰り返し行う実践的な学習。畑作、特に施設園芸農家を対象に、〝現場の実際〟を実践的に学び、即戦力のある人材を育成することを目的とする。

浜中町
将来の夢は新規就農。実習で牛を見る目が身に付く

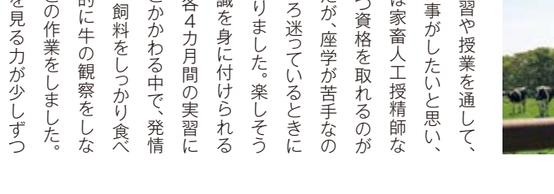
循環農学類 3年
笹嶋 由衣さん
北海道苫小牧市／北海道更別農業高校出身

私は高校の酪農実習や授業を通して、将来酪農に携わる仕事がしたいと思い、入学しました。最初は家畜人工授精師など酪農の現場で役立つ資格を取れるのが良いと思っていましたが、座学が苦手なので不安になり、いろいろ迷っているときに実践酪農学実習を知りました。楽しそうで、実際の現場で知識を身に付けられると思い、2、3年次に各4カ月間の実習に行きました。毎日牛とかかわる中で、発情期や体調の良しあし、飼料をしっかり食べているかなど、意識的に牛の観察をしながら、搾乳や掃除などの作業をしました。そうすることで、牛を見る力が少しずつ身に付いたと思います。将来は新規就農をしたいと思っています。本学は動物が好きな人には、とても楽しい大学です。

鹿追町
現場ならではの貴重な体験ができます

循環農学類 3年
佐々木 殉子さん
宮城県／宮城県古川黎明高校出身

私はオープンキャンパスで本学の活気に感動し、入学。乳牛研究会と放牧ネットワークに所属しています。2年次に4カ月、浜中町の酪農家で実習。搾乳頭数50頭規模、つなぎ牛舎の放牧農家でした。3年次にも4カ月、鹿追町の酪農家へ。搾乳頭数150頭規模、フリーストール牛舎です。実習を通して酪農全般の知識を学べたのに加え、分娩や傷病牛の処置や治療など、現場だからこその貴重な経験をしました。実習先の農家さんを始め、地域の方々と触れ合えたこともうれしいです。酪農家になり、消費者に清潔で美味しい牛乳を届けるために、牛たちが健康に過ごせる方法を現場で学んでいます。牛と過ごしたい、酪農にかかわりたい人には、ぜひこの実践酪農学実習をお薦めします。


現場ならではの体験

農家さんを支えたい

足寄町
農業改良普及員として農家さんを支えたい

循環農学類 3年
芦澤 弘基さん
山梨県／市川高校出身

私は大学パンフレットで実践酪農学実習を知り、長期の実習もたくさん経験できると思い、入学しました。1年次で酪農の基礎や牛の生態などを学びましたが、なかなか頭に入ってきませんでした。しかし2年次、3年次と4カ月間の実習に行ったことで、理解できるようになりました。教科書や授業ではイメージが難しかったことが、現場での経験で分かるようになったのです。経営方針の違う2カ所の牧場で実習させてもらったことで、いろいろな経営のやり方があることも学べました。また、コミュニケーション能力も付いたと思います。卒業後は農業改良普及員になって、農家さんの支えになりたいと思っています。実践酪農学実習は長期間で、知識や経験を得ることができて充実するので、本学に入ってぜひ履修してほしいですね。

大空町
農業を見る目が変わる体験！

循環農学類 3年
西片 かりんさん
新潟県／巻総合高校出身

私は高校生の時に参加した「サマーアグリキャンプ」（酪農学園大学の学生が主体となって、夏休み中に高校生と1週間農家体験をするというもの）が、きっかけとなり、本学へ進学を決めました。

2年次に参加した「実践農学実習」では、女満別の畑作農家さんにお世話になりました。期間は9月1日からの20日間。朝6時30分には畑に向かいます。私が主に担当したのはジャガイモの収穫。機械に乗り込んで、土から掘り出されたジャガイモの大きさを確認して、選別をします。

こうした体験から農業を見る目が変わり、時間をかけて粘り強く最後まで頑張る仕事のやり方に感動しました。

P7~12で紹介している実習先

※市町村名の後ろの（　）内の距離は本学から各市町村役場までの距離です。

酪農学園大学で学ぶことで
獣医学類・獣医保健看護学類
あなたの好きをかたちにできる理由

北海道の大自然があなたを成長させるキャンパス

獣医学群 獣医学類
病院実習専修コース（オホーツク）、生産動物医療クリニカルローテーション

遠軽町 湧別町 佐呂間町

獣医学類
生産動物内科学Ⅰユニット
田島 誉士 教授

本学は札幌圏に位置し、広大なキャンパスを有しているものの大都市近郊であるがゆえに、近隣の畜産農家は減少の一途をたどっています。実学教育を旨とする本学では、立派な“牛の獣医さん”を育てるために、実際の診療に参加する臨床実習を重視しています。しかしながら、大学が立地する環境は、多くの学生のニーズに応えるのに十分とはいえません。そこで本学から約200㎞ほど離れたオホーツク海側の遠軽町に、「酪農学園大学附属動物医療センター」を設け、そこに宿泊して現地で実習が行える体制を整えています。この地域は、畜産動物の数もそれに携わる人々も、さらにはそれらに関連する産業に従事する方々も、大学近郊より大きな規模で活動しています。また、獣医学類では、遠軽町、湧別町、佐呂間町にあるオホーツク農業共済組合の家畜診療所を活用して、生産獣医療に携わる獣医師とともに日常診療に参加するという診療実習を実施しています。大学で習得した臨床基礎技術や疾病関連知識を、実際の現場で、経験豊富な臨床獣医師とともに、応用する術を経験します。

爪の管理（削蹄）

整形外科処置

聴診

手術補助

子牛の診療中

獣医学群 獣医保健看護学類
総合臨床実習B

遠軽町 湧別町 佐呂間町

獣医保健看護学類
生産動物看護研究室
菅野 美樹夫 教授

獣医保健看護学類は、日々発展していく獣医臨床の現場で“チーム獣医療”を担うことができる高い知識と技術をもった「動物看護師」を養成することを目標に、2011年4月に獣医学群に新設されました。このような中、この総合臨床実習では、4年次に開講され、学生が将来の職業を見据えて学ぶことのできる実践的な実習と位置付けています。

牛の手術工程についてメモをとる

直腸検査

点滴の管理を学ぶ

人工授精業務の見学

オホーツク地域は、北海道でも有数の酪農地帯です。大規模酪農家も多く存在しています。このような地域に出向き、家畜に触れ、生産者とコミュニケーションを取り、獣医師へのアシストなど動物看護師としての素養を身に付けます。まさに獣医療の現場に身を置き“チーム獣医療”の一員として対応する感覚を養える実践的実習と言えます。学内の講義や実習には無い緊張感や、往診依頼された牛の刻々と変わる病態に対応すべくスピード感が身に付きます。人工授精業務においては、的確に発情適期を見つける手段を生産者やベテラン人工授精師から学ぶことができます。これからも実学を推進する上で重要な基盤である地域の家畜診療所や生産農場と連携して動物看護学教育を進めていきます。

獣医学群 獣医学類
生産動物医療アドバンスドコース、生産動物医療クリニカルローテーションおよび酪農学園大学附属動物医療センター通常診療

恵庭市

獣医学類
生産動物内科学Ⅱユニット
安藤 達哉 准教授

毎朝7時。酪農学園大学附属動物医療センターでは、生産動物医療分野に所属する学生たちによる入院および提供畜への診療活動が始まります。患畜の温かみ、息遣い、食欲や活気、そして昨日とは違う声なき訴えを感じ取る心の対話は真剣です。そして、「製品を消費者に届ける生産者とその原料をつくり出す牛たちが居る臨床現場でもっと痺れる勉強がしたい」の思いを叶えるために舞台は生産農場へ移ります。

医療センターでは、2018年度春から恵庭市において酪農業（経産牛頭数120頭、育成牛頭数100頭）を営む生産農場での、すべての獣医業務を請け負う試みを開始しました。人工授精、受精卵移植および定期繁殖検診、疾病牛への診療や外科的手術および蹄病等への処置、乳房炎、周産期病、そして子牛の呼吸器疾患などへの予防対策と、受け持つ業務は多岐にわたり、所属する学生は練習ではない真剣勝負に日々挑みます。診る、聴く、触る。直腸、尿、乳汁、血液そして糞便検査。超音波やレントゲンを使用した診断と治療。学生は現場の獣医療に触れながら獣医師とはどうあるべきかを体感します。第六感まで研ぎ澄ます貴重な時間と日々向き合い、生命の前に学びの終わりはありません。

先生より検査方法について学ぶ
安藤准教授

直腸検査

浦幌町

農食環境学群 環境共生学類
野生動物生態学研究室のフィールドワーク

野生動物生態学研究室
佐藤 喜和 教授

ヒグマの爪あと

定点カメラ設置

北海道の豊かな自然を象徴する野生動物、ヒグマ。最大で400kgを超える大型哺乳類が、今日もこの北の大地で悠々と暮らしています。一方で、農地に出没して作物を荒らしたり、市街地に出没して住民の安全を脅かしたり、稀に人身事故を起こしたりするのも事実です。後世までヒグマが暮らしていける環境を守りつつ、人の暮らしとのトラブルを減らすため、専門的な知識と技術を身に付けた人材が求められています。

そのためには、キャンパス内の座学や実習だけでなく、ヒグマの暮らす森を地形図とコンパスを片手に歩き、野生動物の痕跡を見分け、生態や動向を調査する方法を身に付ける必要があります。私たちは北海道十勝地方の浦幌町を調査研究拠点に、3年次から4年次にかけて各自がテーマを設定して卒業研究に挑みます。クマの生態や行動や個体群動態、森林や人の営みとの関係、そして人との共生に向けた課題の解決など、テーマは多岐にわたります。得られた成果は、大学内だけでなく、報告会などを通じて地域にも還元します。豊富なフィールドワークを通じて、野生動物の問題とその解決は人の課題であることを実感しながら、問題解決に貢献できる人材になるための一歩を踏み出します。

山の実り調査

標茶町

農食環境学群 環境共生学類
環境地球化学研究室のフィールド観測（釧路湿原）

環境地球化学研究室
吉田 磨 教授

豊かな自然と、人の生活を守るため、私の研究室では「グローカル」な視点で活動しています。これは、地球規模で物事を考えつつ、地域に根付いて活動するという意味です。

環境の急激な変化と生物多様性の喪失は、地域でも地球規模でも起こっている大きな課題です。近年では自然災害リスクとの関連も指摘されています。環境変化の原因は何か、どうすれば元の自然の姿に戻せるのか、そんな研究をグローカルな視点で「環境のお医者さん」になって解き明かしていきます。

ここに紹介する釧路湿原は日本最大の湿原です。国際的に重要な湿地を保全するラムサール条約に国内で最初に登録されました。湿原の中にあるシラルトロ湖には、かつては天然記念物として阿寒湖で有名なマリモも生息していましたが、水環境の激変で今では生息が確認されていません。また釧路湿原全体の面積も減り、そこに繁茂する植物相も変化しています。

自然環境保全と持続可能な産業の共生を目指して、北海道のさまざまな研究フィールドにおいて教育を展開している私の研究室では、キャンプ用テントに泊まりながら2、3日かけて「環境の診断」を行います。早朝5時、学生たちはベースキャンプとなっているテントから観測現場に向かいます。時には朝霧の中ヘッドライトを灯して黙々と機材を準備します。東京ドーム38個分もの面積をほこるシラルトロ湖にボートを浮かべて、北海道の大自然を感じる景色をご褒美に、今日も学生たちとフィールド観測は続きます。

シラルトロ湖でのフィールド観測

西興部村

農食環境学群 環境共生学類
野生動物保全技術実習

狩猟管理学研究室
伊吾田 宏正 准教授

環境共生学類では3年次に西興部村において、2泊3日の実習を行います。西興部村は村面積の約89%が森林で野生動物が多く生息しています。また、鳥獣保護法に基づく猟区としてエゾシカのハンティングが盛んです。本学はこの村と地域総合交流協定を結んでおり、学生たちは人と自然との共生について現場で学ぶことができます。冬期にはシカ猟に同行し、シカの解体やビームライフル・模擬銃を用いた射撃訓練、山スキーの実習も行います。

TOPICS 他大学でも学ぶことができる！

札幌圏大学・短期大学間単位互換協定（Green Campus）

札幌圏の大学・短期大学間の交流と協力を促進し、幅広い学修機会の提供と一層の教育内容の充実を図るために、道内私立大学・短期大学間の協定としては最大規模となる単位互換協定が2002年4月より実施されています。発足時は本学を含めた4大学・2短期大学でスタートしましたが、現在は11大学・3短期大学（酪農学園大学、北翔大学、北翔大学短期大学部、札幌学院大学、北星学園大学、北星学園大学短期大学部、札幌大学、札幌国際大学、札幌国際大学短期大学部、東海大学、藤女子大学、北海道科学大学、北海道情報大学、北海道文教大学）間で実施されています。

高校生の「好き」がかたちになります

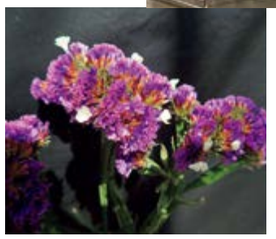
「農業が好きだからやってみたい」
「牛や馬が好きでいっしょに暮らしたい」
「自然が好きで森の中で勉強したい」
「チーズが好きだからつくりたい」
「子どもの頃から好きな動物を助けたい」

好きなこと、やりたいことがあるのは素晴らしいこと。
酪農学園大学は、ここでしかできない
学びの宝庫です。
リケジョも**ノケジョ**もたくさんいます。
同じ「好き」を持った人たちと
「やりたいこと」にどっぷり浸かってみると
きっとあなたの「なりたい」がつかめます。

01

非農家出身者もしっかり農業が学べる。
卒業後はアメリカへ

農食環境学群
循環農学類



農食環境学群
循環農学類 4年
園芸学研究室
植野 耕史さん
栃木県／
小山高校出身

実家は農家ではありませんでしたが、農業に憧れ、実際に農業を経験したくて入学しました。本学では作物でも畜産でも、実際の動植物に触れる実習が豊富で、実践的に農業技術を身に付けたい人に最適です。研究室には学生一人ひとりに合った丁寧なサポートがあり、非農家出身者もしっかり農業が学べますので私にぴったりでした。遺伝学に興味があり、作物の交配の授業が特に面白かったことと、花が好きで研究方法をしっかり身に付けたかったことから、園芸学研究室に入りました。

今「スターチス・シヌアータ倍加個体の培養特性」というテーマで研究しています。スターチスはさまざまな花の色があって長持ちするので、ニーズも高くなっており、商品としての価値の高まりが一層期待されています。倍加個体とは染色体の数を人工的に増やした個体で、従来の植物より花が大きく、環境に対して強い特性を持つ可能性があります。スターチスの研究は少なく、どんなメリット、デメリットがあるのか、まだわかっていません。少しでも解明できたらと思っています。

小学生から野球を続けてきたので、休部状態だった準硬式野球部を友だちと復活させました。ピッチャーで1番打者でしたが、打順、ポジション、サインは副キャプテンである私の責任。チームを引っ張っていくリーダーとしても鍛えられました。一昨年、北海道の3部リーグで優勝し、2部昇格を実現しました。

卒業後はアメリカの農業関連施設で1年半、研修することが決まっています。今の私には、知識・技術がまだまだ足りません。将来のことを考え、海外の知識・技術を吸収して、選択肢を増やしたいと思っています。帰国後は種苗会社などで、研究や栽培ができればと思っています。この海外研修では、大学の推薦制度にお世話になりました。

02 豊富な実習を経験して頼れる管理栄養士へ

農食環境学群
食と健康学類

子どものころ祖母と過ごす時間が長く、よく料理を教えてもらっていたので料理好きになりました。高校2年生の時に、「食のプロフェッショナル」と言われる管理栄養士のことを知り、好きなことを仕事にしたくて一直線に入学。道内には他にも管理栄養士を目指せる大学はありますが、本学では農業など豊富な実習ができ、それも役立つと思ったからです。

入学して良かったのは、このコースの学生が40人くらいと少ないこと。4年間同じ1クラスなので、勉強に集中できるし、助け合えます。私は仲良し4人で関西や沖縄に旅行しました。搾乳や農作物を育てる農業実習、アイスクリームやベーコンを作る食品製造実習など、「実際に作る」授業が多く、楽しみながら学びました。

栄養教育に特に興味があり、小学校の給食づくり、保健所の食生活指導、病院で病院食づくりと、3つの現場で合計4週間も実習できました。先生方と距離が近く、何でも相談できるので、実習先もアドバイスしていただきました。そして2019年9月に富山市で開催された日本栄養改善学会では、本学で13年続く朝食フェアで得たデータを活用して「本学学生の牛乳の摂取状況と生活形態の関連について」を発表しました。忘れられない思い出です。

子どもと関わる仕事がしたいので、将来は保育園などで働きたいと思っています。幼年期の食習慣が大人になって大きく影響するので、最初の段階で良い食育ができる、頼れる管理栄養士を目指しています。

1年次から「YOSAKOIサークル"祭"」に入り、ずっと続けてきました。毎年6月の祭りで、3年間は踊り手でしたが、4年目はステージで声を出す役に。大勢の観客を見下ろして、大声を出す気持ちよさは最高！10年ぶりにセミファイナルにも進出しました。

販売のアルバイトをしていましたが、わからないことは何でも聞いて、わからないままにしないのが大事なのは、勉強もアルバイトも同じです。小樽の実家から4年間、電車で片道1時間半かけて通学していますが、電車の中でも勉強できるので、苦ではありませんよ（笑）。

高校生の私

農食環境学群
食と健康学類
管理栄養士コース 4年
臨床栄養管理学研究室
武佐 あやさん
北海道小樽市／
北海道小樽潮陵高校出身

03 勉強に目覚め大学院へ可能性を開いてくれた大学

農食環境学群
環境共生学類

私の実家はハウス栽培の農家です。子どもの頃は毎年、夏休みに2週間、北海道でキャンプをしていたので、北海道になじみがありました。入学して、農業系と環境系の両方の授業に興味を持ち、たくさん学びました。幅広い学問分野があるのは、本学の大きな魅力です。農業系では果樹園芸学で、リンゴの芽が出る枝と出ない枝の見分け方を、学外の圃場で学んだのが印象的でした。環境系では、ちょうど台風と地震に見舞われて大変でしたが、洞爺湖の水質調査をし、考察を書いたことで研究の方法論も身に付きました。

私の研究テーマは、火山灰地の樹木の根の分布と特性です。北海道に多い火山灰の堆積した土壌で、樹木の根はどのように伸びていくのか。また、その根にどのような菌が付き、土壌中の炭素や窒素、リンなどがどのように循環しているのかを調べています。研究成果は名古屋大学で開かれた根研究学会で発表し、現在専門誌への投稿を目指しています。

研究では根と菌の両方の先生から、指導を受けています。今春、大学院に進み、将来は研究者になりたいと思っています。実は入学して、「勉強が好き」と気づいたんです。わからないこと、誰もやっていないことを考え、飽きることがありません。

「屋台部」というサークルで、地元の自治会などのお祭りで交流したり、ボランティアでイベントの裏方をしたりもしました。ここで「雑談力」が身に付き、話していくうちに信頼関係が築けるように。アルバイトでは小売店の接客スタッフも。入学以来4年間、寮暮らしで、数分で教室に行けました。鹿児島県出身の友人の家に行ったのも、いい思い出です。勉強、サークル、アルバイトで忙しい日々でしたが、やりたいことができる環境にあるので、何でも一生懸命になれました。その結果、まさかの研究者の道へ。私の可能性を開いてくれた大学です。

高校生の私

農食環境学群
環境共生学類 4年
生態系物質循環研究室
茂木 京菜さん
埼玉県／
深谷第一高校出身

04

大自然の中でよく学び よく遊んで専門性を高める

獣医学群
獣医学類

私は物心がついた時から犬好きで、図鑑を丸暗記し、すべての犬種が言える子どもでした。自然に獣医師を志望し、行ったことのない北海道に憧れて、本学に入学。キャンパスに牛がいるなど大動物が身近で、実習も豊富。大小両方の動物とかかわれるので勉強のいいチャンスになっています。

脳に関する授業や研究が面白く、神経研究室に進みました。座学から実習へという流れで実際の知識を身に付けることができました。卒論のテーマは、「急性散在性脳脊髄炎が疑われた症例犬におけるMBPおよびGFAPに関する検討」というものです。散在性脳脊髄炎とは、脳の中に炎症が散らばっていくつもできる病気。従来はヒトがかかるものとされてきましたが、犬にもあることがわかりました。

MBPとGFAPは、どちらもタンパク質です。この2種類のタンパク質が、急性散在性脳脊髄炎にどうかかわっているかを調べており、それは「脳とは何か」を考えることでもあります。将来は脳神経系疾患の治療の専門家になりたいと思っています。

卒業後は、札幌近郊の動物病院に就職する予定です。北海道には3つの大学に獣医学部があり、大学での勉強会や学会にも足を運びやすい環境です。本学の魅力は、大動物はもちろん、小動物も附属動物医療センターで実際に診察ができ、経験値を増やすことができること。獣医師を目指すには、恵まれた環境だと思います。

1クラスが8班に分かれて解剖実習などをするのですが、6年間ほぼ同じメンバー。そのため絆が深まり、助け合える関係になれます。誰かのアパートに集まってご飯を食べ、勉強するという学生生活でした。1年次から4年間、寿司店で握りのアシスタントのアルバイトも経験。友人と列車で道内旅行をし、北海道の広さも実感しました。大自然の中でよく学び、よく遊んで、専門性を高められる素敵な大学です。

高校生の私

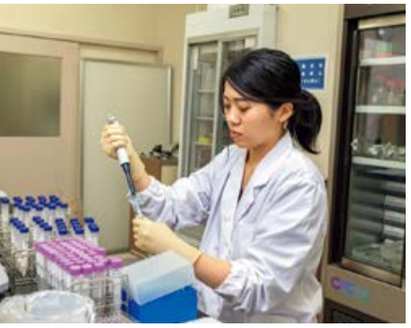
獣医学群
獣医学類 6年
伴侶動物外科学Iユニット
吉永 早織さん
大阪府／
清教学園高校出身

05

いい思い出ばかりの肉牛研究会 卒業後は家畜人工授精師に

獣医学群
獣医保健看護学類

私も家族も動物好き。小さい頃はよく千葉のマザー牧場で乳しぼり体験をしていました。北海道で大動物にかかわる仕事がしたいと思い、入学を決めました。初めて北海道に来て、すべての規模が大きく、学内に多くの種類の動物がいることに驚きました。メンバーが60人くらいいる肉牛研究会に入り、最低でも週4回は牛に触れる日々を過ごしました。15頭前後を飼育しており、朝、夕、夜の1日3回、仕事があります。交配種雄牛を決めるところから出産、出荷まで、すべて学生が担当しているので、生産者の気持ちがわかり、経営面の勉強にもなります。育てた牛の肉は、学園祭や研究会主催の出荷祭で販売します。



高校生の私

この活動を通して、責任感を身に付けたと思います。牛の扱いは知らないうちに覚え、酪農家に研修に行った際も、農家さんとスムーズに話ができました。また、入学時には大動物にかかわる将来のイメージがつかめなかったのですが、研究会の先輩が家畜人工授精師になっていたことで、「こういう世界があるんだ！」と知り、目指すようになりました。

授業では、動物行動学がとくに面白かったですね。肉牛の母牛にはカーストがあることも、実際に目で見て、理解できました。獣医療に携わるために、ペット栄養管理士、動物看護師、家畜人工授精師の資格を取得しました。就職先は「北海道ひがし農業共済組合」に決まりました。卒業後は家畜人工授精師として働きます。動物看護師の資格もありますので、農家、獣医、家畜人工授精師の架け橋になりたいと思っています。

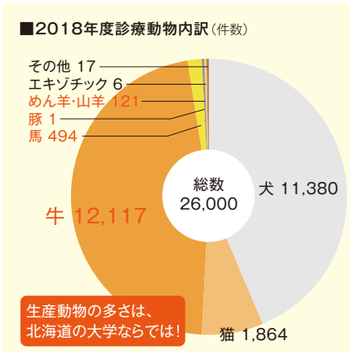
本学では学類をまたいだ先生同士のつながりも多く、獣医学類や循環農学類の先生の話も聞けます。自分から積極的に行動すれば、何でもできる環境です。肉牛研究会のOB、OGが全国にいて、ネットワークもあります。私の夢が形になったのは、先生や先輩に恵まれて勉強でき、資格を取れたから。本学と肉牛研究会に、いい思い出が多すぎます。

獣医学群
獣医保健看護学類 4年
生産動物看護研究室
眞々田 樹莉さん
千葉県／
長生高校出身

年間26,000件の診療件数　獣医療の拠点で学ぶ

最新設備の附属動物医療センターで専門性の高い診療が学べる

キャンパス内に設置されている附属動物医療センターは日本一の診療件数を誇り、年間の診療件数は犬や猫などの伴侶動物、牛や馬などの生産動物それぞれで約13,000件を数えます。附属動物医療センターでは、本学獣医学類および獣医保健看護学類すべての学生に先進的な獣医療を含む実践的な獣医臨床教育を実施。伴侶動物医療部門には、内科・外科・循環器科・神経科・腫瘍科・眼科・リハビリテーション科、診療支援部門には、画像診断科・麻酔科・集中治療科などの診療科があり、臨床実習では専門性の高い診療と日本で最高レベルの動物のためのチーム医療に触れることができます。生産動物医療部門では、専用の入院棟と臨床実習棟で、生産現場に近い臨床実習を展開しています。また他にも、環境汚染物質・感染病原体分析監視センター、野生動物医学センターなどがあります。施設規模は全国の獣医師養成大学の中で最大です。



TOPICS

ヨーロッパ獣医学教育機関協会（EAEVE）の国際認証取得へ向けて

本学の獣医学群では、ヨーロッパ獣医学教育機関協会（EAEVE）の国際認証評価を通じて、獣医学教育の質の保証と国際化に取り組んでいます。昨今、獣医学を取り巻く情勢は、国民の生命・健康・財産・福祉に関わる領域の拡大と高度化が進展しており、人獣共通感染症や家畜疾病対策、食品安全対策、薬剤耐性菌への対策など、獣医師が関与すべき問題が拡大・増加しています。このような獣医学への多様な社会的ニーズが高まる中で、獣医学教育の質の保証が求められています。

本学は大学基準協会の認証も得ていますが、国内での認証に留まらず、国際認証を取得することで本学の獣医学教育の質をさらに高める努力をしています。また、国際的な基準で食の安全を保証するためにも、畜産物を輸出入する国の間で同等レベルの獣医学教育が求められています。そこで本学はEAEVEの国際認証評価を参考にするため、2019年10月にはEAEVE本部による事前訪問調査を受審してアドバイスを受けました。そして、EAEVE認証取得を視野に入れ、カリキュラム、教育環境の改善、学内規程の整備などを推進しています。

全国的にもめずらしい眼科の診察室

1.5テスラMRIによる画像診断

学生による実習

診察室は8つあります

犬の眼底写真

酪農学園大学
だからできる、
プロフェッショナルな
製品づくり

実習を通して「食」を科学する

くん煙後のソーセージを加熱。加熱の目的は、肉の結着凝固、肉色の固定及び殺菌です
また授業では、食肉製品中の亜硝酸根残存量についてジアゾ化法を用いて測定しています

食と健康学類 食品加工実習室

ソーセージやハム、ベーコンなどの製造工程を深く学べる本格的な実験実習設備を完備。ここで製造される製品は、「酪農学園大学ブランド」として、学内の生協にて委託販売しています。原料から販売まで、食に対する知識を体系的に学ぶことができます。

くん煙後のソーセージをボイル槽まで運搬

くん煙後のソーセージ、ボリューム感たっぷり

酪農学園大学ブランドの
食肉製品
現在、ベーコンとボロニア
ソーセージを主に販売

製品をくん煙するための木材をくん煙材といい、樹脂の含有量が少なく、
香りがよく、防腐性物質の発生量が多いものが良いとされています
授業では、主にサクラチップを使用しています

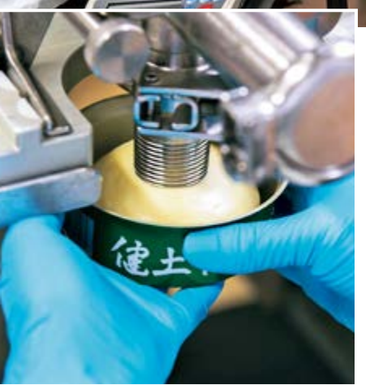
充填(じゅうてん)・結紮(けっさつ)後のエアー抜き作業

肉粒のサイズは、目的とする製品に応じて粗挽き度合いが異なります
見た目の粗挽き感と食べたときのジューシー感を保持するために、きれいな肉粒が保たれるよう留意して作業しています

オリジナルの牛乳・乳製品の製造には、学生が積極的に参加しています

食と健康学類 乳製品製造実験実習室

キャンパス内の乳牛から搾った新鮮な生乳を使って、牛乳やチーズ、バター、アイスクリームなどの本格的な乳製品づくりを学べます。ここでつくられた乳製品は、食品加工実習室の製品と同様に、「酪農学園大学ブランド」として学内のみならず学外からも人気です。



余計な空気混入による不良品発生を抑えるため、
慎重に充填作業を行います

牛乳・乳製品の原料乳は早朝に学内農場から運んできます

牛乳製造設備は脱臭処理工程が入ることで
生乳本来の風味を残すことを実現

酪農学園大学ブランドの
牛乳・乳製品

作られた牛乳は直ちに検査をし、翌朝には店頭に並びます

チーズの熟成メカニズムの解明は重要な研究テーマの一つです

実習として製造するほかに、
ゼミ生が自分たちで考えた
レシピのアイスクリームが
学園祭で販売されます

「酪農」「肉畜」
「作物」の3分野で
より実践的な
学びができます

酪農学園フィールド教育研究センター

現場に強い 実践力が身に付く

広大なキャンパスには、酪農・肉畜・作物に関する3つの農業生産ステーションを備えています。
ここで搾乳、肥育、栽培などの実務をしっかり経験。各分野で強い実践力が育まれます。
酪農学園大学ならではの規模と専門的な設備は、あなたの「好き」と「やりたい」にしっかり応えます。

搾り立ての
新鮮な牛乳をうつす

酪農生産ステーション

キャンパス内にある牛舎で日々乳牛の飼育に取り組める。

3つの異なるシステムの牛舎があり、循環農法型により約180頭の乳牛を飼育しています。フリーストール牛舎は牛が自由に行動・採食できます。自動搾乳システム牛舎は人の手をかけずにロボットで搾乳します。繋ぎ飼い牛舎は1頭1頭の牛をしっかりと管理しながら飼育することができます。このように、さまざまな酪農形態を学ぶことが可能です。

また、草地・飼料畑はキャンバス内に牧歌的な景観を見せています。

DATA

【土地】	
牧草地	48.5万㎡
デントコーン	18.1万㎡
放牧地	1.4万㎡
【主な施設】	
フリーストール牛舎	1,439.6㎡
繋ぎ飼い牛舎	550.8㎡
自動搾乳システム牛舎	518.4㎡
育成牛舎	432.0㎡
搾乳棟	754.2㎡
バンカーサイロ	1,062.5㎡
乳牛（ホルスタイン種、ジャージー種）	

草が血となり乳となる。牛の体の仕組みを学び、牛乳の素晴らしさに気付く学生も多い

子牛や育成牛の管理を学生が行っている

肉畜生産ステーション

肉畜の飼育・生産・医療・出荷までを学ぶ

約80頭の黒毛和種や日本短角種がいる肉牛の畜舎と、めん羊、豚、鶏など中小家畜の畜舎群の2カ所の農場があります。飼料設計から日々の世話まで学生が交代で行い、肉牛では低コスト飼料で最高等級のA5を獲得。肉牛の共進会にも積極的に出品し、好成績を収めています。その他の生産動物においても繁殖から出荷して肉になるまでの一連の流れを体験でき、看護を含めた動物医療の学びの場として活用されています。

市場出荷直前の体重測定および写真撮影

DATA

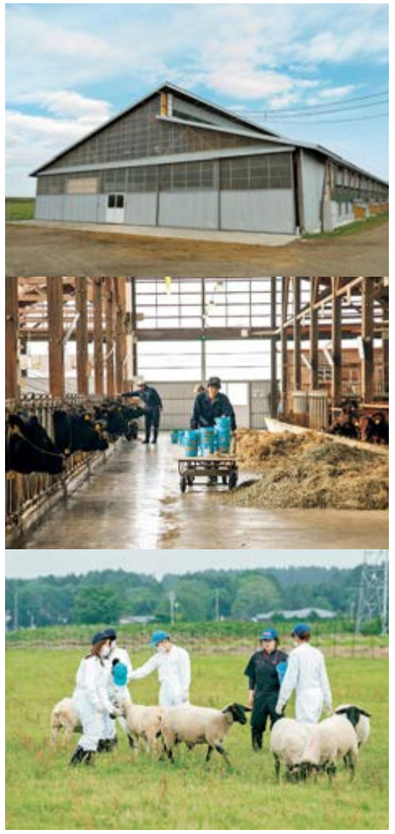
【土地】	
採草・牧草地	63.7万㎡
【主な施設】	
肉牛牛舎	1,672.0㎡（80頭）
豚舎	904.2㎡（100頭）
鶏舎	498.9㎡（ケージ:400羽・平飼い:450羽）
羊舎	419.5㎡（20頭）
多目的倉庫	396.9㎡

肉牛（黒毛和種、日本短角種）
豚（交雑種母豚（主にLW種※）、種雄豚（デュロック種）、肥育豚（主にLWD種※））
羊（サフォーク種、テクセル種）
鶏（白色レグホン、ロードアイランドレッド、烏骨鶏、アローカナ）
※Wは大ヨークシャ種、Lはランドレース種、Dはデュロック種

市場出荷牛のトラック積込

ここで生まれた子豚たち

親鶏はケージ飼いと平飼いの両方がある



羊舎にて行われた羊の妊娠鑑定

高能力牛からの受精卵の回収

作物生産ステーション

先進的な施設、広大な畑を活用して、品種改良から生理生態、病害虫管理を学ぶ

サイレージ用トウモロコシ圃場（2万㎡）の実規模収量調査（家畜管理栄養学実験）

収穫後2週間、乾燥庫に干したライムギを脱穀

収穫に向けコムギ生育ステージの判断法を学ぶ

教職コースの学生によるキュウリ栽培の教材研究

4棟のガラス温室は、温度や日射量などを計測し、自動で栽培環境を制御できます。冬場でも水稲などの作物の栽培が可能なので、1年を通して栽培や育種に関する研究、作物の病害虫防除の研究ができます。ビニールハウスでは、トマトやアスパラガスなどの野菜やカーネーションなどの花きの栽培研究が行われています。露地圃場では、ダイズやムギ類など畑作物の栽培が行われ、さまざまな教育・研究に活用されています。

DATA

【土地】	
露地栽培露地圃場	13,618㎡
園芸作物露地圃場	1,040㎡
展示圃場	691㎡
畑作物露地圃場	3,840㎡
サンプル採集圃場（作物病理学用）	139㎡
【主な施設】	
実習棟	1,257㎡
ビニールハウス	1,759㎡
花きガラス温室	331㎡
野菜ガラス温室	331㎡
作物ガラス温室	331㎡
作物保護ガラス温室	331㎡

花きの栽培や研究方法を学ぶ

特設コンクリート水田で水稲の形態変化を学ぶ

酪農学園大学は、一人の青年の熱い想いから始まった。

酪農学園大学は創立時から変わらない想いを受け継いでいます。
それは一人の青年が生涯をかけた使命感から生まれたもの。
そして北海道の酪農の振興と歩みを同じくするもの。
創立者 黒澤酉蔵の軌跡のなかには、本学に息づく建学の精神があります。

創立者 黒澤　酉蔵（くろさわ とりぞう）

1885（明治18）年茨城県久慈郡世矢村（現常陸太田市）に生まれる。20歳で北海道に渡り、牧夫になる。以後、96歳までの生涯をかけて酪農の振興に尽力し、農民のための会社を立ち上げ、農民のための学校をつくった。その業績から、日本酪農の父と呼ばれる。

▼田中正造との出会いが思想の原点

茨城の貧しい農家に生まれた酉蔵は、14歳で学業を志して東京に出ました。住み込みの仕事をしながら学校に通うなか、16歳の時に足尾鉱毒事件で田中正造氏を知り、その正義感と人間愛に感銘を受けます。この出会いが酉蔵の一生を決定づけました。田中正造氏は、人間にとって国土がいかに大切かを語り、「**健土健民**」を理想とする酉蔵の思想の根がつくられたのです。鉱毒によって田畑を汚染され、健康を損なった農民救済のため酉蔵は「青年行動隊」の結成を図りましたが、被害救済をめぐる世論が広がっていたときだけに、官憲は彼を極端に警戒しました。「反対運動よりも示談が得策だ」とする農民を説得しようとしたところ、酉蔵は逮捕・投獄され、6カ月間の未決拘留の後、無罪の判決が下されました。しかしこの獄中での聖書との出会いが、その後の人生に大きな影響を与えました。

健土健民
「健やかな土地から生み出される健やかな食物によって健やかな生命が育まれる」この理念は本学の前身「北海道酪農義塾」から脈々と受け継がれてきた実学教育の核をなすものです。

▼北海道に渡り、酪農の発展に尽くす

田中正造氏の援助によって学業を修めていた酉蔵でしたが、母の死を契機に貧しい弟妹を守るため、20歳で北海道に渡りました。宇都宮牧場の宇都宮仙太郎氏から牛飼いは「役人に頭をさげなくてもよい」「牛が相手だからウソをつかなくてもよい」「牛乳は人々を健康にする」という酪農三得を教わり、酉蔵は「生を酪農に捧げる決心をします。1909（明治42）年に牛1頭を借りて念願の酪農自営を果たしました。事業にまい進するなかで北海道畜牛研究会を結成し、生乳が余って酪農家たちが危機に立たされた時には、酪農家自らが製品をつくって売る北海道製酪販売組合、現在の雪印メグミルクを立ち上げました。こうして北海道酪農のリーダーとなった酉蔵は、寒地農業に必要なのは酪農を軸とした「**循環農法**」でなければならないとの思いを強くします。

循環農法
「地下資源には限りがある。しかし土の寿命は尽きることがない。その生命力を育てれば無尽蔵の資源となる」「農業とは天地人の合作によって人間の生命の糧を生み出す聖業である」ことから、人と自然が共生し、物質やエネルギーが循環するシステムをつくる思想。「循環農法」は「健土健民」思想の実践といえます。

▼すべては農民教育のために

「人が育たなければ、酪農が育つわけがない」、酪農家の組織化運動のなかで教育の必要性を実感した酉蔵は、1933（昭和8）年に酪農学園大学の前身である北海道酪農義塾を開校します。不毛の大地を酪農によって沃野に変えたデンマークを手本とし、建学の精神をキリスト教の聖書からとった「**三愛主義**」としました。当時は全寮制で学生は農場の一員となり働きながら学ぶ実践学を徹底。卒業生たちは地元に帰って酪農の一モデル経営者として活躍するなど、酪農の発展に貢献しました。

三愛主義
本学の人間教育は、神を愛し、人を愛し、土を愛す、「三愛主義」に基づきます。「神を愛し」とは善き人になろうと努力すること、「人を愛し」とは互いの違いを受け入れて生かしあうこと、「土を愛す」とは大地を健康に育てること。この3つの愛が合わさって初めて、健やかな人と大地が生まれます。

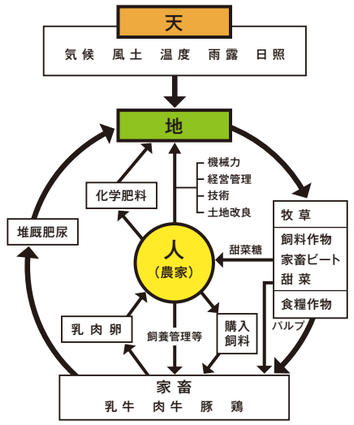
▼未来へ受け継がれる想い

2020（令和2）年に酪農学園大学は60周年を迎えます。時代とともに学びの分野が酪農から農業や食品、獣医、自然環境まで広がりましたが、その根本に流れる思想は一貫して変わっていません。「健土健民」の理念のもと一人ひとりの個性を磨き、身に付けた知識や技術を社会で活かす力を育む「実学教育」を実践し、知識だけではなく行動を伴う「**知行合一**」を目指しています。酪農を通じて人の真の豊かさを追い求めた酉蔵の想いは、今もこれからも生き続けていきます。

知行合一
単に知識を身に付けるだけではなく、知識と実践は一体であることを意味しています。「健土健民」の思想の下で高邁な学識技能を有する「知行合一」の有能な酪農人ならびに社会の人材を養成することを本学の目的としています。

酪農義塾農場（札幌村三角 1935年）

循環農法図



学生は宝の原石。磨き、磨かれ、人間性と専門性を深めてください。

酪農学園大学　学長　竹花 一成

私は、酪農学園大学に入学以来、大学生、大学院生から教員へと45年間にわたって在籍・在職してきました。私自身を大きく成長させてくれた母校の学長となり、先人たちの本学創立の想いを引き継ぎ伝えていくことが責務と強く感じています。

本学は、キリスト教の教えに基づいた三愛主義のもと、人格形成を行っています。その柱は隣人愛であり、誰もが持っているものです。本学で学んだ学生たちには、それぞれの地域へ帰り、また、新しい場所へ行っても、その地の中核となり自分の器で周囲を幸せにする人になってほしいと思っています。

農業・食・環境・生命の各分野で現場に即した専門性の高い教育が本学の特徴ですが、教育とは学生を決まった色に染めるのではなく、学生が元々持っているものを磨きあげることです。いわば、学生は宝の原石。「学問とは不完全な学生と不完全な教師との共同作業」と言われた先人の言葉どおり、人間に完成形はなく、その都度新しい発見があり成長します。大学は、皆さんに「出会いの場」を提供します。教員や友人をはじめ、色々な人と出会い、時にはぶつかり合うことでお互いに人間性と専門性を磨きあってください。それが、「人間力」です。

教員はさまざまな情報を専門家の立場で与えますが、そこから何を選ぶのかは皆さん次第です。本学は、柔軟な思考を持ち、自分で物事を判断できる「のびしろのある人間」を育ててきました。「のびしろ」とは、色々な形になれるということです。そのためには多くの経験を積む必要があります。人は、ゼロからできることは何もありません。失敗と反省があってこそ、自分のものとして生きる糧ができ、その上に初めて新しいものをつくり出せるのです。なんでもやってみること、知識だけでなく現場で体験すること「知行合一」での行いが皆さんのこれからの可能性を広げる力になります。

また、心に余裕がないと、考えも硬直してしまいます。のびしろには潤いが必要です。その環境が本学にはあります。ここに来たら、耳を澄ませなくても自然に風の音が聞こえます。その静寂感を十分に楽しんでください。広大なキャンパスでは、身も心も解放されます。エゾリスなど野生の動植物に癒やされることもあるでしょう。北海道ならではの恵まれた環境で、皆さんがやりたいことに遠慮なくチャレンジしてください。

1933（昭和 8）年	北海道酪農義塾開設
1942（昭和17）年	野幌機農学校開設
1948（昭和23）年	学制改革により野幌機農学校を野幌機農高等学校に校名変更 野幌高等酪農学校（通信教育）開設（1991（平成 3）年3月に廃止）
1949（昭和24）年	酪農学園大学部（各種学校）を開設（1950（昭和25）年3月に廃止）
1950（昭和25）年	酪農学園短期大学酪農科を開設
1958（昭和33）年	酪農学園女子高等学校（全日制 普通科）を開設
1960（昭和35）年	酪農学園大学酪農学部酪農学科を開設 酪農学園女子高等学校を三愛女子高等学校に校名変更
1962（昭和37）年	酪農学園短期大学製造科を開設（1972（昭和47）年3月に廃止）
1963（昭和38）年	酪農学園大学酪農学部農業経済学科を開設
1964（昭和39）年	酪農学園大学酪農学部獣医学科を開設 酪農学園短期大学酪農科を1コース（全日制）、2コース（季節制）（1984（昭和59）年3月に廃止）とする 野幌機農高等学校を酪農学園機農高等学校に校名変更
1975（昭和50）年	酪農学園大学大学院獣医学研究科獣医学専攻（修士課程）を開設
1978（昭和53）年	酪農学園大学酪農学部獣医学教育修士課程を含む6年制に移行
1981（昭和56）年	酪農学園大学大学院獣医学研究科獣医学専攻（博士課程）を開設 酪農学園大学大学院酪農学研究科酪農学専攻（修士課程）を開設
1984（昭和59）年	三愛女子高等学校英語コースを開設 酪農学園機農高等学校を酪農学園大学附属高等学校に校名変更
1985（昭和60）年	酪農学園短期大学を北海道文理科短期大学に校名変更 北海道文理科短期大学教養学科を開設（1999（平成11）年12月に廃止）
1988（昭和63）年	酪農学園大学酪農学部食品科学科を開設 三愛女子高等学校をとわの森三愛高等学校（共学）に校名変更
1990（平成 2）年	北海道文理科短期大学経営情報学科を開設（1999（平成11）年12月に廃止）
1991（平成 3）年	酪農学園大学附属高等学校ととわの森三愛高等学校が統合し、（新生）ととわの森三愛高等学校（酪農経営科・普通科・英語科）を開設 酪農学園大学大学院酪農学研究科食生産利用科学専攻（博士課程）を開設
1994（平成 6）年	酪農学園大学酪農学部食品流通学科を開設
1995（平成 7）年	酪農学園大学大学院酪農学研究科フードシステム専攻（修士課程）を開設
1996（平成 8）年	酪農学園大学獣医学部獣医学科を開設（酪農学部獣医学科を改組）
1998（平成10）年	酪農学園大学環境システム学部経営環境学科及び地域環境学科を開設 北海道文理科短期大学を酪農学園大学短期大学部に校名変更及び酪農科を酪農学科に学科名変更
2001（平成13）年	酪農学園大学酪農学部食品科学科に食品科学専攻と健康栄養学専攻（管理栄養士）の2専攻を開設
2003（平成15）年	酪農学園大学大学院酪農学研究科食品栄養科学専攻（修士課程及び博士課程）を開設
2011（平成23）年	酪農学園大学農食環境学群循環農学類・食と健康学類・環境共生学類及び獣医学群獣医学類・獣医保健看護学類を開設（酪農学部・獣医学部及び環境システム学部を改組） 酪農学園大学短期大学部募集停止（2012（平成24）年10月に廃止）
2015（平成27）年	酪農学園大学大学院獣医学研究科獣医保健看護学専攻（修士課程）を開設
2016（平成28）年	酪農学園大学酪農学部農業経済学科・食品科学科食品科学専攻・食品科学科健康栄養学専攻・食品流通学科、環境システム学部地域環境学科廃止
2017（平成29）年	酪農学園大学酪農学部酪農学科、環境システム学部環境マネジメント学科・生命環境学科廃止
2019（平成31）年	とわの森三愛高等学校を酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校に校名変更

酪農学園大学の建学の精神に基づく教育基本方針
―3つの方針に基づく大学教育の実現―

建学の精神である「三愛主義」は、キリスト教の教えのもとに「神を愛し、人を愛し、土を愛する」ことに徹した人間教育主義であり、多様な隣人への寛容な精神と、人類存続の礎である大地を尊ぶ精神の涵養を説く。その目的は建学の精神を受け継ぎ、「健土健民」の教えを実践し、「生命を紡ぐ大学」として大地が生み出す命を未来へと繋ぎ、全人類の福祉向上に貢献する担い手の養成である。

建学の精神にもとづく教育は80年を超える歴史を有し、農業振興に大きく貢献してきた。これを受け継ぐ新しい教育は、「農・食・環境・生命」を基軸に自然との調和の取れた循環農業の維持・発展を図り、人と動物の生命の存続と福祉に貢献し、かつ世界的活動に参加する人材を育てることである。主体的に世界の変化に対応し、課題を見極め、課題解決に対し幅広く、柔軟かつ総合的な判断力を持った担い手を育てる。すなわち農業にかかわる複合的問題を解決する能力を持ち、多角度から物事を観察する能力や総合的思考力、的確な判断力、かつ豊かな人間性を持った人材を輩出することである。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学の学士課程教育は質の高い教養を持った専門家を養成する。初年次の酪農学園教育において、「農・食・環境・生命」の有機的結びつきを理解した学生は分野を超えて問題探究の基本的姿勢が身につく。学群・学類の専門教育では体系的にかつ学際的に学び、知識の活用能力、批判的・論理的思考力、課題探究力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力を統合する力を身につけた学生が生まれる。学位記は、その能力と実践力を有することを証明する。さらに、学生は各学群・学類において多様な資格あるいはその受験資格を取得でき、これらの資格と併せて、視野の広い専門家として多様な課題を発見、分析、解決する能力を身につけた人材となる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

学士課程教育は2学群・5学類の教育組織から成る。この学群・学類制は教育を受ける学生のための組織であり、農業を総合科学として学ぶための横断的教育を含む教育体制である。初年次の酪農学園教育では、新入生全員がキリストの教えと建学の精神を学ぶと共に、農場実習を通して「家畜に触れ、作物を知り、土の役割を理解する」共通認識を修得する。いわば酪農学園大学独自の教養教育である。学生は、この酪農学園教養教育を修得するところから始まり、専門基礎教育を経て専門教育課程へと進む。専門教育においては各学群の教育方針に基づき、卒業までに広い視野を持ち、優れた実践力を持つ専門家を養成するカリキュラムがそれぞれに設定されている。

入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

本学は、建学の精神「三愛主義」を理解し、「健土健民」の教えを実践するために積極的に行動する強い開拓者精神を持った人物を求める。農業は食を保証し、環境との調和を必然とし、健康な生命を育むまさに母なる大地と同義である。農業は総合科学であり、理論と実践を融合し、「命を紡ぐ健土健民」社会の実現を志す意志の強い人物を求める。どの専門分野においても、「農・食・環境・生命」の有機的結びつきを理解できる担い手は、自己教育能力を持ち高度の専門性を持った質の高い教養人として社会貢献をなしえる。

農食環境学群

基本方針

建学の精神（三愛精神・健土健民・実学教育）に基づき、健康な土にこそ健康な人々が生活できるという考えを、農学とくに酪農科学を基本として社会に伝えることが出来る人材を輩出する。

循環農学類

- **卒業時の方針（DP）**
  資源循環型農業の実現に向けた広い知識と技能を会得し、人類社会の持続的な発展に貢献できる人材を輩出する。
- **教育課程の方針（CP）**
  初年次教育では本学の基本精神を会得し、専門基礎科目では資源を有効に活用する農業（資源循環型農業）に関する基礎知識、専門科目では農学・畜産学・農業経済学に関する質の高い専門知識と実践力を身につける。
- **学生受け入れの方針（AP）**
  資源循環型農業の実現を通じて人類社会の持続的発展に貢献するための知識と技能の習得に意欲と主体性をもって、社会と協働しながら取り組むことができる人を求める。

食と健康学類

1．食品機能科学・食品開発学・食品流通学コース

- **卒業時の方針（DP）**
  食に関わる様々な課題に対して積極的に対応できる知識と技能を有し、安全・安心の基本概念のもと、社会の発展に貢献できる人材を輩出する。
- **教育課程の方針（CP）**
  初年次教育では本学の基本精神を会得し、専門基礎科目では食に関する基礎知識を自然科学と人文・社会科学の両面から学ぶ。専門科目では質の高い専門知識を得て課題解決能力を養い、食の専門家としての実践力を身につける。
- **学生受け入れの方針（AP）**
  食に関する様々なことがらに興味を持ち、食を通して社会に貢献するための知識と技能の習得に向けて意欲あふれる人を求める。

2．管理栄養士コース

- **卒業時の方針（DP）**
  管理栄養士に求められる人の健康と栄養に関わる豊かな知識と技能を有し、高い職業倫理観と使命感を持って社会の発展に貢献できる人材を輩出する。
- **教育課程の方針（CP）**
  初年次教育では本学の基本精神を会得し、専門基礎科目では医学や食品学、栄養学分野の基礎知識を学ぶ。専門科目では質の高い専門知識と技能の習得を通して、管理栄養士としての職業倫理観と使命感を養成する。
- **学生受け入れの方針（AP）**
  栄養と健康、そして社会環境と人との関わりについて広く学ぶ意欲を持ち、管理栄養士の資格取得を目指して日々努力できる人を求める。

環境共生学類

- **卒業時の方針（DP）**
  地域から地球規模まで幅広い環境問題に対応可能な専門知識と技能を会得し、人間と自然が共生できる社会の実現に貢献できる人材を輩出する。
- **教育課程の方針（CP）**
  初年次教育で本学の基本精神を会得し、専門基礎科目で野生動物や生命環境に対する人類活動の影響を理解する。専門科目では環境共生のための知恵と技術を追求し、効果的な課題解決能力と地球的視野をもって活躍できる実践力を養成する。
- **学生受け入れの方針（AP）**
  人間と野生動物、そして生命環境が持続的に共生できる社会を実現するための幅広い知識と技能の習得を目指す人を求める。

獣医学群

基本方針

建学の精神（三愛精神・健土健民・実学教育）に基づき、高度かつ幅広い専門知識と技術、総合的な判断力を習得し、国際的視野と豊かな人間性を持ってワンヘルスおよびチーム獣医療に貢献できる人材を育成する。

獣医学類

- **卒業時の方針（DP）**
  社会的責務を果たすための倫理観と責任感を修得し、学際的な視点を持ってワンヘルスに立脚した世界的な視野で人間社会の健全な発展に寄与できる能力を体得した人材を輩出する。
- **教育課程の方針（CP）**
  初年次教育では高大接続教育の円滑化を図り専門教育の基礎を築くとともに、自校教育を通して本学設立の基本精神を学ぶ。専門教育では基礎から応用へと体系的な講義と実習を通して獣医療の専門知識と技術を向上させる。
- **学生受け入れの方針（AP）**
  社会に対する幅広い視野をもち、地域さらに地球全体における人と動物との調和に深い関心を寄せ、日々進歩する最新知識を吸収できる基礎学力と、生涯にわたって自ら積極的に学ぶ意欲をもつ人を求める。

獣医保健看護学類

- **卒業時の方針（DP）**
  動物に対する深い愛情と高度な知識と技術を有し、地域社会において人間と動物との絆の構築とチーム獣医療に貢献できる人間性豊かな人材を輩出する。
- **教育課程の方針（CP）**
  初年次教育では高大接続教育の円滑化を図り専門教育への基礎を築くとともに、自校教育を受講する事で本学設立の基本精神を学ぶ。専門教育では基礎から応用へと体系的な講義と実習を通して獣医療を支える専門知識と技術を向上させる。
- **学生受け入れの方針（AP）**
  大学の基本理念と教育目標を理解し獣医保健看護学とその関連分野での自主的学習を通じ、人間と動物の良き関係の構築と動物の健康向上に貢献したいという目的意識を持った人を求める。

すべての学びはつながっている

酪農学園大学の2学群5学類は互いに深く関係しています。
そのつながりを生かし、あなたの『好き』を他の分野と結びつけて、大きく発展させることができます。
たとえば、酪農経営×食の安全・安心×自然再生エネルギー＝地球の環境保全かもしれません。
『好き』から始まる新しい未来を、あなた自身の手で創造できます。

農食環境学群

農食環境学群の中では、3つの学類の枠を超えて興味のある科目を履修できます。また、「循環農学類」と「食と健康学類」には教員養成を目的にした「教職コース」を設置しています。

※農食環境学群（管理栄養士コースを除く）では、「教職コース」に所属しなくても学類の各コースで専門的に学びながら教員免許を取ることもできます。

循環農学類

安全な食料を供給する農業について、酪農学・畜産学・農学・農業経済学など多角的に追究。

食と健康学類

食の生産、加工・製造、流通ならびに健康など、食のシステムに関して幅広く学ぶ。

環境共生学類

野生動物学・生命環境学を学び、環境と調和・共生する社会の形成に貢献できる力を育成。

獣医学群

獣医師を目指す「獣医学類」に加え、動物看護師などの動物医療に関わるスペシャリストを目指す「獣医保健看護学類」を設置しています。高度化する獣医療に対応した学びを実践します。

獣医学類

獣医療をはじめ生命科学における先端的研究を推進する、高度な専門性を有した獣医師を育成。

獣医保健看護学類

獣医学と動物看護学を学び、幅広い獣医保健看護領域を担える人材を育成。

基盤教育については 33-34 ページをご覧ください

※2・3年次開講

基盤教育

つながりの大切さを学ぶ「生きる力」を付ける

1・2年次に全員が受ける「基盤教育」は、高校までの受動的な学びから大学の主体的な学びへと姿勢を変える大事なプロセスです。全国から集まった仲間たちと協同する中でチームワークの大切さを知り、学生の自主性を促す幅広い学習によって自ら課題を乗り越える力を身に付けます。それは2年次以降の専門基礎教育および専門教育に進んだ時、そして社会に出た時にも、柔軟な心を持って何事もあきらめることなく進んでいける力「人間力」として生かされます。

学びの流れ

- **1年次 基盤教育**
- 2年次 基盤教育 専門基礎教育
- 3・4年次 専門教育

畑づくりや搾乳体験、
文学や経済学など、五感全部を使って
「つながり」の大切さを知る。
この一年で、キミは何を得て、
どれだけ成長するだろうか。

授業科目区分

酪農学園教育
建学の歴史などについて理解を深め、農場実習や酪農体験を行うことで、知識だけでなく体感を交えながら未来まで受け継がれる酪農学園大学の理念と思想を身に付けます。

導入教育
グループ単位で作物を育てる基礎演習により、学問に必要な研究から発表まで全工程を経験。また、各学類の全体像を把握する概論では、専門教育に進む前に取り組む姿勢と考える力を養います。

キャリア教育
2年次から、学外の企業・団体・行政機関などでの実習、またはその実習に行くための準備を行います。学生のうちから社会と接することで、将来の進路にしっかり向き合うことができます。

人文社会科学教育

自然科学教育

情報教育

外国語教育

保健体育教育

乳牛体格測定

酪農生産ステーションで乳牛の扱い方を学びます。
主要な部位を覚えたら、協力しながら体格測定と体格審査をします。

作物の形態観察

根に共生する根粒菌を観察します。作物は微生物の力を利用して空気や土から栄養を獲得しています。実習では、作物生産における一連の流れを体験しながら、物質の循環を学びます。

バターづくり

製造実習ではバターをつくります。生クリームをペットボトルに入れて振り続けること約10分。なめらかな黄金色のバターができます。

基礎ゼミ農園

キャンバス内にある農場の畑を使って、作物を育てたり、管理したりします。土に触れ、晴天や雨といった天候が作物の生育に及ぼす影響などを実際に体験することで、知識と経験を養います。

寄生虫の標本観察

牛など家畜の消化管から検出された寄生虫の標本を観察します。

樹のカルテづくり

キャンバス内の樹木の大きさを1本ずつ調べ、木の成長量とそれに伴う二酸化炭素の吸収量を記録しています。

採卵

採卵を収集しながら、産んでいない鶏をチェックしたり、個々の様子を観察したり。卵はその場でゆでていただきます。

ミッションは放牧されている牛をつかまえて牛舎に連れてくること。

牛追

座学

酪農学園大学の建学の精神を知ることも大事な学び。さらに、文学や経済学などの人文・社会科学から生物学、化学などの自然科学まで、さまざまな領域を学ぶ。単に知識を得るだけでなく、グループ発表をしたり、論理的思考方法を習得することで、学びの姿勢を身に付けます。

搾乳

インテリジェント牛舎で搾乳体験。初めて牛に触れる学生も多く、ミルカーを取り付けるのは緊張の瞬間です。実習後に牛乳をいただきます。

収穫感謝祭

学生たちが育てた作物が実りの秋を迎えたら収穫祭が開催されます。グループごとに作物栽培の取り組みを報告するポスター発表を行い、優秀なチームは表彰されます。

農食環境学群

循環農学類

College of Agriculture, Food and Environment Sciences
Department of Sustainable Agriculture

日々が「農」の現場
本物の楽しさがわかります

学びの流れ

1年次

基盤教育
- 酪農学園教育
- 保健体育教育
- 導入教育
- 人文社会科学教育
- 情報教育
- 自然科学教育
- 外国語教育

2年次

基盤教育
- キャリア教育

専門基礎教育
- 基礎科学領域
- 環境科学領域
- 国際領域
- 教職コース（循環農学類、食と健康学類いずれかの学類に所属する）
- 農業科学領域
- 情報科学領域
- 全学共通専門基礎領域
- 食品科学領域
- 社会科学領域

3・4年次

基盤教育
- キャリア教育

専門教育
- 酪農学コース
- 畜産学コース
- 農学コース
- 農業経済学コース
- 教職コース（循環農学類、食と健康学類いずれかの学類に所属する）

1 ミルキングパーラーにて搾乳
2 肉畜生産ステーションでは、肉牛約80頭の飼育を学ぶことができる
3 サフォーク種の育成
4 秋播ライムギの収量調査用刈り取り
5 サイレージ用トウモロコシの収量調査用刈り取り

「好き」をかたちに

学びのポイント

POINT 1

生産から経営、経済まで「農」という産業のすべてを網羅

農家の方々とも密接に連携しながら農学全般を学びます。本学類の教員は農業試験場をはじめとする学外のさまざまな人や機関とつながりがあり、新たな視点を得る機会を与えてくれます。

POINT 2

「循環農法」環境に負担をかけない農業を探求する

人と自然が共生し、物質やエネルギーが循環するシステムをつくる「循環農法」を基本思想にして、これからの農業を学びます。

POINT 3

インテリジェント牛舎や農場などで実践する多彩な実習カリキュラム

酪農、肉畜、作物の3つの生産ステーションがあり、日々実践的な学びを展開しています。また、農家に泊まり込む学外農場実習では農の現場を実際に体験できます。

POINT 4

日本全国47都道府県から「農」に関心のある学生が集まる

実家が農業を営んでいる人から初めて農業を学ぶ人まで、日本全国から「農」に関心のある学生が集まり切磋琢磨します。卒業後は全国にネットワークができるのも本学ならではです。

取得可能資格

必要要件を満たせば卒業と同時に取得可能な資格です。
- 中学校教諭1種（理科・社会）
- 高等学校教諭1種（理科・農業・公民）
  ※教職コースに所属しなくても教員免許の取得は可能です。
- 准学校心理士
- 家畜（牛）人工授精師
  ※講習会受講・最終試験合格の場合
- 家畜体内（外）受精卵移植
  ※講習会受講・最終試験合格の場合

任用資格

特定の職業に任用されるための資格。資格を取得後、その職務に就いて初めて効力を発揮する資格です。
- 食品衛生監視員
- 食品衛生管理者
- 飼料製造管理者

受験資格

必要要件を満たせば受験する資格が得られます。
- ペット栄養管理士

学類でサポートする資格

- 簿記検定2級・3級
- ITパスポート
- 経済学検定（ERE）
- 食生活アドバイザー3級
- 北海道フードマイスター
- 食の6次産業化プロデューサー（レベル1・2・3）
- 食品衛生責任者

目指す職業

- 酪農・農業経営
- 農業（酪農・畜産含む）法人
- 農業資材卸売・小売業、食品製造業
- 食品卸売・小企業
- 宿泊・飲食サービス業
- 農業協同組合
- 教員
- 公務員　など

3·4年次 専門教育 コース紹介

3·4年次
専門教育

農学コース

循環型農業を基盤として、水稲、畑作、野菜、花きなどの農業生産技術とそれに伴う理論を学ぶ。本コースには作物の生産と、その関連分野（作物の栄養、生理、遺伝、雑草病害虫防除、土壌と生産の関連性）について学習する科目と実習がある。

収穫に向けコムギ生育ステージの判断法を学ぶ

コースTOPICS

- ガラス温室や圃場を使った充実の実習
- 環境制御可能な最新設備を有したガラス温室が通年利用可能
- 水稲、畑作、野菜、花きなど、多様な現場ニーズに対応した実験実習科目
- 栽培技術分野の科目と教育的に連動して配置された、土壌、作物栄養、植物の生理・病理・遺伝・育種、作物害虫や雑草に関する専門分野の科目群が充実

3·4年次
専門教育

農業経済学コース

食料生産と地域産業、市場と流通の現場から、経営・経済・政策を総合的に学ぶ。本コースには、農業経営、流通と消費、経済事情、循環型社会の形成と発展を支える仕組みについて学習する科目と実習がある。

現場で得た情報をゼミ室で議論する

コースTOPICS

- 農業・食料・経済の現場で最先端の経営や技術、流通を学ぶ
- 農畜産物や食料の販売に携わることを考えている方は、食料の流通の仕組みを学ぶ
- 公務員や地元企業を目指し、地域を活性化したいと思っている方は、地域おこしに必要な経済や政策について学ぶ
- 将来、農業・酪農の経営者になる方は、農場の経営に必要な知識を学ぶ
- 高度な統計分析手法を習得して、さまざまなデータから有用な情報を読み取る方法を学ぶ
- 教室での勉強だけでなく、演習・実習を通して力を培う

3·4年次
専門教育

酪農学コース

乳を生産する家畜の飼養管理、家畜育種をはじめ、飼料生産、衛生管理、家畜行動、生産物利用に関わる科学を修学するとともに、酪農場における物質循環について学ぶ。サブコースとして農家実習を通じて酪農現場をより深く理解する実践酪農学コースがある。

北海道・浜中町での実践酪農学実習の様子

コースTOPICS

- 酪農の本場・北海道で本物の酪農学を学ぶ
- 充実した施設で多様な畜種（乳牛、肉牛、豚、鶏、羊など）の生産技術を実践的に習得
- 学内の酪農生産ステーションには約180頭の乳牛
- 広い業界ネットワーク

3·4年次
専門教育

畜産学コース

肉牛を中心に豚、鶏、羊、馬など食肉生産を目的とした家畜の飼養、生体機能、生殖生理およびその生産物の利用について学ぶ。本コースにはこれらの家畜の飼養管理体系を学習する科目と実習がある。

肉畜生産ステーションで飼育されている肉牛

コースTOPICS

- 元野幌にある肉畜生産ステーションは総面積約100万㎡
- それぞれの動物種について2品種以上の家畜を飼養している
- 肉用牛約80頭、豚約100頭、羊約20頭、採卵鶏約400羽を飼養
- 採草用圃場が63.7万㎡
- エコフィードを積極的に利用した資源循環型の肉畜生産体系を学ぶことができる
- 講師陣は学内から臨床獣医師、家畜人工授精師、管理栄養士など。また、外部講師として体型審査員、削蹄師やホテルの総料理長など充実
- 肉牛については受精卵の生産から肉の加工まで、牛肉生産に関するすべての工程を学ぶ

学生からのメッセージ

知りたいことをとことん追求

循環農学類
農業政策学研究室 4年
長谷川 千夏さん
北海道札幌市／札幌大通高校出身

私は高校生の時に、ESD（SDGsの教育版）の世界大会に参加。世界33地域の学生と意見交換した時、発展途上国の学生が「毎日、食べるだけで、生きるだけで精一杯」と話すのを聞き、食料の基盤である農業の勉強をしようと入学しました。

実践農学の授業では酪農や花き、ワイナリーなど多彩な農家の方が講師。非農家の私は初めて農業の実際やリスクの高さを知りました。同時に農業の6次産業化を学び「これで農家の力になりたい」と、農業経済学コースを専攻。大学のプログラムの一つ「食の6次産業化プロデューサー」の勉強もし、レベル3まで取得しました。そのために行ったサクランボ農家での実習では、現場を知ることの大切さを痛感しました。

1、2年次には大学の「酪チャレ」制度を利用し、大学と江別をテーマに「フォトコンテスト」を開催。SNSなどで投票してもらい、優秀作品をポストカードにして販売し、その売り上げを国連WFP協会（食糧支援機関）に寄付しました。また、カナダに1カ月留学し、養豚場などの見学もしました。

本学では、自分が知りたいと思ったことは、とことん追求できます。農、食、環境、獣医学など幅広い分野に、専門家の先生がたくさんいます。相談すれば教えてくれるし、学内外の誰かにもつなげてくれるのが、最大の魅力。私は卒業後、北海道の専門職員（農業職）として働きます。この職に就くことは、中学、高校時代には考えられませんでしたが、本学で学び、一生北海道の農業に携わる決意ができました。

教員からのメッセージ

「好き」を継続していく粘り強さをもって

循環農学類
家畜遺伝学研究室
天野 朋子 教授

私は本学の酪農学科出身です。最初は生殖工学を専攻し、「体外受精による家畜の改良」がテーマでした。しかし、研究を進めるにつれて、遺伝子領域での改良をテーマにするようになりました。具体的には、乳量の多い牛と少ない牛のDNAを、シーケンサーで読み取って比較し、差異を見つけます。その差異を検証して、本当にその遺伝子の性質が表現型（この例では牛の乳量）と結びついているかを確かめます。

さまざまな家畜が対象となり、また表現型も多様です。たとえば怒りっぽい、おとなしいといった気質も、表現型としてとらえることができ、「おとなしい牛」の遺伝子を見つけることができます。これは私の研究テーマの一つで、酪農家の協力を得て数年がかりで実現した研究プロジェクトでした。また、2018年から1年間、海外で研究を行う機会がありました。ここでのテーマは「時計遺伝子」の研究。この遺伝子の機能解析をして、出産との関係を解明したいと取り組みました。

私は会社員の家庭で育ちましたが、牛、馬が大好きで、家畜の多い酪農学園大学は楽園のような場所でした。酪農家に少しでも近いところに、という気持ちで選んだ研究の道ですが、一本道でこうなったわけではありません。「好き」だからこそ粘り強く続け、自分のテーマを現実に落とし込んできました。「好き」の形を見つけるのは、社会に出てからのこともあるでしょう。それには続けていく情熱が必要です。そのための基礎教育は、しっかりとここで受けられます。

[カリキュラム] ☆1は外国人留学生のみ

※この内容は2020年4月1日現在のもので今後変更もあります。

1年次

基盤教育

■建学原論
■キリスト教学Ⅰ
■キリスト教学Ⅱ
■循環型農業論
■健士健民入門実習
■哲学
■心理学
■文学
■社会学
■日本史
■世界史
■地誌
■地理学
■法学
■日本国憲法
■経済学
■数学Ⅰ
■数学Ⅱ
■生物学
■生物学実験
■化学
■化学実験
■物理学
■地学
■運動の科学
■体育実技Ⅰ
■体育実技Ⅱ
■情報科学の基礎
■情報処理基礎演習
■英語Ⅰ
■英語Ⅱ
■英語Ⅲ
■英語Ⅳ
■日本語Ⅰ ☆1
■日本語Ⅱ ☆1
■基礎演習Ⅰ
■循環農学概論
■食と健康学概論
■環境共生学概論
■獣医療概論

専門基礎教育

■国際関係とメディアコミュニケーションの科学
■循環農法とワンヘルスサイエンス
■人と動物の関係の科学

専門教育

【実践農学・実践酪農学】
■実践酪農学
■実践酪農学演習
■実践農学

教職課程教育

■教育原理
■教職入門
■教育心理学

2年次

基盤教育

■キリスト教と諸宗教
■キリスト教と生命倫理
■統計学Ⅰ
■統計学Ⅱ
■物理学実験
■地学実験
■英語演習Ⅰ
■英語演習Ⅱ
■ドイツ語Ⅰ
■ドイツ語Ⅱ
■フランス語Ⅰ
■フランス語Ⅱ
■中国語Ⅰ
■中国語Ⅱ
■ハングルⅠ
■ハングルⅡ
■基礎演習Ⅱ
■キャリアベーシック
■キャリア実習Ⅰ

専門基礎教育

■無機化学
■有機化学
■物理化学
■分析化学
■生化学
■微生物学
■土壌学
■植物遺伝学
■動物遺伝学
■植物生理学
■動物生理学
■民法・商法
■行財政学概論
■経済原論
■ミクロ経済学
■マクロ経済学
■マーケティング論
■経営学総論
■日本経済論
■エネルギーの物理学
■ボランティア活動・NPO・NGO論
■品質管理論
■家畜解剖学
■家畜生理・解剖学実験
■家畜行動学
■畜産学総論
■畜産経営論
■農業微生物学実験
■農産物利用学実習
■農業機械学
■草地・飼料作物学
■作物生態生理学実験
■作物栽培学
■園芸学
■農業経営学概論
■農業政策学
■農業法
■学外農場実習
■海外農業実習
■実践農学実習Ⅰ
■実践農学実習Ⅱ
■食品学
■乳科学
■食肉科学
■食品化学
■食品分析学
■食品製造学
■食品流通論
■食品産業論
■食料経済論
■食品総合実験
■応用生化学
■食品卸・小売商業論
■環境物理学
■生物分類学
■動物形態機能学
■気象学の基礎
■生物地球化学
■北海道環境学
■アジア環境学
■自然環境学実験・実習
■環境法
■野生動物学の基礎
■動物生態学
■植物生態学
■地形・地質学
■環境共生学外実習
■地域研究
■海外自然環境実習
■情報処理演習
■GIS基礎演習
■GIS応用演習
■リモートセンシング基礎演習
■流通経済論
■簿記・会計学概論
■協同組合学
■中小企業論
■農畜産物市場論
■農村社会学
■社会調査法
■国際経済論
■国際関係論
■国際理解
■国際法
■観光と地域振興の科学
■GIS・リモートセンシングによる空間情報の科学
■エントロピーから見たエネルギーの科学
■食の安全・安心の科学
■全学専門基礎特別演習

専門教育

【教職コース】
■理科教育法Ⅰ
■理科教育法Ⅱ
■農業科教育法Ⅰ
■農業科教育法Ⅱ
■社会科・地理歴史科教育法Ⅰ
■社会科・地理歴史科教育法Ⅱ
■社会科・公民科教育法Ⅰ
■社会科・公民科教育法Ⅱ
■教職特論
■サービス・ラーニング
【実践農学・実践酪農学】
■実践酪農学実習Ⅰ

教職課程教育

■特別支援教育論
■教育課程論
■教育方法論
■生徒・進路指導論
■教育相談論

3年次

基盤教育

■キャリアデザインⅠ
■キャリアデザインⅡ
■プレゼンテーション
■キャリア実習Ⅱ

専門教育

■専門ゼミナールⅠ
■専門ゼミナールⅡ

【酪農学コース】
■家畜育種学
■家畜繁殖学
■家畜育種・繁殖学実験
■家畜管理学
■家畜栄養学
■家畜管理・栄養学実験Ⅰ
■家畜管理・栄養学実験Ⅱ
■家畜衛生学
■家畜衛生学実験
■畜産物利用学
■乳用家畜飼養学
■酪農経営学
■泌乳生理学

【畜産学コース】
■家畜育種学
■家畜繁殖学
■家畜育種・繁殖学実験
■家畜管理学
■家畜栄養学
■家畜管理・栄養学実験Ⅰ
■家畜管理・栄養学実験Ⅱ
■家畜衛生学
■家畜衛生学実験
■畜産物利用学
■肉用大家畜飼養学
■肉用中小家畜飼養学
■肉用家畜飼養学実習

【農学コース】
■水稲栽培学
■畑作物栽培学
■作物栽培学実習
■野菜園芸学
■花き園芸学
■園芸学実習
■作物育種学
■作物育種学実験
■作物栄養学
■土壌・作物栄養学実験
■植物病理学
■応用昆虫学
■作物保護学実験Ⅰ
■作物保護学実験Ⅱ

【農業経済学コース】
■農業経営学
■農業市場論
■食料・農業政策学
■農業協同組合論
■アグリビジネス論
■農と食の社会経済史
■簿記・会計演習
■農業経済学演習
■経済データ分析演習
■食料農業農村調査実習
■地域計画論
■地域経済論
■営農システム論

【教職コース】
■教育実習（高1免）
■教育実習（中・高1免）
■教職インターンシップⅠ
■教職応用演習Ⅰ
■教職応用演習Ⅱ
■理科教育法Ⅲ
■理科教育法Ⅳ

【実践農学・実践酪農学】
■実践酪農学実習Ⅱ

専門基礎教育

■統計データ分析演習
■農業施設学
■農業施設・機械学実習
■雑草学
■実践農学実習Ⅲ
■食品衛生学
■公衆衛生学
■食品関係法
■免疫学
■栄養生理学
■食品物性学
■食品資源学
■消費者行動論
■景観生態学
■保全生物学
■サステイナビリティ学
■資源管理論
■資源経済学

教職課程教育

■教育社会学
■生涯学習論
■理科教育法Ⅰ
■理科教育法Ⅱ
■農業科教育法Ⅰ
■農業科教育法Ⅱ
■社会科・地理歴史科教育法Ⅰ
■社会科・地理歴史科教育法Ⅱ
■社会科・公民科教育法Ⅰ
■社会科・公民科教育法Ⅱ
■道徳教育指導論
■総合的な学習の時間の指導法
■特別活動論
■職業指導Ⅰ（農業）
■職業指導Ⅱ（農業）

4年次

専門教育

■専門ゼミナールⅢ
■専門ゼミナールⅣ
■卒業論文
■家畜繁殖技術論
■受精卵移植論
■家畜体内・体外受精卵移植実験
■乳用家畜飼養学実習
■畜産物利用学実習
■実験動物学
■果樹園芸学
■有機フードシステム論
■有機農学総論
■農産加工学

【教職コース】
■教職インターンシップⅡ
■教材開発演習

教職課程教育

■理科教育法Ⅲ
■理科教育法Ⅳ
■教職実践演習（中・高1免）
■教育実習（高1免）
■教育実習（中・高1免）

pickup

ピックアップ研究室

循環農学類

pickup 1

ルミノロジー研究室

泉 賢一 教授

ウシの第一胃の秘密を探る

ウシは4つの胃を持っていますが、特に第一胃（ルーメン）には牧草を牛乳や肉に作り変えるための驚くべき秘密が隠されています。ルミノロジー研究室では、そんな魅力と驚きのつまったルーメンの研究をしています。

ルーメンの驚きポイント：

- とても大きい！　なんと、そのサイズは200リットルといわれています。
- 大量のエサと天文学的数の微生物が生活している！　牛が食べたエサを、住宅+食品貯蔵庫として、無数の微生物たちが生息しています。

私たちの研究室では、どんなエサを食べたら、ルーメン内の微生物が元気になり、牛乳がたくさん出るのか、そんなことを日々考えています。

学びのkeywords ｜ ●酪農 ●乳牛 ●飼料 ●牛乳 ●家畜飼育 ●牛舎

pickup 2

栽培学研究室

亀岡 笑 講師

環境変動に適応可能な作物デザイン·栽培技術を考える

水稲をはじめとした作物生産は私たちの食生活に欠かせません。しかし近年、そんな作物生産を脅かすほど、国内外で環境変動が深刻化しています。持続可能な作物生産を目指すには、環境変動の内容理解を前提として、作物の環境適応能力と、その能力を引き出すための適切な栽培技術の両方が必要となります。栽培学研究室では、国内外の作物生産環境の現状を学習しながら、作物の生理形態、ならびにそれらに基づく基礎·応用的な既存の栽培技術について理解を深め、深刻化する環境変動下での持続的な作物生産を目指すための新たな栽培技術について研究します。

学びのkeywords ｜ ●稲 ●畑作物 ●栽培技術 ●持続可能な農業 ●環境変動 ●根系発育

家畜生産改良学研究室

西寒水 将 講師

pickup 3

1頭の高能力牛より受精卵移植技術で生産された5頭の姉妹

経済能力の高い乳牛および肉牛の牛群整備プログラムの設計

最近、乳牛および肉牛の農家1戸当たりの飼育頭数は増加しています。多頭数経営においては、牛の生産能力を均一化することが大切であり、そのためには計画的な牛群整備が必要です。高能力牛の後継牛を効率的に生産するために、乳牛では性選別精液が人工授精に限らず過剰排卵誘起処置および体外受精にも利用されており、今日では性別をコントロールした受精卵の生産にも必要不可欠です。牛群整備プログラムの設計·実行、そのための能力評価値、ゲノミック評価値、性選別精液および受精卵移植技術等の繁殖技術の有効活用について学びます。

学びのkeywords ｜ ●肉牛 ●乳牛 ●牛群整備 ●人工授精 ●受精卵移植 ●ゲノミック評価

pickup 4

酪農·畜産経営論研究室

日向 貴久 准教授

優れた経営管理と農村地域の持続に向けた合意形成を考える

酪農をはじめとする畜産経営では、経営者は飼養、繁殖、飼料生産といった複数の部門を管理します。安定した経営を継続するために、経営者は日々自らの経営に関するさまざまな意思決定を行います。意思決定には、現在の経営状況と、経営を取り巻く外的要因に関する正しい理解が不可欠です。また、経営の目標は所得の最大化や労働時間の削減等、人によって異なり、意思決定にも影響を与えます。本研究室では、合理的な経営管理をテーマに、意思決定に向けた判断と選択の方法を考えます。また、農村地域を持続させるための行政や住民の合意形成方法を研究します。

学びのkeywords ｜ ●酪農 ●経営管理 ●会計 ●意思決定 ●農村社会 ●合意形成

［ 研究室一覧 ］

研究室	教員	職名	テーマ	学びのkeywords
農場生態学	園田 高広	教授	野菜と病害の生理生態を踏まえた栽培法や病害防除法の開発	持続可能な農業 / 野菜園芸 / 栽培技術 / 品種改良 / 植物病理
農業政策学	井上 誠司	教授	農村にとって有効な農業政策について考察する	農業政策 / 農業経済学 / 農村 / 計画 / 地域資源 / 歴史
植物病理学	薦田 優香	准教授	植物の病気を遺伝子レベルで解明し、農業被害を防ぐ技術につなげる	植物の病気 / 植物ウイルス / 感染生理 / 病害抵抗性 / 遺伝子工学
農畜産物市場論	相原 晴伴	教授	農畜産物·食料の流通の仕組み、需給や価格の動向を研究	アグリビジネス / ブランド開発 / 農業政策 / 農作物 / 農業経済学 / 稲
家畜遺伝学	天野 朋子	教授	遺伝情報を活用し、より能力の高い家畜を作出する	乳牛 / 肉牛 / 中小家畜 / 動物(馬など) / 品種改良 / バイオ
ルミノロジー	泉 賢一	教授	ウシの第一胃の秘密を探る	酪農 / 乳牛 / 飼料 / 牛乳 / 家畜飼育 / 牛舎
動物生殖工学	今井 敬	教授	バイオで牛をつくり育てる ― 120㎛※の卵子から800kgの肥育牛まで ―	繁殖 / 受精卵移植 / 体外受精 / 生体卵子吸引 / 肉牛 / 乳牛
天然物化学	小澤 修二	教授	植物の化学成分の構造を明らかにし、その生理活性を調べる	天然物 / 生理活性物質 / 化学 / 植物
国際経済学	小糸 健太郎	教授	国際的な視野で食料·農業·地域の問題を学ぶ	農業経済学 / 貿易 / 生産性 / 食料自給率 / 社会調査 / 統計学
農業機械システム学	小宮 道士	教授	機械利用による安全かつ能率的、合理的な農作業を考える	農業機械 / IT / 技術開発 / 酪農 / エネルギー / 農業工学
草地·飼料生産学	三枝 俊哉	教授	草地·飼料作物の効率的な生産による持続的な土地利用技術の研究	草地 / 飼料 / 土 / 肥料 / 養分循環 / 持続可能な農業
食料経済分析学	佐藤 和夫	教授	多様化する「食と農」を分析する	社会調査 / 統計学 / 消費者 / 食品安全性 / 食料自給率
生物学	佐藤 元昭	教授	昆虫の細胞を用いた細胞分裂機構の研究	細胞分裂 / 細胞培養 / 顕微鏡 / プレパラート
土壌環境学	澤本 卓治	教授	土壌を中心とした物質動態とその環境との関わりを研究	土 / 肥料 / 農学 / 化学 / 持続可能な農業
農業科教育課程	志賀 聡	教授	教科「農業」における理論と実践が融合する指導法や教育課程の研究	教職 / 教育課程 / 理論と実践 / 教材開発 / 地域の実態 / 北海道農業
畜産衛生学	髙橋 俊彦	教授	畜産現場における実践的衛生管理、感染症対策の実施	酪農 / 乳牛 / 肉牛 / 農業衛生 / 家畜の病気 / 疾病予防
環境会計	玉川 真弓	教授	農業経営を支える会計リテラシーの醸成	簿記 / 会計 / 環境 / 財務 / 経営 / 地域
家畜育種学	寺脇 良悟	教授	優れた能力を長期にわたって発揮するホルスタイン牛を育種する	乳牛 / 家畜育種 / 肉牛
家畜繁殖学	堂地 修	教授	牛の人工授精、胚移植、体外受精、繁殖管理、肉牛の飼養管理に関する研究	繁殖 / 人工授精 / 受精卵移植 / 体外受精 / 肉牛 / 乳牛
家畜栄養学	中辻 浩喜	教授	草食家畜の栄養生理学を基本に土地利用型乳肉生産を実現する	酪農 / 乳牛 / 栄養 / 飼料 / 草地 / 放牧
農業科環境教育	廣瀬 之彦	教授	SDGsの視点による探究活動を通し、農業教育の在り方を研究する	農業教員養成 / 農業科免許取得 / 学習指導要領 / 科目「農業と環境」 / SDGs / 探究活動
英語圏文化	藤田 佳也	教授	「言語」「文化」「表現」を読み解く方法について学ぶ	文学 / 英語 / 言語 / 文化 / 表現 / 芸術
数量経済学	丸山 明	教授	食料消費の計量分析と生乳生産の規模の経済性の分析	農業経済学 / 社会調査 / 統計学 / 多変量解析 / 食料の消費 / IT
家畜管理·行動学	森田 茂	教授	「動物に配慮」した管理システムを動物行動から構築する	酪農 / 乳牛 / 牛舎 / 家畜福祉 / 動物行動 / 肉畜生産
人と動物の関係学	山田 弘司	教授	人と動物の相互理解とよりよい関係を目指して	動物心理学 / 動物行動学 / 乗馬セラピー / 教育体験ファーム / 動物園 / 動物福祉
農村計画論	吉野 宣彦	教授	農村人口を減らさないために、農業のコスト低下や、付加価値生産、経営の多角化を考え、支える	農業経済学 / 酪農 / 経営 / 農村社会 / 持続可能な農業 / IT
作物学	義平 大樹	教授	人類生存に不可欠な穀物類の良質多収栽培法の研究	作物栽培 / 畑作物 / 栽培技術 / 農作物 / 肥料 / 飼料
資源植物学	我妻 尚広	教授	植物群落の保全や緑化を目的とした植物の生態遺伝学的研究	植物 / 品種改良 / 植物遺伝 / 遺伝的多様性 / 植物生理 / 緑化
協同組合学	糸山 健介	准教授	協同組合とは何か?新しい協同の形を考察する	農業経済学 / 持続可能な農業 / 流通システム / 農業政策 / 農村社会
化学	大和田 秀一	准教授	化学で科学的思考を学ぶ	化学 / 新しい化学教授法の開発 / 物理化学 / 協同学習
環境微生物学	岡本 英竜	准教授	酪農環境における微生物による発酵メカニズムを解析する	微生物生態 / 難培養微生物の検出 / 集積培養
植物育種学	岡本 吉弘	准教授	水稲を中心とした遺伝·育種に関する研究	農学 / 品種改良 / バイオ / 葯培養 / 遺伝子 / 遺伝変異
理科教育	金本 吉泰	准教授	理科教育における生徒の資質·能力の育成についての研究	理科教育 / コンピテンス / 資質·能力 / 生命観
作物栄養学	小八重 善裕	准教授	作物の栄養と健康を見つめ、豊かな食料生産に貢献する	作物 / 栄養 / 土壌 / 共生 / 菌根菌 / イメージング
キリスト教応用倫理学	小林 昭博	准教授	現代世界の多様なテーマを聖書やキリスト教思想を通して読み解く	ジェンダー / セクシュアリティ / 生命倫理 / 動物の権利 / 宗教 / 新約聖書
農業科教育	飛谷 淳一	准教授	実践的·体験的な学習活動を通した農業教育に関する研究	教職
農業昆虫学	中平 賢吾	准教授	天敵利用などの農業昆虫に関する研究	持続可能な農業 / 昆虫 / 害虫 / 農学 / 農薬 / 技術普及
実践農学	猫本 健司	准教授	畜産環境や循環利用ならびに営農や就農に関する現況や課題の整理	畜産環境 / 家畜管理 / 糞尿処理 / 排水処理 / 経営評価 / 新規就農
酪農·畜産経営論	日向 貴久	准教授	優れた経営管理と農村地域の持続に向けた合意形成を考える	酪農 / 経営管理 / 会計 / 意思決定 / 農村社会 / 合意形成
園芸学	森 志郎	准教授	花きを中心とした新規園芸植物の作出と高品質栽培技術の確立	園芸 / 花き / 植物 / 品種改良 / バイオ / 栽培技術
中小家畜飼養学	山田 未知	准教授	豚および鶏の効率的な飼養管理技術を探求する	肉畜生産 / 中小家畜 / 家畜飼養 / 人工授精 / 飼育環境 / エコフィード
農業経営学	吉岡 徹	准教授	経営調査を通して農業経営が成り立つ条件や方法を考える	農業経済学 / 農業経営 / 持続可能な農業 / 農村社会 / 農業6次化
栽培学	亀岡 笑	講師	環境変動に適応可能な作物デザイン·栽培技術を考える	稲 / 畑作物 / 栽培技術 / 持続可能な農業 / 環境変動 / 根系発育
家畜生産改良学	西寒水 将	講師	経済能力の高い乳牛および肉牛の牛群整備プログラムの設計	肉牛 / 乳牛 / 牛群整備 / 人工授精 / 受精卵移植 / ゲノミック評価
食物利用学	宮崎 早花	講師	おいしい食べ物とは何かさまざまな視点から考える	食品安全性 / 食品 / 農産加工 / 調理
健康スポーツ科学	柴田 啓介	助教	科学的根拠に基づいたトレーニング方法の探求	健康 / 運動 / スポーツ / 体力 / トレーニング
家畜飼料学	土井 和也	助教	輸入飼料に依存しない家畜生産を目指して	持続可能な農業 / 酪農 / 乳牛 / 飼料 / 家畜飼育 / 土地利用
統計学	毛利 泰大	助教	農村·農業·食料における社会現象に対する統計学を応用した実証分析	統計学 / 社会科学 / 社会調査 / 農村社会 / 食料生産

※ ㎛=マイクロメートル

畜産試験場の技師として
地元に貢献したい

循環農学類 畜産学コース ›››

長野県畜産試験場
養豚養鶏部

倉科（くらしな） 妙香（たえか） さん

2017年3月卒業　長野県／南安曇農業高校出身

家畜の命に向き合い、人の食を支えている畜産を学びたいと、酪農学園大学へ入学。在学中は中小家畜研究会に所属し、主に羊を飼育、繁殖させていました。品種の交配を考えたり、出荷して食べるまでを学べる、楽しい活動でした。現在は畜産試験場の技師として、豚の飼養管理や飼料給与の技術開発をしています。併設する農業大学校で授業をしたり、豚の出荷手続きや優秀な雄豚の精液を販売普及もしています。県の畜産に貢献できることにやりがいを感じ、地元の養豚を盛り上げたいと思っています。

大学の肉畜生産ステーションで2年間アルバイトをし、鶏や羊の畜舎の掃除や給餌の管理、豚の繁殖・肥育などを経験しました。先輩・先生方から家畜の扱い方や飼育管理について多くのことを教えていただき、今の仕事にとても役に立っています。

大学では多様な勉強や経験ができます。アライグマの捕獲アルバイトも経験し、卒業前に狩猟免許を取得しました。自分のできることが広がるのはとても楽しいことです。ぜひ、色々なことに挑戦し、さまざまな経験をしてほしいと思います。

現場に足を運び、
「本物を見る」ことを大切に

酪農学部 酪農学科 ›››
（現・循環農学類）

酪農学園大学附属とわの森三愛高校 教諭

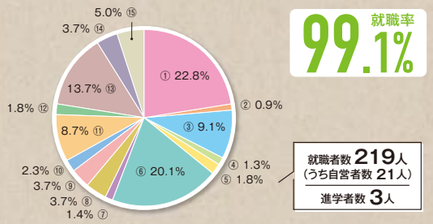
西川（にしかわ） 謙（けん） さん

2002年3月卒業　山形県／基督教独立学園高校出身

私は北海道・せたな町の酪農家の家に生まれ、自然と向き合い、地域の人たちと助け合い、家族が共に働く姿に魅力を感じ、酪農学園大学に入学しました。在学中は2年間休学して道内の酪農家3軒とノルウェーの酪農家1軒で実習し、たくさんの人に出会い、育ててもらいました。復学すると、大学での学びが一層リアルなものになりました。この素晴らしい酪農をもっとたくさんの人に知ってもらいたいと、教員を目指すようになりました。そして牛に関わる現場がある、酪農学園大学附属とわの森三愛高校で働くことに。現在は、アグリクリエイト科機農コースの長として、牛と向き合い、酪農後継者や酪農に興味を持つ生徒たちと向き合っています。酪農を学ぶため全国から集まった大学時代の素晴らしい仲間は現在、生徒が実習をする受け入れ農家の「親方」として、また生徒の「保護者」として、お世話になる場面も増えてきました。私の夢は、全国で活躍する教え子たちの元を回り、日本一周をすること。生徒たちが世界に羽ばたく時代なので、世界一周になるかもしれません。酪農学園大学には、その道のプロがたくさんいます。現場に足を運び、「本物を見る」「本人に会う」ことを大切にしてください。これぞ実学です。

循環農学類 就職実績

就職先分野別グラフ（2019年3月卒業生）



就職率 **99.1%**

就職者数 **219**人
（うち自営者数 **21**人）
進学者数 **3**人

酪農家と乳業メーカー
発展の架け橋に

酪農学部 酪農学科 ›››
（現・循環農学類）

株式会社明治 札幌工場

小川（おがわ） 啓示（けいじ） さん

2010年3月卒業
北海道／武修館高校出身

私の実家は酪農家。小さい頃から食べることと動物が大好きで、高校生の時には食品や動物に関わる仕事がしたいと思っていました。その両分野が学べる大学として、私の理想と最も合致していたのが酪農学園大学でした。

酪農学科では、酪農や食に関する座学だけでなく、学内の農場で牛の胃の中に手を入れて内容物を調べたり、学外実習では酪農家の所で牛の世話をしたりしました。難しい内容も自分が学びたいと思っていたことなので、楽しんで学習できました。講義の後は、日本拳法部で鍛錬。ゼミは酪農天然物化学研究室で、友人や先輩と植物成分の有用性について研究しました。

現在は、株式会社明治の札幌工場に勤務しています。夢だった「食品や動物に関わる仕事」を実現するにあたって、乳業は食品、動物（牛）のどちらにも関わることができる理想の職業です。工場では、酪農家から集乳したタンクローリーの受け入れ、検査、そして乳飲料やヨーグルトを製造する業務を一貫して担当しています。食品を扱う責任ある仕事に、とてもやりがいを感じます。酪農家と乳業メーカーのさらなる発展への架け橋となれるよう努力していくことが、今の目標です。

酪農学園大学でしか学べないことを実践し、よく学び、よく食べ、よく遊んでください!

好きなことに夢中になった時間が
私の土台です

酪農学部 酪農学科 ›››
（現・循環農学類）

ANA新千歳空港株式会社

谷口（たにぐち） 明子（あきこ） さん

2010年3月卒業
北海道／藤女子高校出身

私は入社して3年間は新千歳空港の国内線ターミナルのANAカウンターでの搭乗手続き、現在は国際線ターミナルで受託している海外航空会社を利用されるお客様の搭乗手続きを行っています。以前、あるご家族の娘さんがグランドスタッフに憧れていると聞き、搭乗ゲートで夢を応援するメッセージカードをお渡ししたら、旅行先からはがきをいただいたことが、印象に残っています。

この仕事は、私にとっても小さい頃からの憧れでした。当社には明るく親しみやすい印象があり、入社しました。グランドスタッフの仕事は早朝出勤があり、お客様のカバンを持ち上げる、空港内を走り回るなど体力が勝負。酪農研修で働かせていただいた経験が、今の仕事にも生かされています。

動植物が好きで、広いキャンパスと自然の豊かな環境で学べるので、酪農学園大学に入学。友達と芝生でソフトクリームを食べていた時間が、一番の思い出です。実践的な授業が多く、気の合う仲間にも会えて、毎日が楽しく過ぎていきました。進路に迷っている人は、酪農学園大学で自分のやりたいことを探してみるといいと思います。

酪農学園大学キャリアセンター
SNS・HPで情報発信中!

Facebook　Twitter　HP

農食環境学群

食と健康学類

College of Agriculture, Food and Environment Sciences
Department of Food Science and Human Wellness

「食べるは生きる」
食を通じて人々を笑顔に

学びの流れ

1年次

基盤教育
- 酪農学園教育
- 人文社会科学教育
- 自然科学教育
- 保健体育教育
- 情報教育
- 導入教育
- 外国語教育

専門基礎教育および専門教育
- 管理栄養士コース

2年次

基盤教育
- キャリア教育

専門基礎教育
- 基礎科学領域
- 農業科学領域
- 食品科学領域
- 環境科学領域
- 情報科学領域
- 社会科学領域
- 国際領域
- 全学共通専門基礎領域
- 教職コース（循環農学類、食と健康学類いずれかの学類に所属する）
- 管理栄養士コース

専門教育
- 管理栄養士コース

3・4年次

基盤教育
- キャリア教育

専門教育
- 食品機能科学コース
- 食品流通学コース
- 食品開発学コース
- 管理栄養士コース
- 教職コース（循環農学類、食と健康学類いずれかの学類に所属する）

3

2

1

5

4

1青果物計量販売実験
2過熱水蒸気オーブンによるパン焼成試験
3調理は科学です。管理栄養士として食に貢献できるスキルを習得します
4発酵食品から分離した微生物の顕微鏡観察
5くん煙後のソーセージをボイルしています

「好き」をかたちに

学びのポイント

POINT 1

1年次には作物栽培や家畜に触れる農場実習で生産現場を体験

食品全般を理解するため、土から育てた作物が人の体の中で変化するまで、一連の流れを体験しながら学べます。1年次には畑に種をまいて育てた野菜の収穫を行い、また、牛や羊、鶏、豚など家畜に触れて食品のもととなる生産現場を体験します。

POINT 2

安全・安心な「食品」の製造・加工・流通から健康・医療分野までをカバー

食の分野は、安全性やアレルギーの問題、食料自給率の低下、高齢者向けの食品開発の必要性などさまざまな課題を持ち、食品にとどまらず健康・医療まで密接な関わりがあります。これらを体系的に学び、それぞれの専門性を深めていきます。

POINT 3

学内にある乳製品や肉製品製造実習工場で体験を通じて食を学ぶ

ハムやベーコン、ソーセージなどをつくる食品加工実習室と、チーズやバター、アイスクリームをつくる乳製品製造実験実習室を完備。本格的な設備を使って、食品製造を学べます。

POINT 4

管理栄養士国家試験合格を目指す専門コースを設置

国家資格である管理栄養士は社会的に需要が高く、取得すると活躍の場が広がります。専門コースでは、合格を目指した高度で効率的な学習ができます。

取得可能資格
必要要件を満たせば卒業と同時に取得可能な資格です。
- 中学校教諭1種（理科・社会）
- 高等学校教諭1種（理科・農業・公民）
※教職コースに所属しなくても教員免許の取得は可能です。
※管理栄養士コースを除く。
- 准学校心理士 ※管理栄養士コースを除く。
- 栄養士 ※管理栄養士コースのみ。

任用資格
特定の職業に任用されるための資格。資格を取得後、その職務に就いて初めて効力を発揮する資格です。
- 食品衛生監視員
- 食品衛生管理者

受験資格
必要要件を満たせば受験する資格が得られます。
- 管理栄養士国家試験 ※管理栄養士コースのみ。
- フードスペシャリスト
- 専門フードスペシャリスト（食品開発）
- 専門フードスペシャリスト（食品流通・サービス）

学類でサポートする資格
- 簿記検定2級・3級
- 販売士2級・3級
- 食の6次産業化プロデューサー（レベル1・2・3）
※管理栄養士コースを除く。
- 食品衛生責任者

目指す職業

食品製造業
- 食品卸売・小売業
- 宿泊・飲食サービス業
- 農業協同組合
- 教育・学習支援業
- 教員
- 公務員　など

管理栄養士コース
- 医療・福祉法人
- 食品製造業
- 宿泊・飲食サービス業
- 公務員　など

3·4年次 専門教育 コース紹介

3·4年次 専門教育

食品流通学コース

安全な食品を生産·消費するため、両者をつなぐ流通ビジネスの重要性に着目。21世紀の食品流通に求められる知識と技能を総合的に学ぶ。

コーストピックス

- 日本の食糧基地である北海道は食品流通の勉強にも最適
- 企画開発、食品製造、品質管理、流通技術などをトータルに学習できる実験·実習を配置
- 道内外での農場、卸売市場、食品工場など積極的に生産と流通の現場視察を行う
- 地域資源を活用した商品開発、マーケティング調査、販売実習を企業や自治体とコラボ展開中
- 北海道のまちづくりや地域ブランドづくりに関する行政視察を実施
- 観光客を呼び込む「食」と「健康」をテーマとしたイベントの企画を行う
- 産学連携によるオリジナル商品開発を通して課題解決型学習を実践中
- HACCP実務管理者養成科目を授業として展開中

3·4年次 専門教育

管理栄養士コース

土から作物、そして「食と健康」という建学の精神を基本とした教育により、栄養管理のプロフェッショナルとして最前線に立つ管理栄養士を育成する。

※管理栄養士コースは1年次よりコースに所属。

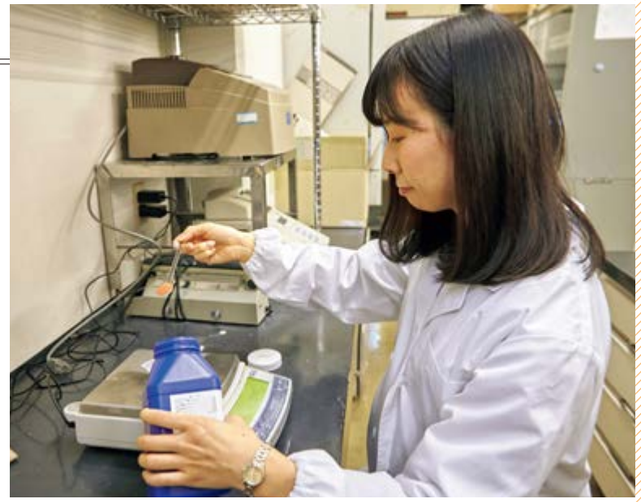
コーストピックス

- 食の成り立ちから人の健康までをトータルに学習
- 1クラス40人の少人数できめ細かな教育と国家試験対策が可能
- 高い管理栄養士国家試験合格率（2015-19年度の5年間の平均合格率97.9%）
- 本格的な設備の実習室で行う食品加工実習が可能
- 企業とメニュー考案、商品開発でコラボ中
- 毎年、レシピコンテストでの入賞実績がある
- 抗酸化機能分析教育研究センターを開設し、食品の機能性研究が充実
- スポーツ栄養科学の研究も実施中
- HACCP実務管理者養成科目を授業として展開中

3·4年次 専門教育

食品機能科学コース

食品のもつ栄養、嗜好性、生体調節性などさまざまな機能性に着目。既存食品や未·低利用食資源中の有効成分の分析、食品関連微生物の有効利用などの先進的な知識と技能を学ぶ。



コーストピックス

- 機能性食材に溢れた北海道で実践的な研究が可能
- 食品成分や微生物を用いた実験科目だけでなく、食品製造実習も可能な授業構成
- オリジナルラベルのワイン製造は4年目に突入し、キャンバス内でのブドウの栽培も行う
- キャンバス内で乳酸菌や酵母など有用微生物を分離し、オリジナルの発酵食材の開発を実施中
- 最新の装置を用いた食品成分の分析が可能
- さまざまな農産物から健康に役立つ成分の探索を行う
- 道産食材の機能性評価による新たな付加価値向上に関する研究を展開中
- HACCP実務管理者養成科目を授業として展開中

3·4年次 専門教育

食品開発学コース

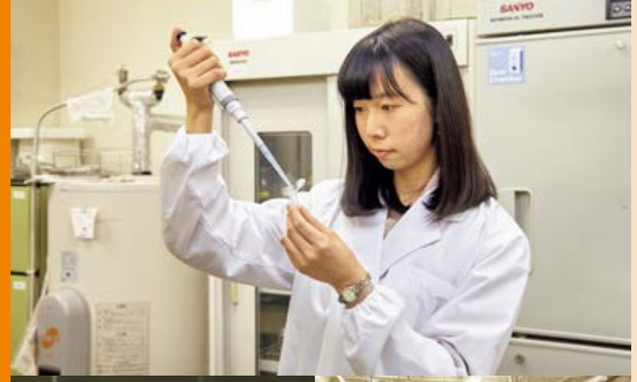
食品の成分特性、製造原理、市場調査および企画開発など幅広い知識を習得。消費者·市場ニーズに合った食品の開発や製造までを実践的に学ぶ。

コーストピックス

- "食の宝庫"北海道でさまざまな食材を用いた食品開発研究が可能
- 食品加工·製造において重要な成分分析や物性測定などの基礎的技術を習得できる実験·実習だけでなく、企画·開発などの応用技術も習得できる実験·実習を配置
- 乳肉製品は本格的な専用施設で製造実習を実施中
- 食品メーカーや機器メーカーとさまざまな食材や加工装置を用いた新商品や新技術を開発中
- さまざまな機器分析により、おいしさを物理学的視点で捉える研究を展開中
- 電子顕微鏡と原子間力顕微鏡による充実した食品微細構造の研究が可能
- HACCP実務管理者養成科目を授業として展開中

学生からのメッセージ

好きなチーズづくりの研究に没頭



私は高校の科学部で肉や野菜の研究をしたことがきっかけで、食品研究の面白さに目覚めました。いろいろ調べて、本学が私のやりたいことにぴったりだと思い、入学。1年次の「健士健民実習」では生まれて初めて牛に触り、草刈り鎌を使い、食べ物を作ることの大変さを実感しました。農家さんの苦労を知ったことで、食べ物を大切にする気持ちも芽生えました。

チーズが好きで、自分で作りたい思いから3年次に乳製品製造学研究室へ。チーズ、バター、ヨーグルトなどを実際に製造しました。ゴーダチーズづくりでは、乳酸菌を活発にさせる牛乳の温度管理が難しいうえ、最長1年間、熟成庫で毎日チーズを反転させる作業を続けました。苦労して作ったチーズは学園祭でもよく売れたので、うれしかったです。

食と健康学類では、食について深く専門的に学べるのが魅力です。基盤となる農業や栄養学から学べ、さまざまな専門分野が用意されており、きっと自分に合う学びがあります。植物生理学や動物生理学など他学類の授業も取れるので、肉や野菜について多面的に学ぶことができ、キャンパスに牛がいるという「現場感」もたっぷり。知的な興味がどんどん広がり、そして深くなっていきます。

卒論のテーマは牛乳に含まれるメラトニンという成分の検出方法に関するものですが、実験の方法をしっかり身に付けることができました。卒業後は食品メーカーに就職して、製品開発をするのが私の夢です。

食と健康学類
乳製品製造学研究室 3年
佐藤 歩未さん
北海道札幌市／札幌藻岩高校出身

教員からのメッセージ

自然界にあるブラックボックスを開けよう

食と健康学類
乳製品製造学研究室
栃原 孝志 講師

チーズやヨーグルトなどの製造に欠かせない乳酸菌ですが、市販の製品に使われているのは、実はほとんど外国産。私は牛の生乳から、製品づくりに適した新たな菌を追究しています。人が食べても問題ないか、タンパク質を分解する性能はどうかなど、求められる菌の条件は厳しく、1000種類近くの中から10種類程度しか見つかりません。地道な研究を積み重ね、実用に近づいてきた段階です。新しい菌は熟成期間の短縮、これまでにない風味、健康面での新しい機能の期待など、多くの利点が可能性として考えられます。今後はまず新しい乳酸菌を学内のチーズづくりに生かし、北海道ブランドとして広がればと思います。

この研究室には、企業の研究者も技術を学びに訪れ、メーカーの試作にも協力しています。他方、学内外の研究者と連携し、異分野の知見も取り入れています。そのおかげで、これまで不明だった乳酸菌の構造が明らかになるなど、成果も出ています。身近な乳酸菌ですが、未知のことが多く、研究は自然界のブラックボックスを開けるようで好奇心、研究心が駆り立てられます。

本学にはありのままに近い自然があり、それを利用しながら多角的な教育をしています。研究には、見た目、舌触り、匂いなどがどうあるべきかを考えて、形にできる乳製品のエキスパートを目指す学生たちが集まっています。私も本学出身。乳製品製造のスキルや知識を通じて、酪農を支えられることがうれしいですね。

[カリキュラム]

☆1 管理栄養士コースは2年次開講　☆2 管理栄養士コースは除く　☆3 外国人留学生のみ　※この内容は2020年4月1日現在のもので今後変更もあります。

1年次

基盤教育

■建学原論
■キリスト教学Ⅰ
■キリスト教学Ⅱ
■循環型農業論
■健士健民入門実習
■哲学　☆1
■心理学　☆1
■文学　☆1
■社会学
■日本史
■世界史
■地誌
■地理学
■法学　☆1
■日本国憲法　☆1
■経済学　☆1
■数学Ⅰ
■数学Ⅱ
■生物学
■生物学実験
■化学
■化学実験
■物理学
■地学
■運動の科学　☆1
■体育実技Ⅰ
■体育実技Ⅱ
■情報科学の基礎　☆1
■情報処理基礎演習　☆1
■英語Ⅰ
■英語Ⅱ
■英語Ⅲ
■英語Ⅳ
■日本語Ⅰ　☆3
■日本語Ⅱ　☆3
■基礎演習Ⅰ
■循環農学概論
■食と健康学概論
■環境共生学概論
■獣医療概論

専門基礎教育

■国際関係とメディアコミュニケーションの科学
■循環農法とワンヘルスサイエンス
■人と動物の関係の科学

専門教育

【管理栄養士コース】
■医学概論
■解剖生理学Ⅰ
■解剖生理学Ⅱ
■生化学Ⅰ
■生化学Ⅱ
■生化学実験・実習Ⅰ
■生化学実験・実習Ⅱ
■食品学
■調理学
■食品学実験・実習Ⅰ
■調理学実験・実習Ⅰ
■基礎栄養学

教職課程教育

■教育原理
■教職入門
■教育心理学

2年次

基盤教育

■キリスト教と諸宗教
■キリスト教と生命倫理
■統計学Ⅰ
■統計学Ⅱ
■物理学実験
■地学実験
■英語演習Ⅰ
■英語演習Ⅱ
■ドイツ語Ⅰ
■ドイツ語Ⅱ
■フランス語Ⅰ
■フランス語Ⅱ
■中国語Ⅰ
■中国語Ⅱ
■ハングルⅠ
■ハングルⅡ
■基礎演習Ⅱ　☆2
■キャリアベーシック　☆2
■キャリア実習Ⅰ

専門基礎教育

■無機化学
■有機化学
■物理化学
■分析化学
■生化学　☆2
■微生物学　☆2
■土壌学
■植物遺伝学
■動物遺伝学
■植物生理学
■動物生理学
■民法・商法
■行財政学概論
■経済原論
■ミクロ経済学
■マクロ経済学
■マーケティング論
■経営学総論
■日本経済論
■エネルギーの物理学
■ボランティア活動・NPO・NGO論
■品質管理論
■家畜解剖学
■家畜生理・解剖学実験
■家畜行動学
■畜産学総論
■畜産経営論
■農業微生物学実験
■農産物利用学実習
■農業機械学
■草地・飼料作物学
■作物生態生理学実験
■作物栽培学
■園芸学
■農業経営学概論
■農業政策学
■農業法
■学外農場実習
■海外農業実習
■実践農学実習Ⅰ
■実践農学実習Ⅱ
■食品学　☆2
■乳科学
■食肉科学
■食品化学
■食品分析学
■食品製造学
■食品流通論　☆2
■食品産業論
■食料経済論
■食品総合実験
■応用生化学
■食品卸・小売商業論
■環境物理学
■生物分類学
■動物形態機能学
■気象学の基礎
■生物地球化学
■北海道環境学
■アジア環境学
■自然環境学実験・実習
■環境法
■野生動物学の基礎
■動物生態学
■植物生態学
■地形・地質学
■環境共生学外実習
■地域研究
■海外自然環境実習
■情報処理演習
■GIS基礎演習
■GIS応用演習
■リモートセンシング基礎演習
■流通経済論
■簿記・会計学概論
■協同組合学
■中小企業論
■農畜産物市場論
■農村社会学
■社会調査法
■国際経済論
■国際関係論
■国際理解
■国際法
■観光と地域振興の科学
■GIS・リモートセンシングによる空間情報の科学
■エントロピーから見たエネルギーの科学
■食の安全・安心の科学
■全学専門基礎特別演習

専門教育

【管理栄養士コース】
■公衆衛生学
■社会福祉概論
■運動生理学
■微生物学
■解剖生理学実験・実習Ⅰ
■解剖生理学実験・実習Ⅱ
■食品加工学
■食品学実験・実習Ⅱ
■調理学実験・実習Ⅱ
■栄養学実験・実習Ⅰ
■応用栄養学Ⅰ
■応用栄養学Ⅱ
■栄養指導概論
■臨床栄養学Ⅰ
■臨床栄養学実験・実習Ⅰ
■公衆栄養学Ⅰ
■給食経営管理論
【教職コース】
■理科教育法Ⅰ
■理科教育法Ⅱ
■農業科教育法Ⅰ
■農業科教育法Ⅱ
■社会科・地理歴史科教育法Ⅰ
■社会科・地理歴史科教育法Ⅱ
■社会科・公民科教育法Ⅰ
■社会科・公民科教育法Ⅱ
■教職特論
■サービス・ラーニング

教職課程教育

■特別支援教育論
■教育課程論
■教育方法論
■生徒・進路指導論
■教育相談論

3年次

基盤教育

■キャリアデザインⅠ　☆2
■キャリアデザインⅡ　☆2
■プレゼンテーション　☆2
■キャリア実習Ⅱ

専門教育

■専門ゼミナールⅠ　☆2
■専門ゼミナールⅡ　☆2
■調理学概論　☆2
■調理学実習Ⅰ　☆2
■調理学実習Ⅱ　☆2
■食品包装学
■HACCP実務管理者論
■販売特論

【食品機能科学コース】
■食品微生物学
■食品栄養学
■タンパク質化学
■食品と免疫
■生物工学
■発酵食品学
■食品機能論
■食品栄養化学実験
■生化学実験
■食品微生物学実験

【食品開発学コース】
■乳製品製造学
■肉製品製造学
■食品製造システム論
■微生物利用学
■食品マーケティング戦略論
■食品企画開発論
■食品品質特性学実験
■乳肉製造学実習
■食品企画開発実習
■食品微生物学

【食品流通学コース】
■食品企画開発論
■食品国際流通論
■食品流通施設論
■食品物流管理論
■食品流通情報システム論
■食品品質保全学
■食品マーケティング戦略論
■食品流通実験・実習Ⅰ
■食品流通実験・実習Ⅱ
■食品消費経済論
【管理栄養士コース】
■健康管理概論
■病理学
■食品衛生学
■食品加工学実習
■食品衛生学実験・実習
■応用栄養学Ⅱ
■栄養学実験・実習Ⅱ
■栄養教育論
■栄養カウンセリング論
■栄養指導論実習Ⅰ
■栄養指導論実習Ⅱ
■臨床栄養学Ⅱ
■臨床栄養管理論
■高齢者臨床栄養学
■臨床栄養学実験・実習Ⅱ
■公衆栄養学Ⅱ
■公衆栄養学実習Ⅰ
■食品流通論
■給食管理実習Ⅰ
■総合演習Ⅰ

【教職コース】
■教育実習（高1免）
■教育実習（中・高1免）
■教職インターンシップⅠ
■教職応用演習Ⅰ
■教職応用演習Ⅱ
■理科教育法Ⅲ
■理科教育法Ⅳ

専門基礎教育

■統計データ分析演習
■農業施設学
■農業施設・機械学実習
■雑草学
■実践農学実習Ⅲ
■食品衛生学　☆2
■公衆衛生学　☆2
■食品関係法
■免疫学
■栄養生理学
■食品物性学
■食品資源学
■消費者行動論
■景観生態学
■保全生物学
■サステイナビリティ学
■資源管理論
■資源経済学

教職課程教育

■教育社会学
■理科教育法Ⅰ
■理科教育法Ⅱ
■農業科教育法Ⅰ
■農業科教育法Ⅱ
■社会科・地理歴史科教育法Ⅰ
■社会科・地理歴史科教育法Ⅱ
■社会科・公民科教育法Ⅰ
■社会科・公民科教育法Ⅱ
■道徳教育指導論
■総合的な学習の時間の指導法
■特別活動論
■職業指導Ⅰ（農業）
■職業指導Ⅱ（農業）

4年次

専門教育

■専門ゼミナールⅢ　☆2
■専門ゼミナールⅣ　☆2
■卒業論文
■企業経営分析論
■フードコーディネート論
■水圏資源学
■食品調理製造実習
【管理栄養士コース】
■総合演習Ⅱ
■給食管理実習Ⅱ
■臨床栄養学実習Ⅰ
■臨床栄養学実習Ⅱ
■公衆栄養学実習Ⅱ
■健康栄養学演習Ⅰ
■健康栄養学演習Ⅱ
【教職コース】
■教職インターンシップⅡ
■教材開発演習

教職課程教育

■理科教育法Ⅲ
■理科教育法Ⅳ
■教職実践演習（中・高1免）
■教育実習（高1免）
■教育実習（中・高1免）

pickup

ピックアップ研究室

食と健康学類

食品企画開発研究室

阿部 茂 教授

pickup 1

食品企業や自治体が求める新たな食品加工技術や新商品の開発を行う

当研究室では6次産業化に係る商品開発や技術支援、そして食品製造において効率化や差別化を可能にする新たな食品加工技術の開発を行っています。民間企業や自治体との共同研究が多く、現場での研究打合せや試作試験が多いことが特徴です。ゼミ活動では食品関連の展示会や発表会の視察を行いますが、自らブース展示を行い共同研究により開発した新商品や新技術を紹介することもあります。食品企画開発研究室は食品開発に必要な知識や技術を習得することに加え、商品説明を行うなど実践的な経験を積むことで社会人として即戦力の人材育成を図ります。

学びのkeywords ●食品企画開発 ●加工技術開発 ●6次産業化 ●食品製造·加工 ●マーケティング ●過熱水蒸気

pickup 2

臨床栄養学研究室

大谷 克城 教授

抗酸化活性に着目した食素材の探索と機能性に関する研究

私たちは常に酸化を受け、からだはサビていきますが、実際は抗酸化力を備えていることでサビることなく過ごしています。しかしながら、老化と共にこの力も弱まり、生活習慣病をはじめさまざまな病気につながります。健康を維持するためには、からだに備わっている抗酸化力だけでなく、酸化に抵抗する抗酸化物質を含む食品を摂取することが重要となります。どのような食素材をどのように摂取したらよいのか？　北海道の多様な食素材を中心に科学的に抗酸化機能に関する分析研究を行い、新たな機能性食品の開発やその橋渡しとなる取り組みを行っています。

学びのkeywords ●管理栄養士 ●臨床栄養 ●抗酸化機能 ●食品分析 ●酸化ストレス ●食品開発

乳製品製造学研究室

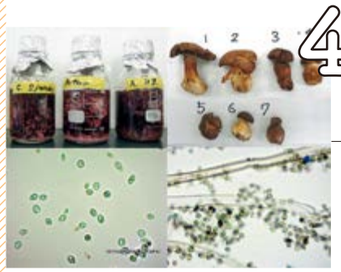
竹田 保之 教授　栃原 孝志 講師

pickup 3

- 発酵乳製品の微生物叢および乳酸菌の機能解析と利用に関する研究
- 生理活性物質を含む乳·乳製品の食品への利用可能性に関する研究

チーズやヨーグルトに代表される発酵乳製品における製品特性と乳酸菌の動態や性質を詳しく解析することで発酵乳製品のさらなる価値の向上を目指します。さらに、この過程で得られる珍しい機能を持った乳酸菌の有効利用方法を検討し、乳製品だけでなく、広く他の食品への応用についても研究しています。また、乳は、哺乳動物の親が子に与えるために、血液を原料として体内で合成した食品です。乳には血液由来成分の生理活性物質が数多く存在します。その生理活性物質を含む乳を食品として効率よく摂取する方法ならびにその影響について研究しています。

学びのkeywords ●牛乳 ●チーズ ●ヨーグルト ●乳酸菌 ●生理活性物質 ●食品開発



pickup 4

応用微生物学研究室

山口 昭弘 教授　村松 圭 准教授

有用微生物の探索および新規発酵食材の開発に関する基礎研究

発酵食品は食材由来や加工段階でスターターとして加えるさまざまな微生物が、それぞれのタイミングで独自に働くことにより完成する芸術作品とも言われます。本研究室では、野幌原始林に隣接するキャンパス内の野生酵母を用いた酒類の試験醸造·製パンや乳酸菌分離株の新たな応用に関する研究、自生キノコ·ハスカップ·アロニア·シーベリーや赤ビートなど北海道を代表する機能性食材の未利用資源を含めた有効利用に関する研究、ならびに乳酸菌·納豆菌や糸状菌などの有用菌を用いた発酵による道産食材の付加価値向上を目指した基礎研究を行っています。

学びのkeywords ●微生物 ●発酵食品 ●ワイン ●醸造 ●キノコ ●機能性食材

［ 研究室一覧 ］

研究室	教員	職名	テーマ	学びのkeywords
食品物性学	金田 勇	教授	分子ガストロノミーを志向した食品の物理学	食感改質 / 食品レオロジー / 分子ガストロノミー / 食品加工 / 食品の構造 / 食品コロイド
食品企画開発	阿部 茂	教授	食品企業や自治体が求める新たな食品加工技術や新商品の開発を行う	食品企画開発 / 加工技術開発 / 6次産業化 / 食品製造·加工 / マーケティング / 過熱水蒸気
応用生化学	岩﨑 智仁 長谷川 靖洋	教授 助教	骨格筋と食肉の生化学ならびに細胞組織学的研究	骨格筋 / 酸化ストレス / 筋損傷と再生 / 食肉生産 / 食肉生化学 / 各種顕微鏡技法
数学	上野 岳史	教授	自然演繹における部分構造論理の正規化可能条件についての研究	数学 / 数理科学 / 圏論 / 部分構造論理 / 論理構造の解明
物流科学	尾碕 亨	教授	リユース容器と計量販売による物流コスト削減に関する実証的研究	流通 / コスト / リユース容器 / 計量販売 / 省資源 / 循環
食品栄養化学	小野寺 秀一 上野 敬司	教授 准教授	食資源を有効活用し、新しい機能性食品素材を開発する	オリゴ糖 / 3次機能 / 生活習慣病 / 腸内細菌 / アスパラガス / 動物実験
英語表現·科学英語	白石 治恵	教授	文学·文化からTOEICまであらゆる英語に対応	英米文学 / 英語資格 / 食文化 / 欧米文化 / 英会話
乳製品製造学	竹田 保之 栃原 孝志	教授 講師	·発酵乳製品の微生物叢および乳酸菌の機能解析と利用に関する研究 ·生理活性物質を含む乳·乳製品の食品への利用可能性に関する研究	牛乳 / チーズ / ヨーグルト / 乳酸菌 / 生理活性物質 / 食品開発
食品流通技術	樋元 淳一	教授	農産物や食品の品質を保つための、選別、貯蔵、包装、輸送の技術開発	食品包装資材 / 青果物 / 品質 / 貯蔵 / 輸送
肉製品製造学	舩津 保浩 前田 尚之	教授 准教授	食肉製品および魚肉練製品の製造原理と品質改良に関する研究	食肉製品 / 魚肉練製品 / ソーセージ / ハム / ベーコン / 肉醤(ししびしお)
食品生産システム	本田 康夫	教授	生産管理の基礎を学び、食品産業での生産性向上を考える	食の安全·安心 / 食品製造 / 食品加工 / 品質管理 / 生産管理 / 企業経営
応用微生物学	山口 昭弘 村松 圭	教授 准教授	有用微生物の探索および新規発酵食材の開発に関する基礎研究	微生物 / 発酵食品 / ワイン / 醸造 / キノコ / 機能性食材
流通学	柳 京熙	教授	国際経済下における農業·加工·食品需要に関する研究	食品流通 / 食品加工 / 農産物需給 / FTA·TPP / 農協 / 農産物市場
教育発達心理学	須賀 朋子	准教授	学校現場で必要な教育心理学、特別支援教育を追求する	特別支援教育 / 教育心理学 / DV / 不登校 / 教育問題
流通情報システム	三谷 光照	准教授	流通業における情報システムの進化を支える情報技術（IT）に関する研究	流通ビジネス / IT / 情報 / トレーサビリティ / 工学 / 流通情報
マーケティング	長村 知幸	講師	消費者の心をつかむ製品·サービスを考える	マーケティング / 企業経営 / 消費者行動 / 地域ブランド / イノベーション

管理栄養士コース				
臨床栄養管理学	石井 智美	教授	21世紀の食へ貢献する管理栄養士を目指して	栄養 / 健康 / 料理 / 食文化 / 発酵食品 / 高齢者の食
臨床栄養学	大谷 克城	教授	抗酸化活性に着目した食素材の探索と機能性に関する研究	管理栄養士 / 臨床栄養 / 抗酸化機能 / 食品分析 / 酸化ストレス / 食品開発
食品加工学	竹田 保之	教授	乳たんぱく質のアレルゲン性の解析とその効果的な低下方法の検討	管理栄養士 / 食品加工 / 乳製品 / 食品機能 / 食品分析 / アレルギー
食品学	舩津 保浩	教授	食品ロスのリサイクル技術と道産食材を活用した低GI食品の開発	血糖値 / 生活習慣病 / 食品ロス / 官能評価 / リサイクル / 調味料
食品衛生学	山口 昭弘	教授	食材の機能性や共生菌に注目した食の安全と健康を科学する研究	食品機能 / 食の安全·安心 / 食品分析 / 微生物 / 品質管理 / 健康増進
食·健康スポーツ科学	山口 太一	教授	食、健康、運動、スポーツに関わる問題や疑問を科学的に明らかにする	スポーツ / 運動 / トレーニング / 健康 / スポーツ栄養 / ストレッチング
医学·生理学	若宮 伸隆	教授	食と健康を、医学的視点で自らが考え、学ぼう	情報の収集 / 情報の分析 / 情報の理解 / 健康 / 食科学 / 医科学
給食栄養管理	小林 道	准教授	栄養および食習慣が人々の健康に与える影響を科学的に明らかにする	管理栄養士 / 給食 / 栄養管理 / 食習慣 / 栄養疫学 / 食事調査
栄養教育学	杉村 留美子	准教授	行動科学理論に基づく栄養教育、食行動変容の促しに関する研究	管理栄養士 / 栄養教育 / 行動科学 / 食習慣 / 食行動 / 健康の維持·増進
公衆栄養学	木村 宣哉	講師	地域·集団·個人における健康についての研究	管理栄養士 / 生活習慣 / 地域保健 / 健康寿命 / ヘルスリテラシー / 保健活動

食事・栄養管理を通じて 病気の改善に貢献できた時、 やりがいを感じます

酪農学部 食品科学科 健康栄養学専攻 ›››
（現・食と健康学類 管理栄養士コース）

医療法人徳洲会
札幌徳洲会病院 栄養管理室

北村（きたむら） 雄治（ゆうじ） さん

2009年3月卒業　北海道／札幌手稲高校出身

高校生の時に食事とスポーツの関係を知ったことが、栄養学に興味を持ち、管理栄養士を目指すきっかけでした。同時期に祖父が糖尿病と分かり、栄養と病気に関係があることに関心を持ちました。

現在、私は管理栄養士として給食業務、栄養指導に従事しています。給食業務では患者様の食事点検などを行い、安全で安心な食事提供をしています。栄養指導では生活習慣病の栄養指導や人間ドック受診者に対する栄養指導を行っています。またチーム医療であるNST（栄養サポートチーム）の担当でもあります。

食事と栄養の管理を通じて病気の改善に貢献できた時、またNSTのチーム活動を通して、摂食が徐々にできるようになり、患者様が退院できた時には、特にやりがいを感じます。大学時代は苦手だった生化学、解剖生理学、病理学といった学問でしたが、臨床の場では必要不可欠となるため、仕事の上で役立っています。

当時の健専コースは、約40人の1クラスだったので、同級生と濃密に勉強し、遊びました。首席で卒業でき、両親に親孝行もできました。大学合格をゴールにするのではなく、専門的なことを学び、やりたいことを実現していってほしいと思います。

食品流通を学び 女性では珍しい「せり人」を 目指して修業中

食と健康学類 食品流通学コース ›››

金港青果株式会社
野菜第二部 販売営業第1ユニット

久保（くぼ） 亜祐未（あゆみ） さん

2016年3月卒業
北海道／石狩南高校出身

私は中央卸売市場で、産地から送られてきた野菜や果物などを、仲卸や八百屋、バイヤーに販売する仕事をしています。酪農学園大学の物流科学研究室で市場見学をしたのが、この仕事に就くきっかけになりました。市場で働いている人たちはみんな活気があり、また目の前でせりを見て感動し、自分も資格を取ってせりをしたいと思ったのです。まだ見習い段階なので、先輩の補助として少量の野菜を扱うだけですが、すべて売れたときはとても嬉しく、達成感を感じます。

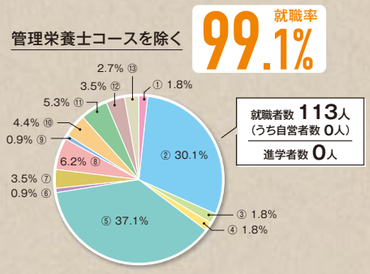
酪農学園大学では食品の商品開発、食品の成分分析、食品流通といった食の勉強を幅広く、しかも深く学べました。青果物の流通は大変複雑な仕組みですが、私はそれを学んできたので、スムーズに仕事に挑めました。YOSAKOIサークル"祭"で体を動かすのが好きになり、人脈も広がったことは、今の仕事にも役立っています。酪農学園大学での勉強は、学んだことを生かしたい！と思うような興味深い内容ばかりでした。焦点を絞った専門的な知識がたくさん身に付くので、自分のやりたいことが明確に見えてくると思います。

食と健康学類 就職実績

就職先分野別グラフ（2019年3月卒業生）

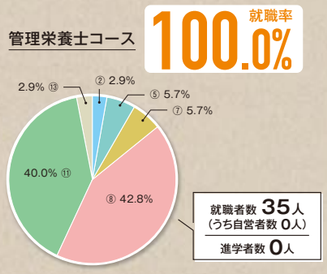
- ①農業・林業
- ②製造業
- ③情報通信業
- ④運輸業・郵便業
- ⑤卸売業・小売業
- ⑥金融業・保険業
- ⑦学術研究・専門・技術サービス業
- ⑧宿泊業・飲食サービス業
- ⑨生活関連サービス業・娯楽業
- ⑩教育・学習支援業
- ⑪医療・福祉
- ⑫複合サービス事業
- ⑬公務

管理栄養士コースを除く 就職率 **99.1%**



就職者数 113人（うち自営者数 0人）
進学者数 0人

管理栄養士コース 就職率 **100.0%**



就職者数 35人（うち自営者数 0人）
進学者数 0人

乳製品のプロフェッショナル を 目指して

食と健康学類 食品開発学コース ›››

タカナシ乳業株式会社

池内（いけうち） 百合絵（ゆりえ） さん

2017年3月卒業
北海道／市立函館高校出身

小さい頃から乳製品全般が大好きで、自分でもそれを作る仕事をしたいと思うように。専門分野の授業や、乳製品・肉製品製造の実習施設が充実していたことが、酪農学園大学を選んだ最大の理由です。

ゼミでは乳製品製造学研究室に所属し、毎日のように実習や実験を行い、アルバイトと就職活動との両立に苦労しましたが、充実した大学生活でした。乳製品の実習や研究室の活動は、今の職業にとても役立っています。

進路を考える上で大事なことは好きなものに関わることだと思い、乳業メーカーに絞りました。タカナシ乳業を選んだのは、消費者にも働く人にも誠実な会社だと感じたからです。仕事の内容は主に乳製品の製造のオペレーターです。また、委員会活動（省エネ委員会や、安全委員会など）にも参加しています。乳製品の知識を深めて、今後どんな部署でも活躍できる人材になりたいですね。将来の夢は乳製品のプロフェッショナルになることです。

高校生の段階では、将来の夢などすぐに見つけられないかもしれません。少しでも興味あるものにたくさん触れて、その中でやりたいことを見つけてほしいと思います。

学んだことすべて が 仕事のさまざまな面で生きています

食と健康学類 食品流通学コース ›››

セイコーリテールサービス 株式会社 営業支援部

堀端（ほりはた） 友貴（ともき） さん

2019年3月卒業
北海道／酪農学園大学附属 とわの森三愛高校出身

私は大学時代セイコーマートの店舗でアルバイトをしており、インターンシップや説明会で先輩社員の姿を見て、入社しました。現在、支援が必要な店舗の応援や新人がいる店舗での研修、移転新店の立ち上げなどに携わっています。「北海道の食のインフラ」の誇りを持って、仕事に打ち込んでいます。製造・物流・小売の幅広い事業を行うセコマの一員として、複数の部門・分野で活躍できるプロフェッショナルを目指しています。

私は農産物の知識や食品加工の技能を学び、社会に貢献するため酪農学園大学に入学しました。3年次からは食品生産システム研究室に所属し、江別の豆腐工場でHACCP講習会の受講や、東京の物流施設の視察など、貴重な体験をさせてもらいました。専攻した品質管理、商品開発はもちろん、4年間で学んだことすべてが、仕事のさまざまな面で生きています。部活の合気道を通じて、忍耐力、集中力、思いやりの心を養えたことも良かったです。

酪農学園大学は、興味深く専門的なことが学べ、やりたいことを見つけるには最高の場所。全国から集まる仲間と積極的に接し、一つでも多くの経験を積んで、自分の夢をイメージして頑張ってください。

酪農学園大学キャリアセンター
SNS・HPで情報発信中！
Facebook
Twitter
HP

農食環境学群

環境共生学類

College of Agriculture, Food and Environment Sciences
Department of Environmental Sciences

世界の自然環境をどう守る？
その答えを北海道から探す

学びの流れ

1年次

基盤教育
- 酪農学園教育
- 人文社会科学教育
- 自然科学教育
- 保健体育教育
- 情報教育
- 外国語教育
- 導入教育

2年次

基盤教育
- キャリア教育

専門基礎教育
- 基礎科学領域
- 食品科学領域
- 情報科学領域
- 国際領域
- 環境科学領域
- 農業科学領域
- 社会科学領域
- 全学共通専門基礎領域

3・4年次

基盤教育
- キャリア教育

専門教育
- 専門共通教育
- 野生動物学コース専攻教育
- 生命環境学コース専攻教育
- 環境共生学類教育

3

2

1

6

5

4

1森林内で植物の同定や動物の痕跡を調査
2野付風蓮道立自然公園走古丹において冬を越すエゾシカ
3６枚羽の大型ドローン
4レーダを用いた雪雲の微細構造計測（名古屋大学と共同研究）
5洞爺湖町ソウベツ川での河川環境のフィールド観測
6環境試料中の栄養塩高精度分析

「好き」をかたちに

学びのポイント

POINT 1

地球環境、生態系の仕組みやつながりを科学的に解明し問題解決の方法を探る

環境とは人や生物を取り巻く総体で、守るのも壊すのも人の考え方次第です。野生の動植物に対して好き嫌いだけではなく、一つの生命として向き合い、すべての自然のつながりを理解する学びを行います。

POINT 2

北海道から世界のフィールドで実学教育を実践

4年間を通してたくさんのフィールドワークの機会があり、複雑な生態系を肌で感じながら学ぶことができます。学生の4人に1人が実習・調査・留学で、アジアやオセアニア、欧米、アフリカなどの海外経験をしていることも本学類の特徴です。

POINT 3

GIS（地理情報システム）、RS（リモートセンシング）を用いた情報解析を実践的に学ぶ

地域の諸問題の解決には人工衛星やドローンから得られる空からの目「RS」、さらに、その画像を他の情報と合わせて解析する「GIS」が不可欠です。これらの技術を講義だけでなく実習等も通じて実践的に学びます。

POINT 4

自然と人が調和・共生する社会の実現に貢献できる人材を育成

本学類には環境に関する多種多様な分野を専門とする教員が在籍しています。広大なフィールドで、自然と共生する社会に貢献するための活きた力が養われます。

取得可能資格

必要要件を満たせば卒業と同時に取得可能な資格です。
- 中学校教諭1種（理科）
- 高等学校教諭1種（理科）
- 准学校心理士

受験資格

必要要件を満たせば受験する資格が得られます。
- 鳥獣管理士　準1級（野生動物学コース卒業必須）、2級、3級
- シカ捕獲認証（レベル1）

学類でサポートする資格
- 気象予報士
- 生物分類技能検定
- 猟銃所持許可
- 狩猟免許
- ビオトープ管理士
- 公害防止管理者
- 環境測定分析士
- 技術士補
- 食品衛生責任者

目指す職業
- 環境・建設コンサルタント業
- 環境NPO・NGO法人
- 衛生サービス業
- 情報通信業
- 農業協同組合・森林組合
- 教育・学習支援業
- 教員
- 都道府県・市町村公務員
- 狩猟者・認定鳥獣捕獲事業者　など

3·4年次 専門教育 コース紹介

3·4年次 専門教育

生命環境学コース

北海道の森·川·湖·海といった優れた自然資源の保全と利用を題材に、生命圏の物質的·エネルギー的環境に関する理論と技術を学ぶ。

コースTOPICS

- 地域から地球規模まで幅広い環境問題に対応できる人材（Nature Specialist）を育成
- 気候や気象、環境変動·変化、湖沼·河川流域環境、海洋環境、水環境、土壌や植生、植物等を専門とする多彩な研究室

3·4年次 専門教育

野生動物学コース

野生動物の保全と管理について、北海道の広大なフィールドを舞台に生態学と地域社会との関わりを基礎とした幅広い理論と技術を学ぶ。

コースTOPICS

- 国内唯一の野生動物に関わる地域の問題を解決できる専門家（Wildlifer）養成を目指す
- 野生動物の生態や行動、保全や管理、狩猟や有効活用、鳥獣行政、人や地域と野生動物などを専門とする多彩な研究室

各コース共通

- 地球規模の（Globalな）視点で環境問題を捉え、地域の（Localな）視点で問題解決のために行動できる人材を育成
- 自然環境や野生動物、人々の暮らしを地域の資源として地域活性化にも貢献
- 北海道の大自然、森·里·川·海全てがフィールド。全道各地で豊富なフィールドワーク
- 地域の課題も地球環境の危機も、市民公園の池から南極まで、広範な教育研究テーマ

TOPICS

- マレーシアやモンゴルなどアジアを中心とした海外実習やフィールドワークも充実
- 人工衛星やドローン、ICTを活用した高度な環境情報解析
- 全国各地の野生動物や環境の問題に、最前線で活躍する人材を輩出中
- 資格取得に繋がる専門科目を多数配置

多種多様な専門教育の中で

生命環境分野

フィールド科学
気象·気候
物質循環
森·海·川·湖·空·土
環境汚染
環境変動·変化
地球温暖化
環境観測·計測
環境要素

環境情報分野

地理情報システム（GIS）
空間情報
リモートセンシング
数値統計と空間統計
生息地モニタリング
遊牧と定住
高分解能衛星画像
ディープ·ラーニング
ドローン

どんな切り口（分野）で学びを深めるかはあなた次第！

野生動物分野

生物多様性
DNA
鳥獣被害対策
野生動物管理
希少種保全
生態系
外来種対策
自然資源利用
景観生態

人文社会分野

人の健康
環境政策
国際理解
社会的合意形成
持続可能な開発目標
環境法
循環型経済
再生可能エネルギー
地域社会

学生からのメッセージ

大学生活は動物浸け。大学院でさらに研究します

環境共生学類
生物多様性保全研究室 4年
一丸 大地 さん
東京都／赤羽商業高校出身

私はもともと狩猟に興味があり、狩猟免許のサポートがある本学に入学しました。現在、わな、網、猟銃の狩猟免許を持っています。「狩猟管理技術論」という授業では、銃器、わなの使い方のほか、苦しめないように配慮するなど動物福祉の考えを学びました。

研究室では、2つのテーマを追究しています。1つは稚内のシカの生息状況。現在、人とシカの接触事故、家庭菜園の食害、人獣共通感染症などの問題があります。これまで駆除していたのですが、その効果はデータとして明確ではありませんでした。なぜ、シカは食べ物が豊富な山から市街地に出てくるのか。毎月稚内に通い、データを蓄積して解明しています。

もう1つは、浜中町でのシカの新しい捕獲方法の開発です。本学で一から手作りした囲いわなは、監視カメラ付き。画像データをWi-Fiで送信し、遠隔操作でシャッターをおろして捕獲する仕組みです。私は高校では情報科だったので、電子機器まわりやシステム開発を担当しました。これらの研究では行政への報告書を書くなど、デスクワークも学べました。狩猟への興味から研究の面白さに目覚め、将来は野生動物の個体数管理や被害の防除計画立案などの仕事を目指しています。

本学はキャンパスが広く、野鳥、タヌキ、キツネ、アライグマなど野生動物がよく出没します。大学でもフィールドでも、アルバイト（アライグマの駆除）でも、動物浸けの生活です。動物の専門分野は多彩で幅広いので、好きな分野がきっと見つかりますよ。

教員からのメッセージ

納得して失敗し、再挑戦し、やがて本物に

環境共生学類
生物多様性保全研究室
立木 靖之 准教授

私は北海道の野生動物や自然再生にかかわる仕事を経て、マレーシアのサバ大学で研究・教育をしていました。ゾウとヒトの問題、森林再生などをテーマとし、今も調査・支援を続けています。「ヒトと自然環境の境界」が私の研究領域であり、物理的にもそうした場所に立つのが好きです。ここで起きる問題を解決しないと、たとえばゾウとヒトは共生できません。

北海道は広大で、生物多様性に富んだ素晴らしいフィールドです。調査の対象も多様であり、学生たちのテーマも地域の森林再生やエゾシカとの共存など、多岐にわたっています。対象が何であれ、ベースはフィールドワークであり、1週間から2週間、キャンプ暮らしが続くことも珍しくありません。そこでは自然に対する基本的なアプローチはもちろん、他者とのコミュニケーションやマネジメントの力が培われます。それにより、問題解決への合意形成ができるようになっていきます。正確なデータに基づいた、科学的な判断力も養います。

もちろん、失敗も数多くありますが、その理由を考え、いわば納得して失敗し、また次に挑戦する。それを繰り返すことで、本物の「考えるヒト」になります。「これ、なぜだろう?」という純粋な疑問を大切にし、生物や環境に対して「自分にできることはないだろうか」という志のある人を歓迎します。ぜひ、北海道というフロンティアで実地に学びましょう。ここで培われた力は、卒業後も必ず社会の多様な分野で役に立ちます。

[カリキュラム] ☆1は外国人留学生のみ

※この内容は2020年4月1日現在のものです。今後変更もあります。

1年次

基盤教育

■建学原論
■キリスト教学Ⅰ
■キリスト教学Ⅱ
■循環型農業論
■健士健民入門実習
■哲学
■心理学
■文学
■社会学
■日本史
■世界史
■地誌
■地理学
■法学
■日本国憲法
■経済学
■数学Ⅰ
■数学Ⅱ
■生物学
■生物学実験
■化学
■化学実験
■物理学
■地学
■運動の科学
■体育実技Ⅰ
■体育実技Ⅱ
■情報科学の基礎
■情報処理基礎演習
■英語Ⅰ
■英語Ⅱ
■英語Ⅲ
■英語Ⅳ
■日本語Ⅰ ☆1
■日本語Ⅱ ☆1
■基礎演習Ⅰ
■循環農学概論
■食と健康学概論
■環境共生学概論
■獣医療概論

専門基礎教育

■国際関係とメディアコミュニケーションの科学
■循環農法とワンヘルスサイエンス
■人と動物の関係の科学

教職課程教育

■教育原理
■教職入門
■教育心理学

2年次

基盤教育

■キリスト教と諸宗教
■キリスト教と生命倫理
■統計学Ⅰ
■統計学Ⅱ
■物理学実験
■地学実験
■英語演習Ⅰ
■英語演習Ⅱ
■ドイツ語Ⅰ
■ドイツ語Ⅱ
■フランス語Ⅰ
■フランス語Ⅱ
■中国語Ⅰ
■中国語Ⅱ
■ハングルⅠ
■ハングルⅡ
■基礎演習Ⅱ
■キャリアベーシック
■キャリア実習Ⅰ

教職課程教育

■特別支援教育論
■教育課程論
■教育方法論
■生徒・進路指導論
■教育相談論

専門基礎教育

■無機化学
■有機化学
■物理化学
■分析化学
■生化学
■微生物学
■土壌学
■植物遺伝学
■動物遺伝学
■植物生理学
■動物生理学
■民法・商法
■行財政学概論
■経済原論
■ミクロ経済学
■マクロ経済学
■マーケティング論
■経営学総論
■日本経済論
■エネルギーの物理学
■ボランティア活動・NPO・NGO論
■品質管理論
■家畜解剖学
■家畜生理・解剖学実験
■家畜行動学
■畜産学総論
■畜産経営論
■農業微生物学実験
■農産物利用学実習
■農業機械学
■草地・飼料作物学
■作物生態生理学実験
■作物栽培学
■園芸学
■農業経営学概論
■農業政策学
■農業法
■学外農場実習
■海外農業実習
■実践農学実習Ⅰ
■実践農学実習Ⅱ
■食品学
■乳科学
■食肉科学
■食品化学
■食品分析学
■食品製造学
■食品流通論
■食品産業論
■食料経済論
■食品総合実験
■応用生化学
■食品卸・小売商業論
■環境物理学
■生物分類学
■動物形態機能学
■気象学の基礎
■生物地球化学
■北海道環境学
■アジア環境学
■自然環境学実験・実習
■環境法
■野生動物学の基礎
■動物生態学
■植物生態学
■地形・地質学
■環境共生学外実習
■地域研究
■海外自然環境実習
■情報処理演習
■GIS基礎演習
■GIS応用演習
■リモートセンシング基礎演習
■流通経済論
■簿記・会計学概論
■協同組合学
■中小企業論
■農畜産物市場論
■農村社会学
■社会調査法
■国際経済論
■国際関係論
■国際理解
■国際法
■観光と地域振興の科学
■GIS・リモートセンシングによる空間情報の科学
■エントロピーから見たエネルギーの科学
■食の安全・安心の科学
■全学専門基礎特別演習

3年次

基盤教育

■キャリアデザインⅠ
■キャリアデザインⅡ
■プレゼンテーション
■キャリア実習Ⅱ

専門基礎教育

■統計データ分析演習
■農業施設学
■農業施設・機械学実習
■雑草学
■実践農学実習Ⅲ
■食品衛生学
■公衆衛生学
■食品関係法
■免疫学
■栄養生理学
■食品物性学
■食品資源学
■消費者行動論
■景観生態学
■保全生物学
■サステイナビリティ学
■資源管理論
■資源経済学

教職課程教育

■教育社会学
■道徳教育指導論
■総合的な学習の時間の指導法
■特別活動論
■理科教育法Ⅰ
■理科教育法Ⅱ

専門教育

■専門ゼミナールⅠ
■専門ゼミナールⅡ
■環境変動のリモートセンシング
■環境情報の解析
■地域資源学
■生息地保全管理論
■環境アセスメント論
■ビオトープ論

【野生動物学コース】
■野生動物保全技術実習
■野生動物観察同定実習
■野生動物保全行政論
■野生動物保全と人間事象
■狩猟管理技術論
■野生動物生態学
■野生動物管理学
■環境共生演習
■実践野生動物学実習
■植生保全学

【生命環境学コース】
■森林環境学
■水圏環境化学
■自然環境保全と地球温暖化
■環境気象・気候学
■水圏・地圏総合実習
■生命環境学実験実習
■環境共生演習
■植生保全学
■実践生命環境学実習
■火山・鉱物学

4年次

専門教育

■専門ゼミナールⅢ
■専門ゼミナールⅣ
■卒業論文
■環境教育論
■環境思想・倫理学
■動物園・水族館学
■自然再生エネルギー論

教職課程教育

■教育実習（高1免）
■教育実習（中・高1免）
■教職実践演習（中・高1免）
■理科教育法Ⅲ
■理科教育法Ⅳ

pickup

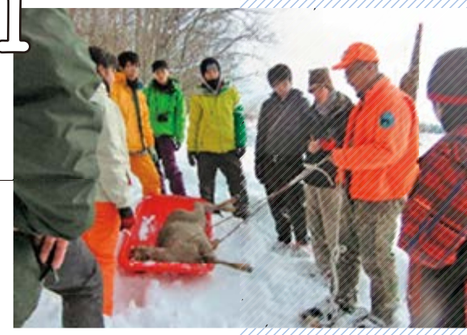
ピックアップ研究室

環境共生学類

pickup 1

狩猟管理学研究室

伊吾田 宏正 准教授



持続的な狩猟の発展および狩猟鳥獣の生態と管理

野生動物管理において重要な役割をもつ狩猟や捕獲の価値を高め、狩猟鳥獣の理想的な管理を実現するために、エゾシカなどの鳥獣の生態と管理手法、狩猟活動の実態、狩猟者教育、鳥獣の持続的な資源利用などに関して、フィールド調査を中心とした研究を行っています。

学びのkeywords ●狩猟 ●鳥獣 ●生態 ●管理 ●捕獲 ●資源利用

2 pickup

環境空間情報学研究室

小川 健太 准教授

GIS・RS技術の応用

ドローン（UAV）や地球観測衛星などにより撮影した画像の農業・環境・防災分野での応用についての研究を行っています。GIS（地理情報システム）・RS（リモートセンシング）技術を用いた農地モニタリング、野生動物の生態の把握、大規模災害時におけるGISを用いた状況認識等のテーマに取り組んでいます。農業分野では牧草地をドローンで撮影し、生育状況や収量・栄養価を把握する研究を行っています。環境分野ではディープラーニングによる画像認識を用いて宮城県の伊豆沼や北海道の宮島沼等の野鳥のカウントに活用しています。

学びのkeywords ●地球環境 ●環境計測 ●リモートセンシング ●人工衛星 ●ドローン ●GIS ●ディープラーニング

生物資源保全学研究室

原村 隆司 准教授

pickup 3

動物の行動・生態の解明および生物多様性保全に関する研究

地球上にはさまざまな動物がいます。そして、すべての動物がさまざまな興味深い行動や生態を持っています。私の研究室では、両生爬虫類や昆虫などの小型動物を対象に、それらの行動や生態がどのように進化してきたのかを解明する研究を行っています。また、近年、北海道でも外来種問題が注目されています。このような外来種を防除・駆除するためにも、外来種が持つ生態を詳細に解明する必要があります。そこで、北海道の生物多様性を守るための外来種防除に関する調査も進めています。調査では、フィールドワークや室内実験を中心として、マクロからミクロレベルでの動物の行動・生態解明を行っています。

学びのkeywords ●外来種 ●生物多様性 ●フィールドワーク ●両生類 ●動物行動 ●自然保護

4 pickup

生態系物質循環研究室

保原 達 教授

生態系の生物と環境を行き来する物質の循環を研究

自然生態系では、生物が他の生物と繋がって生きています。しかしそれだけではなく、生物は生物以外の大気や水や土壌などとも密接な繋がりを持っています。例えば、動物の血液に必須な鉄分は、元は鉱物中にあったものが土壌の中に溶け出し、それを取り込んだ植物を動物が食べる、という流れを通って動物へと渡ります。本研究室では、このような生物と非生物が織りなす繋がりを、それらに共通する「物質」や「元素」の分析を元に明らかにしていきます。そして、得た知見を生態系や地球環境の保全に役立てられるよう研究を進めています。

学びのkeywords ●植物 ●土壌 ●養分 ●元素 ●火山灰 ●地質

［研究室一覧］

研究室	教員	職名	テーマ	学びのkeywords
環境リモートセンシング	星野 仏方	教授	オオカミと共存する遊牧民と退化草原を甦生させるレジリエンス	リモートセンシング / 乾燥地・半乾燥地 / 衛星追跡 / ハイイロオオカミ / 共存・共生 / 黄砂と微生物
水質化学	中谷 暢丈	教授	水環境での物質循環過程や人為的汚濁・汚染を化学的に解析評価	川 / 湖 / 環境観測・計測 / 生命環境 / 環境汚染（水質・大気） / 化学
資源再利用学	押谷 一	教授	限られた資源を有効に利用して持続可能な循環型社会を形成する	循環型経済 / 自然再生エネルギー / 地域資源 / コミュニティ開発 / まちづくり / 環境と観光
環境GIS	金子 正美	教授	北海道とアジアの自然環境をGISを用いて解析する	リモートセンシング / GISによる野生動物管理 / アジアの野生動物保護と環境再生 / 持続的な開発目標（SDGs） / 環境教育とESD
哲学・人文諸科学	小林 敬	教授	ガブリエル・マルセルの宗教哲学の研究	全学教育 / 哲学 / フランス語 / 宗教思想
野生動物生態学	佐藤 喜和	教授	フィールドワークを通じて野生動物の生態を探る	フィールドワーク / ヒグマ / 鳥獣対策 / 野生動物 / 森林
情報工学	高取 則彦	教授	生物進化のシミュレーションと進化的計算法	情報科学 / シミュレーション / 生物の進化 / 最適化
環境法	遠井 朗子	教授	地球環境条約の履行確保と国内実施方法の検討	国際環境法 / 環境法政策 / 生物多様性 / 再生可能エネルギー / 環境アセスメント / 環境犯罪
生態系物質循環	保原 達	教授	生態系の生物と環境を行き来する物質の循環を研究	植物 / 土壌 / 養分 / 元素 / 火山灰 / 地質
身体環境学	牧原 統	教授	人の健康づくりと自然環境との共生などの諸問題を研究	フィールドワーク / 環境問題 / 海 / 環境保全 / 人の健康教育 / スポーツ
フィールド情報学	森 夏節	教授	フィールドから得られたデータを分析、解析し、明らかとなった諸問題を情報技術を用いて解決する	IT化と環境 / 環境問題 / 地理情報システム / 地球環境 / 環境教育 / 情報技術の習得
環境地球化学	吉田 磨	教授	地球の生命も環境も守るために、多様なフィールドで観測研究	地球温暖化 / 環境変化 / 環境観測・計測 / 海 / 環境教育 / 地方創生
狩猟管理学	伊吾田 宏正	准教授	持続的な狩猟の発展および狩猟鳥獣の生態と管理	狩猟 / 鳥獣 / 生態 / 管理 / 捕獲 / 資源利用
環境空間情報学	小川 健太	准教授	GIS・RS技術の応用	地球環境 / 環境計測 / リモートセンシング / 人工衛星 / ドローン / GIS / ディープラーニング
保全生物学	鈴木 透	准教授	野生動物と自然環境の相互関係を科学する	生物多様性 / 保全 / 景観生態 / フィールドワーク / GIS / ドローン
生物多様性保全	立木 靖之	准教授	持続可能な地域社会と生物多様性の保全についての研究	鳥獣対策 / 生物多様性 / フィールドワーク / 海外 / 環境保全 / 地域社会
気象・気候学	馬場 賢治	准教授	大気や海洋の見地から社会や動植物に与える影響を研究	気象・気候 / 環境汚染（水質・大気） / 環境観測・計測 / 大気海洋相互作用 / 海氷 / 教職
生物資源保全学	原村 隆司	准教授	動物の行動・生態の解明および生物多様性保全に関する研究	外来種 / 生物多様性 / フィールドワーク / 両生類 / 動物行動 / 自然保護
環境植物学	松山 周平	准教授	DNA分析や操作実験を用いて植物と環境の関係を研究する	植物 / 森林 / 生物多様性 / 希少植物 / フィールドワーク / DNA分析
環境動物学	森 さやか	准教授	主に鳥類を対象に野生動物の生態と保全に関わる研究に取り組む	生物多様性 / 環境保全 / 野生動物 / フィールドワーク / DNA分析 / GIS
国際理解学	吉中 厚裕	准教授	持続可能な社会実現のための「地球」と「地域」両視点の尊重と統合	生物多様性 / フィールドワーク / 地球環境 / 環境政策 / 自然資源の保護・利用 / 地域社会
野生鳥獣管理学	伊藤 哲治	講師	野外での調査・活動を通じて、鳥獣管理のための知見を得る	野生動物 / 鳥獣管理 / フィールドワーク / DNA分析 / 被害対策 / 地域交流

北海道各地での 多岐にわたる実習の経験が 現在の仕事に役立っています

環境共生学類 野生動物学コース ›››

株式会社 野生動物保護管理事務所
調査事業部

榊 葵（さかき あおい）さん

2016年3月卒業　岩手県／一関第一高校出身

野生動物保護管理事務所（WMO）は、日本の生物多様性保全と野生動物保護管理システムの確立を目指し、野生動物の生態とこれに関わる人との問題を解決すべく、日々活動しています。私は現在、調査事業部に所属し、研究員として主に野外での野生動物の調査を行っています。具体的には、シカやサルなどの野生動物に発信器を装着し行動を把握したり、センサーカメラを設置し分布や密度を把握したりしています。

この仕事では野生動物をとりまく社会的問題や人と人とのつながりにまで目を向ける必要があり、さまざまな問題を地道に一つずつ解決していかなければなりません。外来種や増えすぎてしまった動物、人とのあつれきが深くなってしまった動物なども扱います。人の都合で消えてしまう命を少しでも減らせるように日々従事しています。

研究室では、ライトセンサス調査をはじめとし、シカの生体捕獲、テレメトリー調査などの野生動物の野外調査や、GISを使ったデータ解析などさまざまな経験ができました。この経験は、今の仕事をする上でとても役立っています。

野生動物を専門にした研究室がこれだけたくさんあるのは、酪農学園大学の大きな魅力です。大学4年間はあっという間です。ぜひ、少しでも興味のある分野で学び、夢を見つけてください。

ゼミで学んだGIS、GPSの 知識を生かし、農地整備に伴う 暗渠管（あんきょかん）の設計をしています

環境システム学部 地域環境学科 ›››（現・環境共生学類）

株式会社 安井測量設計事務所

讃井 麗也（さぬい れいや）さん

2014年3月卒業　北海道／札幌啓成高校出身

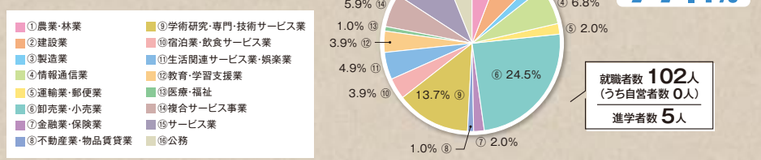
高校時代から地理が大好きでした。酪農学園大学には日本有数のGIS（地図とIT情報を融合させたシステム）施設があると知り、また環境問題にも関心があったので入学しました。ゼミで学んだGISやGPSの知識を生かすために、現在の会社に就職しました。主に農地の測量をして、水はけの悪さや養分の偏りをなくすなどのために農地整備に伴う暗渠管（あんきょかん）の方向や勾配、口径などの設計を担当しています。私が関わった畑が整備され、利用されている様子を見ると、手応えを感じられます。

在学中は教職課程も履修し、人への教え方や接し方などに役立っていると感じます。また熱気球愛好会に所属し、熱気球を自作して全国各地の大会に参加したことも、良い経験でした。廃部の危機など苦しいこともありましたが、おかげで人間的に成長できたと思います。勤務先は帯広市にあるので、現在も熱気球を楽しんでいます。

酪農学園大学では学びたいこと、挑戦したいことが、すべて自分の意志次第でできると思います。思い切り自分の興味を掘り下げて、楽しんでほしいと思います。それがきっと将来に役立ちます。

環境共生学類 就職実績

就職先分野別グラフ（2019年3月卒業生）



就職率 97.1%

就職者数 102人（うち自営者数 0人）
進学者数 5人

青年海外協力隊で、 発展途上国の子どもたちに笑顔を

環境共生学類 生命環境学コース ›››

青年海外協力隊ガーナ 理科教育
（ガーナ ボルタ州 カジェビ郡 カジェビ・アサト高校）

茂 北斗（しげる ほくと）さん

2017年3月卒業　北海道／市立函館高校出身

私は幼い頃、きのこ博士になりたいと思い、その後研究職、海外で仕事をすること、教員にも興味をもつようになりました。自然が好きで、海外への憧れもあり、環境の整っている酪農学園大学に進学しました。

大学では日本有数の施設を誇る環境GIS（地図とIT情報を融合させたシステム）研究室に所属。そこで小学生向けの環境教育も学び、教えることのすばらしさ、難しさも実感しました。海外実習にも参加し、世界を肌で感じる良い機会になりました。プライベートでは4人部屋の寮生活と軽音サークルが、なつかしい思い出です。

海外生活に挑戦してみたかったので、自分の好きな教えることと、海外生活を両立できる協力隊に応募しました。現在は青年海外協力隊・理科教育・ガーナ派遣。高校1年生を対象とした化学の指導および小学生向けの実験の指導をしています。ガーナでは、大学時代に培った経験がすべて生かされています。

帰国後は自分の力で生きていける人間になること、自立することが目標ですが、ガーナでの日々はその礎になってくれると思います。一生懸命頑張ったことは大学卒業後も無駄にはなりません。好きなことに打ち込んでください。

研究フィールドで 子どもたちと触れ合い 環境教育の仕事へ

環境共生学類 生命環境学コース ›››

浜頓別クッチャロ湖水鳥観察館
（浜頓別町役場）

千田 幹太（ちだ かんた）さん

2017年3月卒業
岩手県／黒沢尻北高校出身

私はラムサール条約登録湿地の拠点である浜頓別クッチャロ湖水鳥観察館で、自然環境に関することを中心に勤務しています。具体的には、来館者の案内、近隣学校での授業、野鳥の標識調査、ハクチョウの飛来数調査・発信器調査、大学や研究機関の調査協力、子どもチームの活動、湖水まつりの開催や、観光などにも携わっています。

大学での一番の思い出は、研究室での活動です。浜頓別町には、環境地球化学研究室に所属している時に約20回、足を運びました。他にもいくつか研究フィールドがあり、全てのフィールドに参加。徹夜で分析をしたり、環境教育のプログラムを考えたり、大切な仲間もできてとても楽しかったです。

その活動の1つに、浜頓別町の子どもチームと一緒に行う「環境キャンプ」がありました。社会人になっても子どもと活動したいと思い、指導教員の吉田磨教授から、浜頓別町に紹介していただきました。

実習や卒業論文に取り組む際、さまざまな分析機器や調査道具を使いますが、本来は大学院生からしか使えない機器でも、酪農学園大学では積極的に使用方法が学べます。技術を身に付けることは、就職後の即戦力にもなります。ハードな面もありますが、全国から集まる仲間と一緒に、楽しい学生生活を送ってください。

酪農学園大学キャリアセンター
SNS・HPで情報発信中！
Facebook　Twitter　HP

獣医学群が活躍するフィールド

獣医学類 生体機能学分野

動物の構造や機能を学ぶ、いわば獣医学の土台。研究から臨床まで幅広く応用できます。

目指す職業：検査機関／伴侶動物臨床獣医師／公務員／野生動物保護機関／研究員

獣医学類 感染・病理学分野

動物の病気の原因を調べ、予防法を考える基礎研究。比較的、研究員や公務員に向いています。

目指す職業：研究員／公務員／伴侶動物臨床獣医師／生産動物臨床獣医師

獣医学類 生産動物医療学分野

牛・馬・豚などの生産動物に関わる疾病を学習。畜産物を守り、食の安全に貢献できます。

目指す職業：生産動物臨床獣医師／研究員／公務員

獣医学類 衛生・環境学分野

病気の予防を主な目的に家畜衛生と公衆衛生を総合的に修得。国際的にも活躍の場があります。

目指す職業：研究員／公務員／生産動物臨床獣医師／検査機関／JICA等国際関係機関

獣医保健看護学類

生命の声を聞き、人と動物をつなぐスペシャリストを養成します。卒業生は、幅広い分野（伴侶、展示、生産動物）で活躍しています。

目指す職業：生産動物看護師／研究員／伴侶動物看護師／公務員

獣医学類 伴侶動物医療学分野

犬や猫など伴侶動物の健康を実現。獣医療の高度化が進み、眼科などの専門医も求められています。

目指す職業：伴侶動物臨床獣医師／専門医／教員

獣医学群

獣医学類

School of Veterinary Medicine
Department of Veterinary Medicine

動物にも人間にも信頼される獣医師になる

学びの流れ

1・2年次

基盤教育
- 酪農学園教育
- 人文社会科学教育
- 自然科学教育
- 保健体育教育
- 情報教育
- 外国語教育
- 導入教育

1・2・3・4・5年次

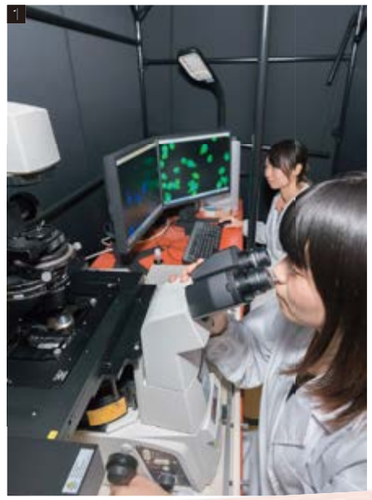
基盤教育
- キャリア教育

専門基礎教育・専門教育
- 全学共通専門基礎科目
- 感染・病理学分野
- 生産動物医療学分野
- 生体機能学分野
- 衛生・環境学分野
- 伴侶動物医療学分野

専修教育
- 専修教育共通科目

5・6年次

専修教育
- 専修教育共通科目
- 生体機能専修コース
- 感染・病理学専修コース
- 衛生・環境学専修コース
- 生産動物医療専修コース
- 伴侶動物医療専修コース



❶レーザー共焦点顕微鏡で細胞や分子の機能を調べます
❷マルチディテクタCT装置を用いた画像診断について学ぶ
❸大学附属の動物医療センターには4つの手術室があり、多くの学生が学ぶことができる
❹牛の大きな体を支える蹄の管理は獣医師の大切な仕事
❺感染症の蔓延に関する病原微生物の動態について研究

「好き」をかたちに

学びのポイント

POINT 1

6年一貫教育で、獣医師として将来活躍する分野を見据えた高度な専門性を養う

「動物のお医者さん」だけではなく、獣医師の仕事は多岐にわたり、グローバルに活躍できます。本学類では実践的な学びを通して多様なニーズに応えていきます。

POINT 2

専門分野は、生体機能学、感染・病理学、衛生・環境学、生産動物医療学、伴侶動物医療学の5分野に区分

伴侶動物の病院をはじめ、人の健康を支える公衆衛生、動物を使った新薬の研究、家畜を守ることなど、さまざまな獣医師の役割を専門的に学ぶ5分野を設けています。

POINT 3

日本一の診療件数を誇り、最新の施設・設備を備えた附属動物医療センターで実践的な教育を実施

附属動物医療センターは日本一の診療件数を誇り、実際の症例を学ぶ機会が格段に多くあります。さらに学外の研究者を呼んで最先端の研究にふれたり、製薬会社などの企業と連携して現場を体験したり、将来の方向性に応じて高度な実験や実習に取り組める体制を整えています。

POINT 4

学生3人に担当教員1人がついて、しっかりと実践力を磨くアドバイザー制が整っている

学習の進み具合から専門への方向性まで、担当教員が学生一人ひとりに応じてアドバイスします。国家試験に合格して獣医師になるまで、細やかに指導していきます。

取得可能資格

必要要件を満たせば卒業と同時に取得可能な資格です。

- 食品衛生責任者

任用資格

特定の職業に任用されるための資格。資格を取得後、その職務に就いて初めて効力を発揮する資格です。

- 食品衛生監視員
- 食品衛生管理者
- 飼料製造管理者
- 環境衛生監視員
- 家畜人工授精師
- 狂犬病予防員
  ※獣医師免許取得者は資格を有する
- と畜検査員
  ※獣医師免許取得者は資格を有する
- 薬事監視員

受験資格

必要要件を満たせば受験する資格が得られます。

- 獣医師国家試験

目指す職業

- 動物医薬品製造業
- 農業共済組合
- 動物病院
- 研究機関
- 公務員
  （農林水産省、厚生労働省、環境省ほか）
  など

学生からのメッセージ

カンガルー病の原因菌を解明し、獣医師に

獣医学類
獣医細菌学ユニット 5年
真砂 聖令菜さん
東京都／立川高校出身

子どものころからさまざまな動物がいる環境で育ち、動物にかかわる仕事を目指していました。高校時代に愛犬が悪性の乳がんになり、手術も難しいため、生活の質を維持するのが精いっぱいに。頼れるのは獣医師と知り、入学しました。他大学の獣医学生と話してわかったのは、本学は大動物が豊富なこと。大動物の解剖も6人くらいに1頭と密度が大変濃く、教科書だけではわからないことが、目の前で実際にわかります。

3年次に動物園の獣医師を目指すようになり、野生動物の研究ができる獣医細菌学ユニットに。テーマはカンガルー病の原因菌の研究です。この病気は、カンガルーやワラビーのあごが腫れる骨髄炎。涙、鼻水がひどくなって食べられなくなり、死に至ります。原因菌が特定されておらず、より効果的な抗菌剤がなく治療法が確立していないのです。研究は、カンガルーの口の中の粘膜をこすってサンプルを取り、培養して色々な菌を分離するという地道な作業の繰り返し。日本一のカンガルー王国といわれる北九州市のひびき動物ワールドの獣医師との共同研究で、3年がかりで原因菌が見えてきました。

現在は国家試験を目指して勉強中です。将来は動物園の獣医師になりたいと思っています。そのために麻酔銃が撃てるように狩猟免許と、ダイビングの免許を取りました。キャンパスで野鳥やキタキツネが見られるなど野生動物が身近で、実習でも大動物に触れる機会の多い本学は、獣医師になるためには素晴らしい環境だと思います。

教員からのメッセージ

自分で新しい答えを見つけていく人間に

獣医学類
獣医生化学ユニット
岩野 英知 教授

私は本学の獣医生化学ユニットの出身で、研究一筋。専門とするバクテリオファージは、他の細菌（宿主）に自分のDNAを入れて増殖し、酵素を出してその宿主の細胞膜を溶かして殺してしまう（溶菌）働きを持っています。宿主がなくなれば増殖せず、人間の細胞には感染しません。

たとえば黄色ブドウ球菌には、A、B、C…と多くの種類があり、それを溶菌するファージもa、b、c…と多種類あります。aはA、B、Cに効き、bはBだけに効き、cはいずれにも効かない、というような特性があります。しかも、aはどれに対しても弱い効き目しかないが、bはBに対して強力に作用するといった現象もあります。膨大な量のファージから、特定の細菌に効果的なファージを、学生と共に地道に探索していく実験を根気よく行っています。

現在、MRSAのように抗生物質に抵抗力を持つ耐性菌が登場し、大きな問題になっています。しかし、バクテリオファージを使えば、それらも治療できます。世界で研究・実用化が急速に進んでおり、ファージ製品が身近になる日も近いでしょう。

私は臨床獣医師ではないので、目の前の動物を救うことはできませんが、研究開発により将来多くの動物や人間を救うことができると確信しています。研究とはそうした可能性のある、未来につながる仕事です。学生は教員と研究に取り組むことにより問題を発掘し、解決していく方法を学び、そのことは臨床現場でも必ず役に立ちます。ぜひ、自分で新しい答えを見つけていく、ワクワクするような研究の醍醐味を本学で味わい、社会で活躍してほしいと思っています。

[カリキュラム] ☆1は外国人留学生のみ

※この内容は2020年4月1日現在のもので今後変更もあります。

1年次

基盤教育

■建学原論
■キリスト教学Ⅰ
■キリスト教学Ⅱ
■循環型農業論
■健土健民入門実習
■哲学
■心理学
■文学
■社会学
■日本史
■世界史
■地誌
■地理学
■法学
■日本国憲法
■経済学
■数学Ⅰ
■数学Ⅱ
■生物学
■生物学実験
■化学
■化学実験
■物理学
■地学
■運動の科学
■体育実技Ⅰ
■体育実技Ⅱ
■情報科学の基礎
■情報処理基礎演習
■英語Ⅰ
■英語Ⅱ
■英語Ⅲ
■英語Ⅳ
■日本語Ⅰ ☆1
■日本語Ⅱ ☆1
■基礎演習Ⅰ
■循環農学概論
■食と健康学概論
■環境共生学概論
■獣医療概論

専門基礎教育

■国際関係とメディアコミュニケーションの科学
■循環農法とワンヘルスサイエンス
■人と動物の関係の科学

専門教育

■獣医解剖学A
■獣医解剖学B
■獣医解剖学実習
■獣医組織学A
■獣医生化学
■獣医生理学総論

2年次

基盤教育

■キリスト教と諸宗教
■キリスト教と生命倫理
■統計学Ⅰ
■統計学Ⅱ
■物理学実験
■地学実験
■英語演習Ⅰ
■英語演習Ⅱ
■ドイツ語Ⅰ
■ドイツ語Ⅱ
■フランス語Ⅰ
■フランス語Ⅱ
■中国語Ⅰ
■中国語Ⅱ
■ハングルⅠ
■ハングルⅡ

専門基礎教育

■動物倫理・動物福祉学
■観光と地域振興の科学
■GIS・リモートセンシングによる空間情報の科学
■エントロピーから見たエネルギーの科学
■食の安全・安心の科学
■全学専門基礎特別演習

専門教育

■獣医組織学B
■獣医組織学実習
■分子遺伝学
■獣医生化学実習
■獣医生理学各論A
■獣医生理学実習A
■獣医生理学各論B
■栄養生理学
■獣医生理学実習B
■獣医薬理学A
■獣医核医学基礎
■獣医核医学基礎実習
■獣医ウイルス学
■獣医ウイルス病学
■獣医細菌学
■獣医細菌病学
■獣医寄生虫学
■獣医病理学総論
■病態免疫学
■臨床学総論

3年次

専門教育

■獣医薬理学B
■獣医薬理学実習
■獣医ウイルス病学実習
■獣医細菌病学実習
■動物感染症学
■獣医寄生虫病学
■獣医寄生虫病学実習
■実験動物学
■実験動物学実習
■獣医病理学各論
■獣医病理学実習
■獣医免疫学実習
■公衆衛生学総論
■動物衛生学総論
■食品衛生学
■食品衛生学実習
■毒性学
■産業動物臨床学A
■臨床繁殖学A
■臨床病理学A
■臨床病理学B
■臨床薬理学
■伴侶動物内科学各論A
■伴侶動物内科学各論B
■手術学総論
■獣医麻酔疼痛管理学
■伴侶動物内科学実習
■伴侶動物内科学実習
■獣医麻酔疼痛管理学実習

4年次

基盤教育

■キャリア実習Ⅰ

専門教育

■動物行動学
■魚病学
■環境衛生学
■環境衛生・毒性学実習
■人獣共通感染症学
■獣医疫学
■人獣共通感染症学・獣医疫学実習
■獣医衛生学
■獣医衛生学実習
■野生動物医学
■産業動物臨床学B
■産業動物外科学
■臨床繁殖学B
■産業動物臨床実習A
■産業動物臨床実習B
■臨床繁殖学実習
■獣医臨床基礎演習
■伴侶動物外科学各論A
■伴侶動物外科学各論B
■獣医臨床腫瘍学
■画像診断学A
■伴侶動物外科学実習

専修教育

■獣医畜産法規
■学外実習

5年次

基盤教育

■プレゼンテーション
■キャリア実習Ⅱ

専門教育

■ハードヘルス学
■ハードヘルス学実習
■馬・中小家畜臨床学
■伴侶動物外科学各論C
■画像診断学B
■画像診断学実習
■クリニカルローテーション

専修教育

■学外実習
■研究発表
■病院実習専修コース
■生体機能学演習
■生体機能学実習
■生体機能学基礎実験
■感染病理学演習
■感染病理学実習
■感染病理学基礎実験
■衛生環境学演習
■衛生環境学特論
■衛生環境学実習
■衛生環境学基礎実験
■生産動物医療クリニカルローテーション
■伴侶動物医療クリニカルローテーション

6年次

専修教育

■統合獣医学
■中獣医学
■学外実習
■研究発表
■病院実習専修コース
■生体機能学演習
■生体機能学実習
■生体機能学基礎実験
■感染病理学演習
■感染病理学実習
■感染病理学基礎実験
■衛生環境学演習
■衛生環境学実習
■衛生環境学基礎実験
■生産動物医療アドバンスドコース
■伴侶動物医療アドバンスドコース

［研究室一覧］

分野	ユニット	教員	職名	テーマ	学びのkeywords
生体機能学分野	獣医解剖学	植田 弘美 渡邉 敬文 細谷 実里奈	准教授 准教授 助教	解剖学から解く生体･形態機能	解剖 / 臨床解剖 / 組織 / 生命科学 / 生体機能 / 形態機能
	獣医生化学	岩野 英知 藤木 純平	教授 助教	遺伝子レベルで動物の病気を理解し、新しい診断法や治療法を開発する	ファージセラピー / 薬剤耐性菌 / 薬物代謝 / ゲノム解析 / 遺伝子診断 / 遺伝子工学
	獣医生理学	北村 浩 林 英明	教授 准教授	ストレスや生活習慣病などホメオスタシスの破綻機構の解明と客観的評価	ホメオスタシス / 動物のストレス / 動物の満足度 / 生活習慣病 / 脱ユビキチン化酵素 / マクロファージ
	獣医栄養生理学	翁長 武紀 安井 由美子	教授 准教授	消化管の比較内分泌学の研究、および天然物を中心とした化学予防に関する研究	生理学 / 腸ペプチド / ストレス / 病気の予防 / 大腸炎 / がん
	獣医薬理学	寺岡 宏樹	教授	薬と有害物質の生体作用に関する研究	薬 / 毒物 / 代謝 / 環境 / ゼブラフィッシュ / 猫
	獣医放射線生物学	遠藤 大二 華園 究	教授 講師	放射線からスタートしたゲノム･微生物研究･画像診断･生体機能解析	放射線生物学 / ゲノム解析 / 病原体検出 / 遺伝子解析 / 画像診断 / 生体機能
感染・病理学分野	獣医ウイルス学	桐澤 力雄 萩原 克郎	教授 教授	動物と人に感染するウイルス感染疫学から予防･免疫、腫瘍ウイルス療法	ウイルス / 細胞 / 遺伝子解析 / 免疫機能 / 抗体応答
	獣医細菌学	内田 郁夫 村田 亮	教授 講師	細菌感染症の発病機構の解明と診断･防除技術の開発に関する研究	細菌 / 伝染病 / 微生物 / 家畜 / 伴侶動物 / 野生動物
	獣医寄生虫病学	浅川 満彦 平田 晴之	教授 准教授	寄生虫病と原虫病を含む感染症の診断と疫学に重点を置く獣医学、医学および保全生態学の学際One Healthを標的にした野生動物医学研究	寄生虫 / 感染症（人獣共通感染症含む） / 野生動物医学 / エキゾチック動物 / 鳥類･爬虫類 / 動物園水族館展示動物
	実験動物学	大杉 剛生	教授	疾患モデル動物の開発および実験動物の感染症に関する研究	実験動物学 / 動物福祉 / 生命科学 / がん / 疾患モデル / マウス遺伝子
	獣医病理学	松田 一哉 佐野 悠人	教授 講師	動物の疾患に関する病理診断ならびに病理学的研究	生産動物 / 伴侶動物 / 野生動物 / 腫瘍 / 感染症 / 眼球･眼球付属器
	獣医免疫学	岡本 実	准教授	産業動物、伴侶動物、水族館および動物園動物の自然発生疾病の病理	病理 / 自然発生疾病 / 伴侶動物 / 産業動物 / 展示動物 / 野生動物
衛生・環境学分野	食品衛生学	臼井 優 福田 昭	准教授 助教	動物由来薬剤耐性菌の環境やヒトへの伝播機構の解明とその対策	細菌 / 人獣共通感染症 / 公衆衛生 / 食品衛生学
	環境衛生学	能田 淳	准教授	地球環境で考える、ヒト･動物･環境の健康:ワンヘルスに向けて	公衆衛生 / 動物の健康管理 / 健康 / ワンヘルス / 地球環境 / バイオエアロゾル
	人獣共通感染症学	村松 康和 内田 玲麻	教授 講師	細菌性人獣共通感染症および節足動物媒介性ウイルス感染症に関する研究	人獣共通感染症 / 公衆衛生 / 細菌 / ウイルス / 伴侶動物 / 蚊･マダニ
	獣医疫学	蒔田 浩平	教授	重要家畜・人獣共通感染症の効果的かつ受容可能な制圧方法の研究	重要感染症 / 制圧方法評価 / 多分野連携 / 人獣共通感染症 / 国際共同研究 / リスク評価
	獣医衛生学	樋口 豪紀 権平 智	教授 講師	ウシの抵抗力（免疫力）を明らかにし、病気を予防する方法について研究します。	ウシ / 免疫 / 抵抗力 / 乳房炎 / アミノ酸
	ハードヘルス学	福森 理加	講師	乳牛群の健康管理と生産性向上に関する研究	栄養代謝 / 飼養技術 / 疫病予防
	獣医倫理学	髙橋 優子	准教授	獣医療に関わる法的･政治的･宗教的･哲学的問題を扱う	動物の福祉 / 動物の権利 / 5つの自由 / 3つのR / 法律 / 宗教
生産動物医療学分野	動物生殖学	中田 健 杉浦 智親	教授 助教	牛群あるいは牛個体ごとの生産効率および受胎成績を向上させる取り組み	乳牛 / 生産性･繁殖性向上 / 環境評価 / 繁殖障害 / 子宮 / 画像診断
	生産動物内科学Ⅰ	田島 誉士 大塚 浩通	教授 准教授	牛の生産性に影響を及ぼす潜在性感染症と生産性向上のための牛群免疫	生産動物医療 / 動物の健康管理 / 感染症 / 免疫機能 / BVD
	生産動物内科学Ⅱ	川本 哲 安藤 達哉	准教授 准教授	生産動物獣医療最前線で、生命の根源をその手で感じよう	家畜 / 生産動物医療 / 往診（動物病院） / 農家への往診 / 人獣共通感染症 / 食の安全･安心
	生産動物外科学	加藤 敏英 佐藤 綾乃	教授 助教	牛の獣医臨床における治療から疾病解析･予防法の構築	生産動物獣医療 / 病気の予防 / 外科 / 食の安全･安心 / フィールド調査
伴侶動物医療学分野	獣医麻酔学	山下 和人 三好 健二郎	教授 講師	馬、犬、猫の麻酔･疼痛管理および犬猫の集中治療に関する研究	麻酔学 / 伴侶動物医療 / 生産動物医療 / 犬 / 猫 / 馬
	画像診断学	中出 哲也	教授	X線、CT、MRI、超音波による画像診断とインターベンショナルラジオロジー（IVR）	伴侶動物医療 / 画像診断 / MRI / CT / レントゲン / IVR
	臨床検査学 兼 国際化担当	鈴木 一由	教授	牛、馬、犬、猫の炎症性疾患、特にエンドドキシンに関連した臨床研究	エンドトキシン / 炎症マーカー / 病態診断 / 予後診断
	伴侶動物内科学Ⅰ	前原 誠也	准教授	①動物の視覚電気生理学的検査に関する研究 ②動物の眼疾患に関する基礎的･臨床的研究	伴侶動物医療 / 犬 / 馬 / 生体機能 / 眼科
	伴侶動物内科学Ⅱ	玉本 隆司 大田 寛	准教授 准教授	伴侶動物の内科疾患の病態解明と新規診断法･治療法の開発	犬 / 猫 / 消化器 / 神経 / 炎症 / 臨床検査
	伴侶動物外科学Ⅰ	上野 博史 井坂 光宏	教授 准教授	各種動物の神経･循環器に発生する疾患についての診断･治療に関する研究	犬 / 猫 / 兎 / 心臓 / 脳 / 脊髄
	伴侶動物外科学Ⅱ	酒井 俊和	助教	伴侶動物の腫瘍の治療と研究	伴侶動物医療 / 健康 / 傷 / 薬 / 病理 / 分子生物学

pickup

ピックアップ研究室

獣医学類

食品衛生学ユニット
臼井 優 准教授　福田 昭 助教

pickup 1

動物由来薬剤耐性菌の環境やヒトへの伝播機構の解明とその対策

動物やヒトの細菌感染症の治療に使用される抗菌薬が効かなくなってしまった細菌=薬剤耐性菌が世界中で問題となっています。特に動物で出現した薬剤耐性菌が環境や食品を介してヒトへ伝播することが懸念されます。私たちの研究室では、薬剤耐性菌が動物やヒトの間で拡散する機構を解明し、その出現や拡散を防ぐため、細菌学および分子疫学的な手法を用いて研究を行っています。また、細菌が抗菌薬に対して抵抗性を獲得する機構を解明し、迅速検出法や薬剤耐性菌に対する有効な薬剤の組み合わせの解明など、薬剤耐性菌に対する有効手段の開発も実施しています。

学びのkeywords ｜ ●細菌 ●人獣共通感染症 ●公衆衛生 ●食品衛生学

pickup 2

伴侶動物内科学Iユニット
前原 誠也 准教授

①動物の視覚電気生理学的検査に関する研究
②動物の眼疾患に関する基礎的･臨床的研究

動物たちにとっても、「見る」ということは生きる上で重要な感覚です。しかし、動物たちは獣医師に見え方を言葉で伝えることができません。本研究室では、言葉を話せない動物たちの見え方を調べるための検査法を研究･開発しています。また、動物もヒトと同じように白内障や緑内障などの多くの種類の眼の病気になります。本研究室では、動物の眼の病気について、新しい診断法や治療法を開発する研究をしており、犬、猫といった伴侶動物だけでなく、牛や馬などの生産動物、さらには動物園や水族館の動物など、ヒト以外の全ての動物を対象としています。

学びのkeywords ｜ ●伴侶動物医療 ●犬 ●馬 ●生体機能 ●眼科

動物生殖学ユニット
中田 健 教授　杉浦 智親 助教

pickup 3

牛群あるいは牛個体ごとの生産効率および受胎成績を向上させる取り組み

生産動物が病気になることは、生産性の低下のみならず、繁殖性にも影響します。生産動物の病気は多くの環境要因が積み重なり、その悪い結果として現れたものです。生産現場へ赴いて群全体を自分の目で確かめ、病気のもととなる環境要因の評価から予防へつなぐ取り組みを行っています。また、新しい命を育む器官である子宮に関する研究をベースに、不受胎などの繁殖障害を患う牛個体に対しては、画像診断を駆使して生殖器を可視化し、早期診断や治療対策にも取り組んでいます。当ユニットでは、「目で見る繁殖」を目指した研究教育活動を展開しています。

学びのkeywords ｜ ●乳牛 ●生産性･繁殖性向上 ●環境評価 ●繁殖障害 ●子宮 ●画像診断

pickup 4

獣医解剖学ユニット
植田 弘美 准教授　渡邉 敬文 准教授　細谷 実里奈 助教

解剖学から解く生体･形態機能

解剖学は、臓器の形態を見て生体のもつ機能や病態を解き明かす学問です。自らの目だけでなく、光学顕微鏡や電子顕微鏡などさまざまなツールを駆使し、皮膚、筋肉、腱、肝臓、腎臓、卵巣や卵管など全身臓器をマクロからミクロまで観察します。我々獣医解剖学ユニットでは、これら臓器の形態学的解析を通し、健康促進作用をもつ生薬の効果の検証、臨床現場で問題となる家畜の肉質低下や繁殖障害の病態解明を進めています。解剖学研究は科学の中で基礎研究という位置づけにあり、臨床応用へ向けた知識の基盤を構築することで研究成果を社会に還元しています。

学びのkeywords ｜ ●解剖 ●臨床解剖 ●組織 ●生命科学 ●生体機能 ●形態機能

獣医寄生虫病学ユニット
浅川 満彦 教授　平田 晴之 准教授

pickup 5

寄生虫病と原虫病を含む感染症の診断と疫学に重点を置く獣医学、医学および保全生態学の学際One Healthを標的にした野生動物医学研究

野生動物と固有線虫類で構成された宿主−寄生体関係の生物地理で博士号取得後、Royal Vet Coll･Zool.Soc.London開講専門職大学院で野生動物医修士と日本野生動物医学会認定専門医として、野生･動物園水族館･エキゾ･特用家畜の寄生虫と原虫を含む感染症の臨床、疫学、寄生虫を指標にした宿主生態、保全医学（One Healthを対象にする科学）の基盤構築をテーマに附属動物医療センター構内の一隅に設置された野生動物医学センターWAMCを拠点に、指導学群生、院生･研修生および学外の専門家とともに活動。さらに原虫病における予防、蔓延防止のための基礎的研究を行う。

学びのkeywords ｜ ●寄生虫 ●感染症(人獣共通感染症含む) ●野生動物医学 ●エキゾチック動物 ●鳥類･爬虫類 ●動物園水族館展示動物

経験のない事例でも解決方策を導く姿勢がベンチャー企業での仕事に役立っています

獣医学部 獣医学科 ›››
（現・獣医学群 獣医学類）

株式会社TOPUバイオ研究所
代表取締役社長
富山県立大学
工学部医薬品工学科 嘱託研究員
西川（にしかわ） 美宇（みゆう） さん
2007年3月卒業　福岡県／宗像高校出身

私は富山県立大学での基盤技術を事業化して、医薬品や機能性食品開発の支援事業を展開している大学研究員兼ベンチャー企業の経営者です。ラボでの実験や学生指導から、営業活動、企画開発、人材育成など幅広い業務に携わっています。事業内容は、ヒトの薬物代謝酵素を組み込んだ遺伝子組み換え酵母を使って、医薬品や機能性食品開発に重要な代謝物を大量につくる技術を開発し、製薬企業や食品メーカー、大学などに研究用試薬として提供することです。数年前に初めて1人でスイスの大手製薬企業を回り、度胸だけは人一倍あります。

私は在学中に生化学の授業で代謝活性化現象を知り、大変興味を持ちました。大学院の博士課程最終年度に発表した研究会で、富山県立大学の先生に声をかけていただきました。酪農学園大学で多くの友人と恩師に恵まれたことで、高校までとは違うチャレンジングな人格が形成され、今の私があると思います。

また先生方の根気強い指導のおかげで自主性を育むことができ、経験のない事例についても自分なりに解決方策を導く姿勢が、ベンチャー企業での仕事に役立っています。酪農学園大学には、学内外の実習を含め、学生が自ら考える機会が多く存在します。ぜひ無限の可能性にチャレンジしてください。

広大なキャンパスで、動物にも優しく接する人間性が培われました

獣医学部 獣医学科 ›››
（現・獣医学群 獣医学類）

一般社団法人
ジェネティクス北海道
十勝清水種雄牛センター
伊藤（いとう） 陽輔（ようすけ） さん
2007年3月卒業　北海道／札幌光星高校出身

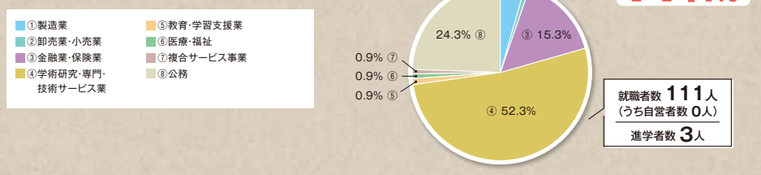
ジェネティクス北海道は、主にホルスタイン種や黒毛和種の遺伝的改良を行い、種雄牛を育成し、凍結精液として遺伝資源を農家に提供する団体で、種雄牛の頭数が日本最多です。私は種雄牛の診療から健康・衛生管理、さらには凍結精液の作製など、さまざまな業務を行っています。大学時代は研究室で繁殖学を専攻し、畜産における繁殖の重要性を学びました。

雄牛側から繁殖に携わっていきたいと考え、入社しました。大切に育てた雄牛が、日本全国の酪農畜産を担う種雄牛として活躍してくれた時には、達成感が持てます。牛は大きな動物であり、扱うには多くの人たちのサポートが必要です。研究室では、その協調性の大切さも学びました。

私の家族が酪農を営んでおり、子どもの頃から家に来る獣医師に憧れをいだいていました。酪農・畜産に関するあらゆる実践的な知識と技術を学べる大学は、酪農学園大学しかありません。そしてキャンパスが自然豊かな環境だからこそ、動物にも人にも優しく接する人間性が培われたと思っています。青空の下、広大な芝生に寝転んで食べたソフトクリームのおいしさは、今も忘れません。

獣医学類 就職実績

就職先分野別グラフ（2019年3月卒業生）



就職率 **99.1%**

就職者数 111人
（うち自営者数 0人）
進学者数 3人

ペットと飼い主に寄り添う獣医師として学び続けます

獣医学部 獣医学科 ›››
（現・獣医学群 獣医学類）

あいの里動物病院
権平（ごんだいら） 友里恵（ゆりえ） さん
2012年3月卒業
北海道／北海道小樽潮陵高校出身

テレビドラマの影響から獣医師を目指すと決めました。酪農学園大学に入学して、大動物分野や食品・公衆衛生分野など多様な選択肢があるということを知りました。ゼミは獣医衛生学ユニットを選び、雄牛や子牛の世話など貴重な経験ができ、また運動会、仮装駅伝、キャンプなどの行事も盛りだくさんで楽しかったです。卒業後は、やはり昔からの夢だった小動物獣医師になりたいと、現在の職業に就きました。職場は犬、猫がメインですが、小鳥、ハムスターなど症例はさまざまです。一次診療施設なので、症例の現状と原因の見極めがとても大切。状況によっては大学病院を紹介します。助けられない症例もありますが、少しでも長く飼い主と過ごせる時間を作ることや、亡くなった時に飼い主に寄り添うこと、これらも獣医師の大切な役割です。教科書から教わることができないことなので、今後も経験を積んで、学んでいきたい課題です。大学で学ぶ過程や実際に働いている職場では、獣医師についてイメージしていたのと異なることもたくさんありました。みなさんもこれからたくさん「実体験」と「自分の可能性」を楽しんで、頑張ってください!

自然や動物にこれほど恵まれたキャンパスはない

獣医学部 獣医学科 ›››
（現・獣医学群 獣医学類）

北海道中央農業共済組合
宗谷南部家畜診療所
金枝（かなえだ） 花（はな） さん
2014年3月卒業
北海道／酪農学園大学附属 とわの森三愛高校出身

私は主に酪農家を往診し、子牛の熱や下痢、成牛の乳房炎や蹄病などの治療を行っています。一番印象に残っているのは、首の筋肉が損傷した牛。当初は起立もできませんでしたが、徹底して治療し、農家さんの手厚い看護もあり、私の顔を見ると走って逃げるくらい元気になりました。

実家が酪農家だったため、牛を治していく獣医師に憧れて、酪農学園大学の獣医学部に入学。生産動物外科学ユニットでは、内視鏡での第四胃変位の手術や、蹄病の治療、臍の手術など、さまざまな手術を見ることができ、今でも似たような症例ではその時のメモを見ます。

中小家畜研究会というサークルで、豚の出産から立ちあい、かわいい子豚ちゃんを大きく育て、出荷。育てた豚を加工し、食べてもいました。出産から出荷、食べることで、「かわいい」だけでなく「命の大切さ」や「安心安全なおいしい食品を作る大変さ」も学ぶことができ、農家の大変さも少しは体験できたと思います。

早朝はエゾリスやキタキツネなどの野生動物が歩き、昼間は犬が散歩され、牛は放牧地で寝そべり、運がいいと学内を学生と歩く馬に出会え、少し奥まで見学すると豚や羊やヤギにも触れあえる。自然や動物好きにとって、これほど恵まれた環境のキャンパスはなかなかないと思います。

酪農学園大学キャリアセンター
SNS・HPで情報発信中!
Facebook
Twitter
HP

獣医学群

獣医保健看護学類

School of Veterinary Medicine
Department of Veterinary Science

動物たちとの幸せな
生き方の答えを探す

学びの流れ

1年次

基盤教育
- 酪農学園教育
- 人文社会科学教育
- 自然科学教育
- 保健体育教育
- 情報教育
- 外国語教育
- 導入教育

専門基礎教育
- 学類専門基礎科目
- 全学共通専門基礎科目

2年次

基盤教育
- キャリア教育

専門基礎教育
- 学類専門基礎科目
- 全学共通専門基礎科目

専門教育
- 専門教育科目
- 学類独自科目

3・4年次

基盤教育
- キャリア教育

専門教育
- 専門教育科目
- 学類独自科目

1レーザー治療器を用いたリハビリテーション
2ラットを用いた抗酸化ストレス効果をみる実験
3学生が運営に関わる本学で開催の「動物愛護フェスティバル in えべつ」
4附属動物医療センターでの診療補助
5附属動物医療センターにて手術の見学

「好き」をかたちに

学びのポイント

POINT 1

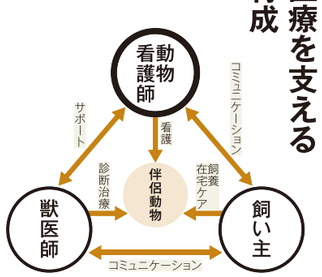
高度化する獣医療を支える動物看護師を育成

獣医師をサポートするとともに、飼い主様と獣医師との信頼関係を構築する重要な「架け橋」としての動物看護師を育成します。

POINT 2

獣医師とのチーム医療を支える生産動物看護師も育成・輩出

生産動物看護師へのニーズは高まりつつあり、希望者は学内やNOSAIの実習に参加することにより、実際の生産動物の医療について学ぶことができます。また、取得可能資格として、家畜（牛）人工授精師があります。



POINT 3

総勢50名を超える教員が指導！動物看護のスペシャリストを育成

本学類の教員を中心に獣医学類も含め総勢50名を超える教員が指導します。1・2年次は専門基礎教育を受け、3・4年次で動物看護に関する専門知識と技術を身に付けます。獣医師、飼い主様、動物との信頼関係をしっかりと築き、チーム医療に貢献する動物看護スペシャリストの育成を目指しています。

POINT 4

本学類で飼っている犬たちとともに、実践的な学びを行う

本学類では動物看護に関するすべての講義・実習に役立つよう、犬種・年齢が異なるさまざまな犬たちを飼っています。毎日の世話は学生が交代で行い、犬の生態の理解を深め、健康管理や病気の早期発見ができる知識が自然と身に付きます。

取得可能資格

必要要件を満たせば卒業と同時に取得可能な資格です。
- 家畜（牛）人工授精師
  ※講習会受講・最終試験合格の場合

受験資格

必要要件を満たせば受験する資格が得られます。
- 認定動物看護師
- ペット栄養管理士

学類でサポートする資格
- 食品衛生責任者

目指す職業
- 動物病院
- 農業共済組合（家畜人工（牛）授精師）
- 動物医薬品製造業
- 伴侶動物関連卸売・小売業
- 公務員　など

学生からのメッセージ

自分に向いている分野、やりたいことが見つかります

獣医保健看護学類　3年
動物看護研究室
大城 奈々さん
沖縄県／興南高校出身

私は小さいころから野良犬、野良猫に走り寄って、よく噛まれていた動物好きです（笑）。（授業で人獣共通感染症を初めて知り、噛まれていた私は気をつけねばと思いました。）本学を選んだのは、出身地の沖縄から遠くに行きたかったことも理由の1つです。実習で牛と触れ合い、豚の赤ちゃんを世話し、羊の毛刈りをするなど、多彩な動物の体験ができました。一番好きなのは犬。2年次には学類で飼っている犬の世話があり、朝7時前には大学に来るようになりました。小型から大型まで、年齢も性別も違う犬たちを世話できたことは、とても勉強になっています。

ゼミでは犬のデンタルケアを学んでいます。2週間に1度、一般の人が参加するデンタルケアの講習では、アシスタントも務めています。飼い主は愛犬のために頑張りすぎることがあるのですが、犬の気持ちを優先することを伝えています。また、犬にも個性があり、たとえば「オヤツ」に反応する犬もいれば、「カワイイ」に反応する犬もいます。そうした個性を見極めてケアする方法を見つけることで、犬も飼い主も成長していけます。また、東洋医学の鍼灸やマッサージも学んでいます。アルバイトをしている動物病院でも鍼灸をしており、実際の症例を見て参考にしています。

3年次の5月には友達と3人で韓国旅行に行きました。全国から集まる仲間と過ごす間に、自分に向いている分野（伴侶動物、生産動物など）や、やりたいことがきっと見つかります。私は動物看護師の資格を取って、関東の動物病院で働けたらと考えています。

教員からのメッセージ

新たな可能性を探求する好奇心を持ち続けて

獣医保健看護学類
動物集中管理研究室
佐野 忠士 准教授

私は附属動物医療センターで診療業務にあたりながら、動物の疼痛（痛み）管理と集中治療について研究しています。

私が学生の時代は、動物に痛みの管理は必要ないと言われていました。しかし、〝痛みは我慢するものではない〟という痛みに対する人間の感覚の変遷、人間と動物との関係性の変化、動物の痛みの研究などにより、動物にも痛みを和らげるケアが必要だという見方が、今日では一般化しています。

しかし、動物の痛みに気づくのは難しいことです。言葉が通じ合う日本人同士でも、痛みを我慢する人、小さな痛みにも敏感な人など、痛みに対する判断基準が違うので、他者の痛みを正しく評価するのは困難。ましてや、犬や猫などの動物はなおさらです。天敵からの攻撃を避けるため、本能的に痛みを見せない動物もいるので、気づいたときには手遅れということも珍しくありません。

附属動物医療センターには、高齢かつ重篤な動物が数多く来院します。ここでの実習を通じて、動物が示す痛みのサインや麻酔薬投与後の異変などに気づける力を身に付け、それを獣医師に提言できる動物看護師を育てています。

現在、動物の痛みのケアは当たり前とされていますが、約20年前はそうではありませんでした。もしかすると、今後、今の常識が覆る発見があるかもしれません。今学んでいることがすべてとは思わず、現状への疑問や新しいことへの好奇心を持ち続けるのも、医療従事者に必要な資質であると感じています。

[カリキュラム] ☆1は外国人留学生のみ

※この内容は2020年4月1日現在のもので今後変更もあります。

1年次

基盤教育

■建学原論
■キリスト教学Ⅰ
■キリスト教学Ⅱ
■循環型農業論
■健土健民入門実習
■哲学
■心理学
■文学
■社会学
■日本史
■世界史
■地誌
■地理学
■法学
■日本国憲法
■経済学
■数学Ⅰ
■数学Ⅱ
■生物学
■生物学実験
■化学
■化学実験
■物理学
■地学
■運動の科学
■体育実技Ⅰ
■体育実技Ⅱ
■情報科学の基礎
■情報処理基礎演習
■英語Ⅰ
■英語Ⅱ
■英語Ⅲ
■英語Ⅳ
■日本語Ⅰ　☆1
■日本語Ⅱ　☆1
■基礎演習Ⅰ
■循環農学概論
■食と健康学概論
■環境共生学概論
■獣医療概論

専門基礎教育

■動物形態機能学A
■動物形態機能学B
■動物形態機能学C
■動物形態機能学D
■国際関係とメディアコミュニケーションの科学
■循環農法とワンヘルスサイエンス
■人と動物の関係の科学

2年次

基盤教育

■キリスト教と諸宗教
■キリスト教と生命倫理
■統計学Ⅰ
■統計学Ⅱ
■物理学実験
■地学実験
■英語演習Ⅰ
■英語演習Ⅱ
■ドイツ語Ⅰ
■ドイツ語Ⅱ
■フランス語Ⅰ
■フランス語Ⅱ
■中国語Ⅰ
■中国語Ⅱ
■ハングルⅠ
■ハングルⅡ
■キャリア実習Ⅰ

専門基礎教育

■動物倫理・動物福祉学
■動物薬理学
■動物病理学
■動物微生物学
■動物感染症学
■動物行動学
■動物飼養管理学
■観光と地域振興の科学
■GIS・リモートセンシングによる空間情報の科学
■エントロピーから見たエネルギーの科学
■食の安全・安心の科学
■全学専門基礎特別演習

専門教育

■基礎動物看護学
■基礎動物看護技術A
■基礎動物看護技術B
■基礎動物看護技術実習A
■動物外科看護技術
■動物臨床検査学A
■動物栄養管理学
■動物栄養管理学実習
■臨床動物看護学総論
■動物ハンドリング学
■動物ハンドリング学実習
■動物形態機能学実習

3年次

基盤教育

■プレゼンテーション
■キャリア実習Ⅱ

専門基礎教育

■動物看護関連法規
■公衆衛生学
■人と動物の関係学

専門教育

■基礎動物看護技術実習B
■動物外科看護技術実習
■動物臨床検査学B
■動物臨床検査学実習A
■動物臨床検査学実習B
■臨床動物看護学各論A
■臨床動物看護学各論B
■臨床動物看護学各論C
■臨床動物看護学各論D
■臨床動物看護学各論E
■臨床動物看護演習A
■総合臨床実習A
■学外動物病院実習A
■学外動物病院実習B
■獣医保健看護学演習A
■獣医保健看護学演習B

4年次

専門教育

■臨床動物看護演習B
■動物微生物学実習
■獣医保健看護学演習C
■野生動物医学概論
■生産動物臨床学概論
■動物理学療法学
■動物理学療法学実習
■総合臨床実習B
■卒業論文

pickup

ピックアップ研究室

獣医保健看護学類

pickup 1

動物集中管理研究室

佐野 忠士 准教授

犬·猫·牛·馬の行動に関する研究
伴侶動物の集中治療におけるチーム医療を構築

犬·猫など動物の示す生体反応には不明な点が多く、さまざまな方法を用いてその意味を理解しなければなりません。動物の示す"サイン"に気づき看護することのできるチームが何より重要です。本研究室では附属動物医療センターでの活動を通じ、犬や猫などの伴侶動物だけでなく、牛、馬、豚などの生産動物医療·看護への関わり方、チーム医療·チーム看護の大切さを身をもって学んでもらっています。特に、日本の獣医科大学において唯一とも言える集中治療管理でのチーム獣医療への経験を研究に反映できるのは大きな魅力と思っています。

学びのkeywords ●動物看護伴侶動物 ●獣医療の高度化 ●ストレス ●救急救命 ●集中治療 ●チーム医療

pickup 2

生産動物看護研究室

菅野 美樹夫 教授

生産動物に係る繁殖やフットケアーを担う
生産動物に特化した動物看護師の育成

この生産動物看護研究室は、2018年度に開設された新しい研究室です。研究室のテーマは、生産動物(ウシ、ブタ、ヒツジなど)を対象に看護技術の開発、動物とストレスの関係、生産性向上を目的とした諦(ひづめ)の管理および周産期の損耗防止対策などを主なテーマとしています。さて生産動物における子畜の生産や蹄のケアーは重要な看護技術の一つです。そこで現在、家畜人工授精師や牛削蹄師の資格取得に向けた基礎知識の習得、実践を交えたトレーニングを積極的に行うことで卒後即戦力となる生産動物に特化した動物看護師の養成に取り組んでいます。

学びのkeywords ●生産動物 ●健康管理 ●妊娠診断 ●お産の介助 ●家畜人工授精師 ●削蹄師

動物理学療法研究室

椿下 早絵 准教授

pickup 3

犬猫の術後の早期回復や高齢動物の運動機能の維持への取り組み

動物の理学療法は、獣医療の進歩·ペットの高齢化に伴い、今後どんどん発展していく分野であると考えられています。犬猫の術後の早期回復や高齢動物の運動機能の維持を目的として理学療法を実施し、飼い主様とそのペットがハッピーライフを過ごせるようにサポートしていくことが当研究室の役割であると考えています。歩行できなかったが日々回復し、自力で歩行する姿を見ることで、私たちもたくさんの感動をもらっています。

学びのkeywords ●動物理学療法 ●リハビリテーション ●早期回復 ●高齢化 ●イヌ ●ネコ

pickup 4

動物看護研究室

八百坂 紀子 講師

デンタルケアや緩和ケアについての研究

伴侶動物の疾病予防·治癒·緩和について専門知識を持ち、「チーム獣医療」において役割を担えるような看護ケアについて研究します。特に力をいれているのは現在2つです。1つ目は、歯周病予防としてのデンタルケアです。犬は何もケアをしないと高確率で歯周病になるため、日々の、確実なデンタルケアを行うことが重要です。2つ目は東洋医学の一つである中獣医学を取り入れた緩和ケアです。どちらも知識を学ぶだけではなく、獣医師や飼い主へのサポートができるような実践的なケアやコミュニケーション術についても勉強·研究します。

学びのkeywords ●動物看護伴侶動物 ●看護ケア ●緩和ケア ●中獣医学 ●口腔衛生 ●コミュニケーション方法

[研究室一覧]

研究室	教員	職名	テーマ	学びのkeywords
生産動物看護	菅野 美樹夫	教授	生産動物に係る繁殖やフットケアーを担う生産動物に特化した動物看護師の育成	生産動物 / 健康管理 / 妊娠診断 / お産の介助 / 家畜人工授精師 / 削蹄師
ハードヘルス学	及川　伸	教授	乳牛群の健康管理と生産性向上に関する研究	栄養代謝 / 飼養技術 / 疫病予防
比較動物薬理	北澤 多喜雄	教授	グレリン(ペプチドホルモン)の生理的、病態生理的役割の解明	生体機能 / 薬学 / 消化管 / 自律神経 / ホルモン / 比較生物学
動物疾病治療	嶋本 良則	教授	動物の病気の診断·治療に利用できる抗体の開発	動物の病気 / 診断 / 治療 / モノクローナル抗体
動物行動生態	郡山 尚紀	准教授	人と動物とのより良い関係を目指す研究:身近な伴侶動物から野生動物まで	行動治療 / アニマルセラピー / しつけ教室 / 動物園水族館 / 野生動物 / 人獣共通感染症
動物集中管理	佐野 忠士	准教授	犬·猫·牛·馬の行動に関する研究 伴侶動物の集中治療におけるチーム医療を構築	動物看護伴侶動物 / 獣医療の高度化 / ストレス / 救急救命 / 集中治療 / チーム医療
動物理学療法	椿下 早絵	准教授	犬猫の術後の早期回復や高齢動物の運動機能の維持への取り組み	動物理学療法 / リハビリテーション / 早期回復 / 高齢化 / イヌ / ネコ
動物生体反応	宮庄 拓	講師	さまざまな状況に対する動物の生体反応(生体応答)について	生体反応 / 生体防御 / 生体応答 / 生体機能 / ストレス / 病気の予防
動物看護	八百坂 紀子	講師	デンタルケアや緩和ケアについての研究	動物看護伴侶動物 / 看護ケア / 緩和ケア / 中獣医学 / 口腔衛生 / コミュニケーション方法

獣医保健看護学類の国際交流を紹介します!

本学と学術交流協定を結ぶパデュー大学へ短期研修

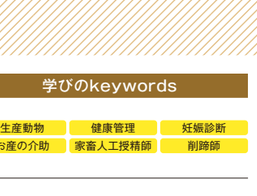
獣医保健看護学類3年

動物行動生態研究室
杉山 一皐　東京都／啓明学園高校出身
動物理学療法研究室
田中 一愛　埼玉県／川越総合高校出身
動物理学療法研究室
渋谷 大輝　栃木県／宇都宮北高校出身

パデュー大学 Purdue University

アメリカ·シカゴの南東160kmに位置する総合州立大学。本学とは2019年1月29日に学術交流協定を締結しています。

獣医保健看護学類の学生3名が2019年7月20日から8月3日までの14日間、パデュー大学獣医学部の国際プログラムオフィスによる研修に参加しました。同大学獣医学部には獣医学科と獣医看護学科が併設されており、附属教育動物病院で両科合同によるチーム獣医療を学びました。クリニカルローテーションにて、さまざまな部門での研修を行いました。



クリニカルローテーションへの参加

Indianapolis Zooの見学

Fair Oaks Farms(民間の農場の展示施設)見学

Farwell Ceremony(左から)渋谷さん、田中さん、杉山さん

動物病院実習の経験をバネに 動物看護師の仕事をもっと知りたいと 思うようになった

獣医保健看護学類 >>>

表参道ペットクリニック

西塔（さいとう） 果織（かおり） さん

2016年3月卒業
宮城県／宮城野高校出身

動物病院は病気や怪我をした動物だけではなく、健康な動物が健康診断や予防接種、爪切りなどの日常ケアで来院することも多くあります。動物との接し方はもちろん、飼い主様とのコミュニケーションがとても大切になります。私の仕事はまず診察･手術の補助、薬の準備、入院･ペットホテルの動物のお世話などの看護業務があります。また飼い主様に対しての問診、電話対応、受付･会計などの受付業務、さらに院内の清掃、在庫管理、DM作成などさまざまです。

大学2年の時に動物病院に実習に行きました。10日間現場を経験し、自分の知識の少なさや、思うように動けなかった悔しさを痛感することになりました。もっと知識を深めたい、動物看護師の仕事をもっと知りたいと思うようになりました。

入学時、宮城から一人で北海道に来るのは不安でしたが、良い環境、多くの友人、恩師に恵まれました。所属していた動物理学療法研究室では整形外科の手術を間近で見学したり、リハビリテーションを行ったりしたことも、今の仕事に役立っています。大学は素敵な仲間にも会える場所です。色々なことにチャレンジして、新しい自分を再発見してみてください!

牛と出会い、人工授精師に。 自分の可能性を狭めずに 突き進んでほしい

獣医保健看護学類 >>>

オホーツク農業共済組合 興部支所
雄武家畜診療所改良課

山田（やまだ） 悠未（ゆうみ） さん

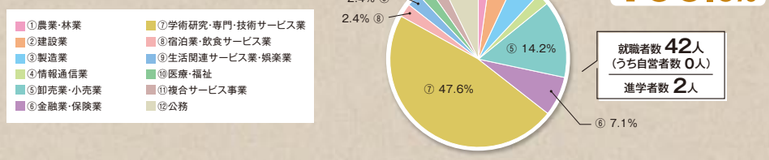
2016年3月卒業　東京都／十文字高校出身

高校時代は小動物方面に進みたいと思っていましたが、せっかく学ぶなら色々な動物に触れようと、酪農学園大学に入学を決めました。大学の乳牛研究会で初めて牛と触れ合い、分娩に立ち会った時の感動が忘れられず、生命の誕生に関われる仕事を目指しました。現在、家畜（牛）人工授精師として働いています。主な業務は家畜（牛）の人工授精です。受精卵移植の資格も取ったので、最近は受精卵移植も行っています。授精した牛が妊娠し、無事に分娩して元気な子牛を見ると、やりがいを感じます。農家の方が私の名前にちなんで、牛の名前をつけてくれることもあります。

酪農学園大学の最大の魅力は、何と言ってもたくさんの動物がいることです。私は4年間、大好きな動物に囲まれた幸せな大学生活を過ごせました。またサークルでは乳牛研究会に入ったおかげで、牛と一生ものの友人に出会えました。授業は小動物が中心でしたが、私のように専門外の進路でも目指せる環境が整っています。入学前に思い描いていた道と違っていたとしても、自分の可能性を狭めずに突き進んでいってほしいと思います。

獣医保健看護学類 就職実績

就職先分野別グラフ（2019年3月卒業生）



就職率 100.0%

就職者数 42人
（うち自営者数 0人）
進学者数 2人

現場で経験を積んで、 動物看護の教育に携わりたい

獣医保健看護学類 >>>

公益財団法人 日本小動物医療センター

桜井（さくらい） 新之介（しんのすけ） さん

2017年3月卒業　富山県／八尾高校出身

動物に関わる仕事がしたいと思い、獣医保健看護学類で獣医師とは異なる立場から獣医療にアプローチしていけることに興味が湧きました。充実した施設と北海道で学べるという高揚感もありました。

実践的な実習や多岐にわたる専門科目の授業は、今も現場で生きています。また、多方面から進学してくる仲間たちとの出会いは何物にも代えがたい財産で、今でも互いに切磋琢磨しています。

在学中にアメリカの大学病院へ短期留学をし、その際目の当たりにした最先端を行く欧米の診療形態と当院が似ており、専門分野での勉強がしたく就職を決めました。仕事の内容は、患者の入院管理はもちろん、専門の獣医師のもと麻酔管理や外来患者の各種検査、また救命救急の現場では獣医師とともにチームとして心肺蘇生の処置に携わるなど多岐にわたります。

将来は診療現場での経験を生かして教育に携わり、動物看護師の発展に関与していきたいです。ペットたちが少しでも健康で楽しい毎日を送れる手助けになることが、仕事のやりがいであり、その夢への活力にもなっています。

自分の気持ちに素直になり、夢に向かって進んでほしいと思います。大学では好きなことを思う存分学べる環境が用意されているので、大いに活用して自信を磨いてください。

どんな治療をすれば 後悔がないのか よりそえる看護がしたい

獣医保健看護学類 >>>

埼玉動物医療センター

庭野（にわの） さらら さん

2018年3月卒業
群馬県／新島学園高校出身

私は4年次に大学の附属動物医療センターの麻酔科で経験した実習を経て、二次病院や高度医療に興味を持ちました。現在、一次から二次診療まで行う動物病院の腫瘍科に所属し、主に患者の診療･手術･術後管理を担当しています。日々の仕事の中で、痛感しているのは、“治らない”ということ。腫瘍ができた動物は完治が難しいことも多く、安楽死させることもあります。発症した動物に対し、どんな治療をすれば後悔がないのか、元気な時間を作れるかと考え、死をむかえる動物、そしてオーナーによりそえる看護がしたいと思うようになりました。

酪農学園大学で獣医学類と一緒に受けた授業で、解剖学や生理学などその他獣医系の基礎知識を得られたことは、動物看護師として役立っています。大勢の友人が近くに住み、常に友人に支えてもらえたことは、社会人になった今、とても貴重な経験だと感じています。4年、または6年という時間を本当に自由に使えるのは大学生ならではです。大自然の中で、たくさんの動物に囲まれて素敵な時間を過ごせますよ。行きたい所へ行き、やりたいことを、全部やってみてください。

酪農学園大学キャリアセンター
SNS･HPで情報発信中!
Facebook
Twitter
HP

国際交流

人と研究の国際交流を積極的に推進

海外の大学・研究機関との学術交流の窓口として学術交流協定の締結などを推進。また、学生の多様なニーズに応えるため海外研修・留学プログラムの充実にも努めており、語学研修、ファームステイ、動物・環境保護などのプログラムを企画・紹介しています。

学術交流協定

本学は、海外の大学などとの交流協定を22カ国・地域の43機関と締結しており、学術資料の交換、教員や学生の派遣交流、共同研究、セミナーなどの開催で交流を行っています。

学術交流協定機関
22カ国 43機関

■カナダ／●アルバータ大学　●オールズカレッジ　●サスカチュワン大学
■アメリカ／●オハイオ州立大学（獣医学部、食品・農業・環境科学部）
●コーネル大学　●フィンドレー大学　●バデュー大学
■パラグアイ／●アスンシオンカトリック大学
■ロシア／●ロシア極東農業大学
■中国／●新疆農業大学　●内蒙古農業大学　●内蒙古民族大学　●陝西省動物研究所
■韓国／●国立韓京大学校　●韓国食品開発研究院　●国立韓国農水産大学
■台湾／●国立嘉義大学　●国立屏東科技大学　●国立中興大学
■フィリピン／●東フィリピン大学
■マレーシア／●サバ大学
■ベトナム／●ハノイ公衆衛生大学　●ベトナム国立農業大学　●国立獣医学研究所
■タイ／●マヒドン大学（熱帯医学部、獣医学部）　●チュラーロンコーン大学
●カセサート大学　●タイ王国保健省医科学局　●コンケン大学　●タマサート大学
■ミャンマー／●ミャンマー獣医科学大学
■インド／●サムヒギンボトム農業科学技術大学
■モンゴル／●モンゴル生命科学大学　●フスタイ国立公園
■カザフスタン／●アルファラビカザフスタン国立大学　●国立バイオセンター
■ポーランド／●ワルシャワ農業大学
■ドイツ／●ハノーバー獣医科大学
■デンマーク／●デンマーク国立畜産研究所
■イギリス／●グラスゴー大学生物多様性・家畜衛生・比較医学インスティテュート
■ケニア／●国際家畜研究所
■コートジボワール／●スイス科学研究所
■ウガンダ／●マケレレ大学

短期海外研修・レポート
カナダ アルバータ大学

獣医学類 下岡 誠さん
北海道白老町／北海道苫小牧東高校出身

やりたいことを明確にして行動することの大切さ

研究職に興味を持ち、まずは英語力を身に付け視野を広げたいと思い、語学留学へ。4人程度のグループを作り、間違ってもいいから積極的に発言するというコンセプトで、授業が運営されていました。驚いたのは、ドイツ人の友達が進んで何度も質問していたこと。この、自分を大切にし行動に責任を持つという考えをはじめ文化の違いを体感しました。また、大学の附属農場で、カナダ最先端の酪農飼養環境や、動物福祉に配慮したペットのシェルター、チーム獣医療で24時間体制の診療をしている馬の動物病院などの貴重な見学体験もできました。留学生仲間にはやりたいことを明確にして努力している人が多く、私も帰国後はこの姿勢を見習っています。

短期海外研修・レポート
アメリカ フィンドレー大学

循環農学類 前田 幸輝さん
群馬県／伊勢崎清明高校出身

自分のやるべきことを見据え、自分から動く

獣医学の基本を学ぶpre-vetという教育課程に参加しました。午前は馬の管理や乗馬の実習。留学生に馬学科の学生がマンツーマンで付き添ってくれるので、気軽に質問できます。午後は厩舎で馬の生理学とアニマルサイエンスの授業。去勢や除角といった医療用メスを握る機会もあります。ホームステイ先の方々はとてもやさしく、私の拙い英語にも前向きに接してくれました。アメリカで見た学生は、自分のやるべきことをしっかりと見据え、何事にも自分から動いていました。誰かが動いてからといった、他人に依存する様子はありません。分からないことは質問し、思うことがあればすぐに発言します。その姿に刺激され、帰国後は「自ら動く」ことを常に心がけるようにしています。

地域・企業連携

本学の知的資源を多角的に活用

関係省庁や企業との共同研究、寄附講座の開設をはじめ、教員による新技術開発の特許の出願・登録、産学官連携・高大連携などの各種事業、各種展示会での研究活動のアピールなどを積極的に展開しています。

江別市大学連携事業

江別市大学連携事業は2009年度より「江別市・大学・江別市商工会議所による包括連携・協力に関する協定（包括連携協定）」を締結したことからスタートし、教員向けに調査研究事業、学生向けに学生地域活動支援事業として毎年実施しているものです。例年、本学教員・学生の研究が採択されており、その研究成果が今後の江別市の発展に寄与していくことが期待されています。

2019アグリビジネス創出フェア in Hokkaido「北海道の食と農の明日へ」に出展

2019年11月15日（金）、16日（土）にサッポロファクトリーアトリウムおよびファクトリールームで2019アグリビジネス創出フェアが開催され、本学は江別市、北海道情報大学、北海道立総合研究機構食品加工研究センターと合同出展しました。このフェアは、北海道の食と農業に関する研究機関や教育機関、農協、企業などが集まり新技術、新商品の展示や試食などを通じてPRするもので、一般市民の方々も楽しめる内容として開催されました。

本学からは阿部茂教授のゼミが昨年に引き続き、「ほたて節」の開発研究をアピールしました。

皆さんは、近頃よく目にするこのマーク「持続可能な開発目標（SDGs）」について知っていますか?SDGsとは17個の目標を表しており、現在先進国・発展途上国に関わらず世界中で取り組まれています！SDGsのアイコンには17色使用されており、その一つひとつに解決目標が割り当てられていますので、是非確認してみてください。

酪農学園大学の建学の精神・理念である「健土健民」「三愛主義」や、本学創立者の黒澤酉蔵先生が提唱した「循環農法」はSDGsの考え方にも通じており、大学として積極的に貢献していきます。皆さんも酪農学園大学で、持続可能な世界を目指しましょう！

SDGsカラーホイール

サンディー

酪農学園大学では「酪農PLUS+」というサイトも運営しており、本学学生をはじめ、酪農家の方々にとって有益な情報を配信しています！本学学生や酪農家向けの情報だけではなく、牛乳を使ったミルクレシピの料理動画や、酪農・乳製品に関する疑問に本学教員がお答えする質問コーナーなど多岐にわたる情報を公開しています。「酪農PLUS+」のマスコットキャラクターのサンディーも皆さんと会えることを楽しみに待っていますので是非ご活用ください！下記SNSへのいいね！もよろしくお願いします！

酪農PLUS+のトップページ

牛の結び方～モクシの作り方～
動画を見る ▶

共進会での牛の引き方
動画を見る ▶
酪農技術動画

筋肉レシピ集『筋肉モリモリ！ささ身とクリームチーズのグラタン』
動画を見る ▶

筋肉レシピ集『ベビーホタテのリカバリーカルボナーラ』
動画を見る ▶
ミルクレシピ動画

HP・SNSにて情報発信中！

酪農PLUS+
Facebook
instagram

酪農学園大学 大学院

RAKUNO GAKUEN UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL

農・食・環境・生命の最先端研究に取り組む。

酪農学園大学は、農・食・環境・生命の領域において、それぞれが互いに連携しながら地球と生命を科学する総合大学です。その研究領域は、産業としての農だけではなく、生命を健やかに育むための食や健康、地球環境に至るまでの社会を構成するあらゆる分野におよびます。獣医学研究科（2専攻）と酪農学研究科（4専攻）で構成される本学大学院は、こうした総合大学としての強みを生かし、建学の精神である「健土健民」という理念の具体的実現をテーマに、高度な専門性を有し、それを職業で表現していく人材、技術革新など将来を切り拓く研究者の育成を目指しています。

農・食・環境に関わる研究を現場から学び、現場に返す。

酪農学研究科

食生産利用科学専攻 ［博士課程］3年

- 植物資源生産学
- 動物資源生産学
- 食資源開発利用学
- 応用食品化学
- 微生物利用学
- 農業経営政策学
- 食料経済学

食品栄養科学専攻 ［博士課程］3年 ［修士課程］2年

加工特性
- 食品加工特性学
- 食品物性学

栄養機能
- 食品栄養機能化学
- 食品機能生化学

健康栄養
- 健康栄養学
- 臨床栄養学

食環境管理
- 食品微生物管理学
- 食品環境汚染学

酪農学専攻 ［修士課程］2年

作物生産科学
- 土壌植物栄養学
- 病理・害虫学
- 飼料作物学
- 植物遺伝学
- 酪農機械学

家畜生産科学
- 家畜繁殖学
- 遺伝・育種学
- 家畜栄養学
- 家畜管理学
- 酪農生物化学

酪農情報学
- 酪農経営情報学
- 農業経営学
- 酪農政策学
- 農業市場学

環境共生学
- 野生動物学
- 国際環境情報学
- 地球環境保全学

フードシステム専攻 ［修士課程］2年

食資源利用システム
- 農・畜産食品学

食料政策システム
- 食料政策論
- 食品流通論

経営管理システム
- 経営管理論
- 食品情報システム論

臨床と基礎の両面から獣医学の発展を推進する。

獣医学研究科

獣医学専攻 ［博士課程］4年

基礎獣医学〈生体機能学〉
- 獣医解剖学
- 獣医生理学
- 獣医栄養生理学
- 獣医生化学
- 獣医薬理学
- 獣医放射線生物学

基礎獣医学〈感染・病理学〉
- 獣医病理学
- 獣医寄生虫学
- 獣医ウイルス学
- 獣医細菌学
- 実験動物学

臨床獣医学〈生産動物医療学〉
- 生産動物内科学Ⅰ
- 生産動物内科学Ⅱ
- 生産動物外科学
- 動物生殖学

臨床獣医学〈伴侶動物医療学〉
- 運動器・神経病治療学
- 獣医眼科学
- 獣医臨床腫瘍学
- 画像診断学
- 獣医麻酔学
- 循環器病学
- 動物集中管理学
- 動物疾病治療学
- 動物理学療法学

応用獣医学〈衛生環境学〉
- 人獣共通感染症学
- ハードヘルス学
- 獣医衛生学
- 食品衛生学
- 環境衛生学
- 獣医疫学
- 人と動物の関係学

獣医保健看護学専攻 ［修士課程］2年

基礎・応用獣医保健看護学
- 獣医解剖学
- 獣医ウイルス学
- 動物薬理学
- 獣医病理学
- 公衆衛生学
- 医動物学

臨床獣医保健看護学
- 獣医衛生学
- 獣医麻酔学
- 画像診断学
- 動物理学療法学
- 動物疾病治療学
- 動物行動学
- 生産獣医療学

酪農学園大学で 教員を目指す

酪農学園大学では教員免許取得のための2つの道があります。

「農食環境学群」の各学類（管理栄養士コースを除く）で専門的に学びながら教職課程生として教員免許を取る方法と、もう一つは教員採用試験の突破を目標に「循環農学類」と「食と健康学類」（管理栄養士コースを除く）に設置された「教職コース」に進む方法です。

「教職コース」では1年次終了時の選抜を経て、教員の道を目指す仲間たちと教員採用に向けた専門的な授業や指導を受けることが可能です。卒業時に農業科の教員免許に加え、理科（中学）、理科（高校）、社会科（中学）、公民科（高校）免許のいずれか一つ以上を取得させ、高校（農業、理科、公民）あるいは中学（理科、社会）教員を養成します。

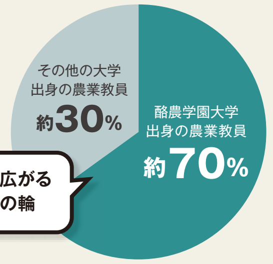
TOPICS 2019年度/本学調べ

2019年度 酪農学園大学 卒業生教員任用者数 645名

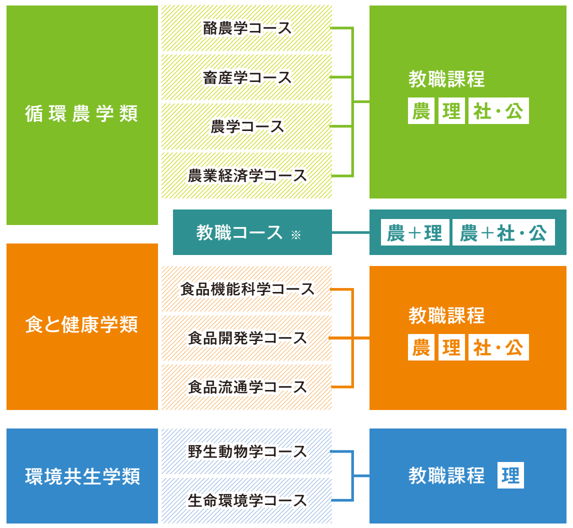
道内		道外	
農業系	166名	農業系	168名
理科	115名	理科	42名
農業系・理科以外	81名	農業系・理科以外	73名

※管理職、実習助手は含まず

北海道内高校の農業系科目教員の約70%が酪農学園大学出身



■コースごとに見た取得可能な免許



※教職コース生では、教員免許取得のための単位の一部が卒業要件に含まれます。教職コースの学生は、循環農学類と健康学類のどちらかに所属します。

※管理栄養士コースでは教員免許を取得することはできません。

■酪農学園大学で取得可能な免許

	農業科（高校）	理科（中学・高校）	社会科（中学）公民科（高校）
循環農学類	●	●	●
食と健康学類	●	●	●
環境共生学類	—	●	—

卒業生からのメッセージ

北海道旭川農業高等学校
大村 竜二 さん
酪農学部 食品科学科
（現：食と健康学類）
2010年3月卒業
北海道／北海道帯広農業高校出身

森林・林業を理解する教育で地元に貢献

私はもともと中学校時代の恩師にあこがれて教員を志しました。その後、高校、大学で学んだことを生かせると考え、農業高校の教員を選びました。酪農学園大学に進んだのも、農業教員としての道が開けていると感じたからです。

大学では食品物性学研究室に所属し、テクスチャー（口当たりや歯ごたえなどの食感）に関する学習をしました。卒業論文は、寒天を固める温度によるテクスチャーの変化についての研究でした。また、教員免許を取得するための講義では、同じ目標を持つ仲間たちと、夢の実現に向けて一緒に努力したことが印象に残っています。今でも交流を持つ友人が多くでき、生涯の財産です。

現在は旭川農業高校森林科学科で、測量などの授業を受け持っています。旭川市は家具製造などが盛んな木のまち。生徒たちには森林・林業に関して理解を深め、将来地元産業に貢献してもらいたいですね。私自身は生徒の学びたいという要求に応えられるよう、さまざまな面でスキルを高めたいと思っています。

大学で多くの経験を積んで、多くの人と知り合うことが将来に役立ちます。今しかできないことがたくさんあるので、自分で自分を小さな枠に閉じ込めることなく、頑張ってください。

横浜市立仲尾台中学校
栗田 奈々子 さん
酪農学部 酪農学科
（現：循環農学類）
2008年3月卒業
神奈川県／横浜市立桜丘高校出身

酪農学園大学で知った勉強の面白さを中学生に伝えています

私は理科の教員で、現在中学1年生の担任をしています。吹奏楽部や学級委員の指導もしています。部活の引退試合などで、クラスでは見ることのできない成長した姿を見ると「先生をやっていて良かったな」と感じます。授業では、理科の知識と身のまわりの現象がつながった時の「わかった！」という反応に、やりがいを感じますね。遺伝や生殖、環境などについては、本学の実習で本物を見ているからこそできる話があり、生徒はとても興味をもってくれます。

入学時は動物にかかわる仕事が希望でしたが、酪農学科で勉強の難しさや面白さがわかり、その面白さを子どもたちに伝えたいと思うようになりました。大学で過ごした弓道部の友人たちは、今でも自分のことのように喜び、悲しんでくれる大切な仲間です。また、ゼミ室でくだらないことを話したり、大雪で帰れなくなってしまったり、卒論のためにみんなで一生懸命牛乳パックを集めたりなど、本当にいい仲間に恵まれました。部活と勉強の両立は大変でしたが、酪農学園大学で4年間頑張りきれたことが、自信につながったと思います。この大学で、個性豊かな先生方と、充実した学生生活を送ってほしいと思います。

キャンパス / 部活動・サークル / 暮らし

CAMPUS LIFE

どれがあなたのキャンパスライフを彩るだろう
ドキドキがいっぱいの学園生活が
あなたを待っています。

キャリアサポート

満足度100%の就職へ向けて、入学直後から細やかにサポートします。

“就活”を勝ち抜く実践力を身に付けるために、講座やセミナーをはじめ多角的な支援体制を構築。

キャリアセンターからのメッセージ

酪農学園大学では、学生が高い目的意識を持ちながら、人生観や職業観を養い、的確な進路や職業の選択が果たされるよう学生の希望に沿ったキャリア支援を行っています。3年次（獣医学類は5年次）に個人面談をすべての学生と行うことで、一人ひとりとより細やかな信頼関係が確立できるよう努めています。インターンシップの紹介や資格・検定受検の支援、就職活動全般のノウハウを学ぶ「キャリア支援アワー」をはじめ、学内合同説明会、公務員試験受験対策講座、面接対策講座、話し方講座、ビジネスマナー講座など各種講座を開催しています。この他、内定を得ている4年生から情報を得る報告会を行うなど多角的にサポートしています。学生の個性や適性、志望を生かした進路実現を支援しています。

2020年度の主な就職支援スケジュール

1・2年次
- ●就職ガイダンス
- ●公務員試験受験対策講座
- ●食品衛生責任者養成講習会
- ●日商簿記検定
- ●家畜商講習会

3年次
- ●就職ガイダンス
- ●キャリア支援アワー（下記参照）
- ●証明写真撮影会
- ●公務員受験対策講座
- ●技術・ビジネス交流会「ビジネスEXPO」見学
- ●SPI対策講座、WEBテスト
- ●履歴書対策講座
- ●業界セミナー
- ●食品衛生責任者養成講習会
- ●日商簿記検定
- ●家畜商講習会
- ●個人面談

資格・検定受検を支援

■食品衛生責任者
飲食店や食品製造業など食品の営業施設において、施設の衛生管理を担う責任者。その資格を取得するための講習会を学内で開催します。

■家畜商
日本においての家畜の取引を行うために必要な免許。家畜商法に基づく公的資格です。

学年学類問わず受験ができる上記の資格などについての告知、申込受付を行っています。

4年次
- ●キャリア支援アワー（下記参照）
- ●就職ガイダンス
- ●面接対応力向上セミナー
- ●集団面接・GD対策講座
- ●合同企業説明会
- ●公務員獣医師説明会
- ●食品衛生責任者養成講習会
- ●日商簿記検定
- ●家畜商講習会
- ●社会人準備セミナー

社会へ

2019年度のキャリア支援アワーの主なテーマ

3年次（獣医5年）

4月	●就職活動スタートアップ講座 ●インターンシップ参加準備講座 ●インターンシップ受入企業/団体紹介
5月	●公務員になるための準備講座
6月	●日本の産業界の全てがわかる業界MAPがもらえる! インターンシップに行くための 業界の見方・企業、仕事の探し方 ●公募型インターンシップ活用講座 ●就職筆記試験対策講座 ●SPI開発元の解説と模試体験! 「SPI(言語非言語Webテスト)受検会」
7月	●ワークルールの基礎知識講座 ●インターンシップのためのコンプライアンス講座 ●インターンシップのためのビジネスマナー講座
9月	●就活解禁に向けての準備講座
10月	●就職活動体験報告会 ●採用面接対策講座 ●スマホ（PC）就活の攻略法と落とし穴 ●エントリーシート対策講座①基礎編
11月	●エントリーシート対策講座②自己PR作成編 ●エントリーシート対策講座③志望動機作成編 ●インターンシップ参加報告会 ●業界・企業研究を効果的に進める 秋冬インターンシップ活用講座 ●SPI模擬試験解説会
12月	●女性のメイクアップ/ 男性の身だしなみ
1月	●酪農学園東京オフィス/ 大学キャリアセンター活用講座
2月	●就職活動直前総まとめ講座

4年次（獣医6年）

4月	●聞いて得する就活講座 ～就活スタート前の方、 選考中の方へ～ ●GD対策講座 ●採用担当者が見ているスーツの 着こなし、ヘアスタイル、歩き方講座
5月	●採用面接対策講座 ●女性限定 就職活動メイク講座
6月	●自分に最適な企業選びの ポイント講座

Campus

キャンパス

あなたの「好き」をかたちにする
サポート体制も充実しています。
学び・食・健康など学生生活のすべてを
支援する施設と職員が揃っています。

中央館

ロビー　お弁当を食べたり、友人とおしゃべりしたり、自習したり。学生たちが自由に出入りできるフリースペースです。

生協中央店

軽くお昼をすませたい方はこちらへ。おにぎりやお弁当、パンなどがあります。

カラフルな椅子が並ぶ明るいスペース。
ゆったりと自習するのに最適。

3F ～ 7F 附属図書館

図書館は情報の宝庫。約33万4千冊の蔵書数で書籍だけではなく、雑誌や新聞、DVDや語学CDなども揃っているのでフルに活用しましょう。

■**図書・雑誌フロア（3F～5F）**　一般図書から論文まで充実。静かな環境で勉強がはかどります。

■**マルチメディアフロア（6F）**　DVDや語学CDなど視聴覚資料が満載。AVブースで視聴できます。

■**オープンPCフロア（7F）**　パソコンが自由に使えて便利。インターネットにも接続できます。

学生サービスセンター

1F 学生相談室

カウンセラーが常駐して、学生一人ひとりがより良い学生生活を送れるようサポートします。勉強のこと、健康のこと、対人関係など、相談できます。

1F 医務室

保健師が常駐しており、学生の日常の健康をサポート。ケガの応急処置のほか、健康や病気の相談にものってくれます。

酪農学園ホール（学園生協）

1F ホール

1Fのスペースは、食事もでき、学生のいこいの場になっています。

生協旅行店・ルームガイド店

帰省や就職活動の時など飛行機、ホテルのチケットを手配してくれます。卒業旅行もここでチェック。物件探しもラクラクです。

1F ATM

ゆうちょ銀行と北洋銀行のATM。財布が空っぽになっていても、慌てなくてすみます。

1F 生協購買店・書籍店

大学オリジナルブランド製品が買えるのはここだけ！
また、ソフトクリームも販売しています。

2F 食 堂

カフェテリア方式で、1日70品以上のメニューを用意。季節に応じて色々なフェアメニューが登場するなど、通い続けても飽きがきません。

チキン竜田丼

ピリカラーメン

チキンチーズカツ

カレーライス

牛とろ丼

フェアメニュー

元祖ワンコイン（100円）朝食

学生の食生活改善のため不定期で開催。2007年から先駆けて実施。

※写真は例です。

健民館（2020年度竣工）

1F トレーニングセンター

ランニングやウエイトトレーニングなど多彩なマシーンがあり、無料で使用できるので気軽に汗を流せます。シャワー室も完備。

本学職員のトレーナーの堤さんからトレーニングの指導を受けることができる。

「第4回北海道フィットネスビキニオープン選手権」東北・北海道地区163cm超級で、本学獣医学類4年の姚 麗花さんが優勝。

B4号館

2F 学習支援室

勉強のことで悩んだり、困ったりしたらここへ。英語と数学の専門学習支援アドバイザーが常駐し、学生の習熟度に合わせてサポート。

Club & Circle

部活動
クラブ・サークル

日々の学びとともに、生涯にわたる仲間ができる。
各種のクラブ・サークル活動も盛んです。
大学間の交流や、社会人との交流も広がります。

肉牛研究会 71名

酪農学園YOSAKOIサークル“祭” 101名

中小家畜研究会 38名

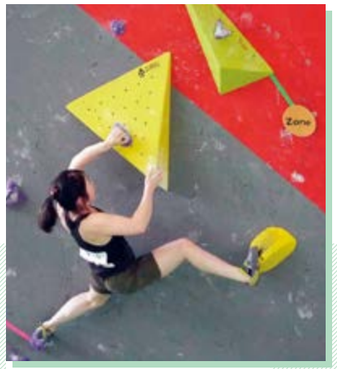
どうぶつボランティア幸せなしっぽ 125名

吹奏楽団 53名

ブルーグラス研究所 36名

ア・カペラサークル『唄種』 42名

弓道部 40名



フリークライミングサークル 53名

ラクロス部 34名

昨年度全日本インカレ初出場!!

男子アイスホッケー部 44名

昨年度全日本インカレ出場!!

男子バスケットボール部 21名

熱気球愛好会 12名

馬術部 34名

合気道部 14名

その他の文化系クラブ・サークル

- 合唱団（6名）
- 軽音楽同好会（66名）
- 写真部（29名）
- 絵画研究会（9名）
- 音楽研究会（30名）
- 野生動物生態研究会（62名）
- 近代演劇（21名）
- キリスト者学生会（24名）
- 旅行サークル“The travelers”（20名）
- 漫画倶楽部（18名）
- 創作文化研究会（13名）
- 手話サークルもみじの会（5名）
- 酪農学園ボランティアクラブ（19名）
- ESS（45名）
- 酪農茶道部（20名）
- 棋道部（8名）
- 野菜サークル（V.R）（18名）
- 植林研究会（18名）
- 室内楽団（11名）
- 野生動物との共存支援サークル えれふぁんと（12名）
- 国際交流サークル SukaRela（24名）
- サマーアグリキャンプ（24名）
- ワインサークル（18名）

乳牛研究会 43名

その他の体育系クラブ・サークル

- ソフトテニス部（35名）
- 剣道部（25名）
- スキー部（14名）
- ラグビー部（29名）
- 山岳部（11名）
- 男子バレーボール部（18名）
- 柔道部（36名）
- バドミントン部（27名）
- ワンダーフォーゲル部（26名）
- ウエイトリフティング部（13名）
- サッカー部（27名）
- 陸上競技部（26名）
- 少林寺拳法部（10名）
- 日本拳法部（7名）
- フルコンタクト空手部（6名）
- 硬式野球部（29名）
- 空手道部（11名）
- アーチェリー部（27名）
- 水泳部酪泳会（25名）
- 硬式テニス部（20名）
- 軟式野球部（27名）
- 女子バスケットボール部（8名）
- フリースタイルスキークラブ（13名）
- 女子バレーボール部（17名）
- North Paddler（7名）
- 卓球部（27名）
- ハンドボール部（40名）
- ビリヤードサークル Number9（17名）
- フットサルサークル「R-Foot」（30名）
- 準硬式野球部（27名）
- 自転車部（28名）
- 女子アイスホッケー部（36名）

※人数は2019年5月現在

サマーアグリキャンプ

サマーアグリキャンプは、本学学生が主催しているイベントです。夏休み中の1週間を使い、全国から集まる高校生と本学学生が一緒に、酪農・野菜・花卉のいずれかの農家で、4日間北海道で農業を体験します。

お申し込み・お問い合わせ

事務局　〒069-8501北海道江別市文京台緑町582番地
酪農学園大学 サマーアグリキャンプ実行委員会
ＦＡＸ　011-386-1506（酪農学園大学 学生支援課 サマーアグリキャンプ 宛）

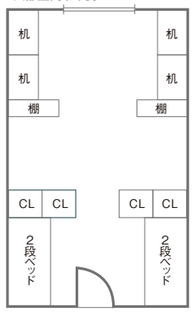
Student Life

暮らし

全国から集まった友人たちとともに
「好き」をかたちにしていくもう一つの場所。
深い付き合いのなかから貴重な経験が得られます。

希望寮［男子寮］

4人部屋間取り例



4人部屋

快適な環境で、学びと友だちづくりができる男子学生寮

「希望寮」はキャンパスの西側にある男子寮です。隣接する附属高校との併設寮という特徴があり、生活時間が異なることから、高校生のスペースと大学生のスペースは完全に分けて配置。上級学年は1人部屋を利用できます。また、共用スペースとして、食堂、談話室、集会室、多目的室、学習室、浴室、洗濯室、乾燥室、フリースペースなど快適な環境が整っています。

談話室で団欒

食堂で仲間と食事

学習室で自習

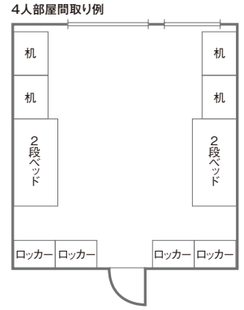
学生寮

色々な面で安心して暮らせるのが寮の魅力。大学の敷地内にあるから通学もラクラク。

4人部屋

清温寮［女子寮］

4人部屋間取り例



学年を超えた輪が広がる、安心・便利な共同女子寮

キャンパスの中心部ほど近くに建つ「清温寮」。1人部屋、2人部屋、4人部屋があり、バランスのとれた食事を提供する食堂や多目的室、無料の洗濯室などが整えられ、充実した学生生活をサポート。寮生が企画運営するイベントや男子寮（希望寮）との交流会も開催されます。学年・学類の枠を超えた友人たちとの共同生活は、成長していくための大きな財産となるでしょう。

ロビーで談笑

一緒にお風呂へ

学習室で自習

暮らし

大学に入学してからはじまる新たな生活。学生に感想を聞いてみました。

Q&A

家賃4万2千円で
広々と快適な一人暮らし

獣医学群 獣医学類 3年
佐波 翔太さん
神奈川県／法政大学第二高校

❶酪農学園大学に来て良かった事ベスト3
1 アイスホッケー部で全国大会に出場した事。
2 人間力が向上した事。（自立せざるを得ない。）
3 北海道の回転寿司がうますぎる事。
❷寒すぎる。神奈川の海が恋しい。
❸大学まで徒歩20分
❹ラルズストア
❺仕送り6万、バイト代3万
❻4万2千円
❼アイスホッケー部

共通QUESTION

❷嫌だった事
❸大学まで徒歩何分？
❹よく行くスーパー
❺生活費（バイト代、仕送り、奨学金）
❻家賃
❼部活

オートロック付なので安心！
コンビニ・駅近で便利！

農食環境学群 環境共生学類 3年
福角 百華さん
宮城県／白石高校

❶一人暮らしをして良かった事ベスト3
1 生活力がついた事。
2 自分の時間が多い事。
3 家族のありがたさを改めて実感できた事。
❷体調を崩したときにも家事をやらないといけない事
❸大学まで徒歩20分
❹ラルズストア
❺仕送り 7万円
❻5万4千円
❼アーチェリー部

ようこそ酪農学園大学へ

オープンキャンパスを紹介!!

まずは受付

学生コンシェルジュから
あなたに合った「今日1日のスケジュール」を
提案してもらおう!
きっとステキな1日になります!!

オープニングイベント

ほぼ満員となる会場！

5学類全ての学生が3分間で
「大学の魅力」紹介！

学類イベント

学食体験

お腹が空いたらおいしい
ランチ! アイスももらえる。

農業高校出身者限定イベント！

じっくり相談してみよう

学生相談

気軽に話せる「カフェスタイル」
のブース

教員相談

入試相談

学生スタッフがあなたの「進路の背中」を押します！

体験見学イベント

※イベント内容は一部変更になることがございます。HPをご確認ください。

フォローしてね！

OCスタッフ
Twitter

OCスタッフ
Instagram

酪農学園大学 大学案内ムービー
「動物たちの証言」

YouTubeで公開中!
https://youtu.be/LGdTsq8ChtU

出張オープンキャンパス in 大阪
9/19(土) 開催

出張オープンキャンパス in 東京
9/21(月・祝) 開催

第1回 オープンキャンパス 6/21(日)
第2回 オープンキャンパス 7/26(日)
第3回 オープンキャンパス 8/22(土)23(日)
開催時間｜各日とも10:00~16:00

※新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、日程が変更となる場合があります。
最新情報は随時ホームページにてご案内いたします。

皆さんこんにちは
オープンキャンパススタッフです
私たちは来てくれる方全員が笑顔で楽しかった!と思いながら帰れるオープンキャンパスを目標にしています
これを見ている皆さんは今進路に悩んでいる真っ最中だと思いますが、大学案内見てワクワクした人!楽しそう
と少しでも感じた人!この先輩に会ってみたい
と思った人!是非オープンキャンパスや説明会に来て私たち学生と話してみてください 私たち学生は大学で体験してきたこと学んだこと良いところ悪いところ包み隠さず話します
遠いので北海道に行くのが不安、一人で行く人いるの?学校までどうやって行けば…などオープンキャンパスや説明会に来る前に不安なことがある方は@rakuno_oc(Twitter)まで気軽に連絡ください 私たち学生がお答えします
遠くてオープンキャンパスまで行けない…日程が合わない…でも話が聞きたい!そんな方の相談もお待ちしています
でもやっぱり直接会ってお話ししたいのが本心です
なので、お時間のある方は北海道の観光がてらオープンキャンパスに来てみてください
最高に楽しいオープンキャンパスをお届けします
皆さんに会えるのを楽しみにしています

白樺祭

Campus Map

キャンパスマップ

私大トップクラスの敷地面積135万㎡

北海道立
野幌総合運動公園

B 附属動物医療センター

野球場

Q 健身館（格技・体育系部室）

グラウンド

D 黒澤記念講堂

O 健民館
（体育施設）

テニスコート

学生サービスセンター（キャリアセンター）

R 緑音館

P 健音館

酪農学園本館（入試広報センター）

E 清温寮（女子寮）

A 酪農生産ステーション

バス停
「酪農学園前」

至江別

道立自然公園
野幌森林公園

F B4 号館

J C1 号館

N 附属図書館

C 中央館（学生ロビー・学生ホール）

I 希望寮（男子寮）

H 食品加工実習室

S 酪農学園ホール（学園生協）

K D1 号館

G 乳製品製造実験実習室

バス停
「酪農学園前」

基礎ゼミ
農園

M 実習棟

L 作物生産ステーション

バス停
「とわの森三愛高校前」

国道12号

バス停
「とわの森三愛高校前」

至札幌・大麻駅

J

C1号館

I

希望寮（男子寮）
詳しくは93ページをご覧ください

H

食品加工実習室
詳しくは21ページをご覧ください

G

乳製品製造実験実習室
詳しくは22ページをご覧ください

F

B4号館

肉畜生産ステーション
所在地／北海道江別市元野幌1107
詳しくは25ページをご覧ください

S

酪農学園ホール（学園生協）

R

緑音館
（音楽系部室）

Q

健身館
（格技・体育系部室）

P

健音館
（音楽・演劇系部室）

E

清温寮（女子寮）
詳しくは93ページをご覧ください

D

黒澤記念講堂

C

中央館
（学生ロビー・学生ホール）

B

附属動物医療センター
詳しくは19ページをご覧ください

A

酪農生産ステーション
詳しくは24ページをご覧ください

O

健民館 ※2020年度竣工
（体育施設・トレーニングセンター）

N

附属図書館

M

実習棟

L

作物生産ステーション
詳しくは26ページをご覧ください

K

D1号館

ACCESS

JR札幌駅から5駅
乗車約15分

酪農学園大学への主な交通機関

(1) 全国主要空港から

- ●仙台空港～新千歳空港（約70分）
- ●羽田空港～新千歳空港（約95分）
- ●中部国際空港～新千歳空港（約105分）
- ●伊丹空港～新千歳空港（約105分）
- ●福岡空港～新千歳空港（約135分）

(2) 新千歳空港から

空港地下のJR新千歳空港駅から「快速エアポート」で
- ●JR札幌駅（約40分）下車→(3)参照
- ●JR新札幌駅（約30分）下車→(4)参照

(3) JR札幌駅・札幌市営地下鉄さっぽろ駅から

- ●JR札幌駅から函館本線江別・岩見沢方面行き「普通列車」（約15分）に乗車し JR大麻駅下車→大麻駅南口から徒歩約15分
- ●札幌市営地下鉄さっぽろ駅から南北線真駒内方面行き（約2分）に乗車し大通駅下車 →東西線新さっぽろ方面行き（約19分）に乗車し新さっぽろ駅下車→(4)参照

(4) JR新札幌駅・札幌市営地下鉄新さっぽろ駅から

■バス会社：ジェイ・アール北海道バス
下車停留所：酪農学園前（国道12号沿いのバス停）
新札幌バスターミナル・北レーン10番乗り場より下記のバスにご乗車ください。
[新25] 行先／ゆめみ野東町
[新26] 行先／野幌駅北口・江別駅
[新27] 行先／江別市立病院
[新29] 行先／情報大学前・野幌運動公園
※乗車時間は約15分。下車後、徒歩約10分にて本学に到着。

■バス会社：夕鉄バス
下車停留所：酪農学園前（構内）（本学敷地内のバス停）
新札幌バスターミナル・北レーン12番乗り場より下記のバスにご乗車ください。
[札　幌　線] 行先／あけぼの団地昭光福祉会前
[札幌代行線] 行先／南幌東町
※乗車時間は約15分。

■バス会社：夕鉄バス
下車停留所：酪農学園前（国道12号沿いのバス停）
新札幌バスターミナル・北レーン12番乗り場より下記のバスにご乗車ください。
[札幌代行線] 行先／栗山駅前
※乗車時間は約15分。下車後、徒歩約10分にて本学に到着。

Japan Institution for Higher Education Evaluation
JIHEE since 2004
UNIVERSITY 2014

酪農学園大学は、2014年度（公財）日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価において大学評価基準に適合していると認定されました。

酪農学園大学公式サイト

酪農学園大学受験生専用サイト

公式Facebook

公式LINE

公式Instagram

公式Twitter

生きるを学ぶ。学びが生きる。
酪農学園大学

■農食環境学群 循環農学類 食と健康学類 環境共生学類
■獣　医　学　群 獣医学類 獣医保健看護学類
■大　学　院 獣医学研究科 酪農学研究科

https://www.rakuno.ac.jp
〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582番地
入試広報センター
TEL (011)388-4138　0120-771-663
FAX (011)386-1220

【障がいのある方への支援について】受験や就学については、事前にご相談ください。

酪農学園大学では、健康増進法の第25条に受動喫煙防止が規定されたことを受け、教育・研究・医療機関としての法の精神に鑑みて、2011年4月1日から敷地内を全面禁煙としています。